

IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

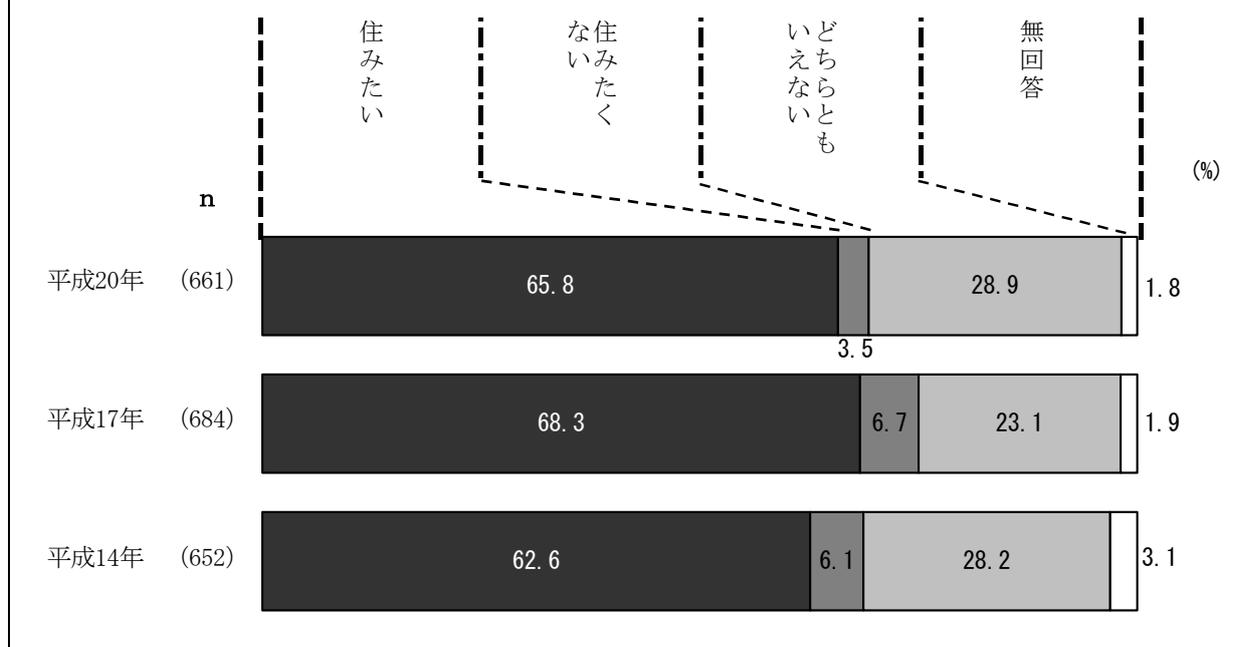
1 居住継続意思

(1) 定住意向

問1 あなたは、今後とも清瀬市に住みたいと思いますか。

[n=661]

<図1-1：定住意向・経年比較>



【全体・経年比較】

全体では、「住みたい」が65.8%と最も多く、「住みたくない」の3.5%を大きく上回る。なお、「どちらともいえない」は28.9%となっている。

前回調査(平成17年)と比較すると、「住みたい」が2.5ポイント減少している。

前々回調査(平成14年)からの経年変化をみると、「住みたい」は65%前後で推移しているといえる。

【性別・年齢別・町名別・居住年数別】

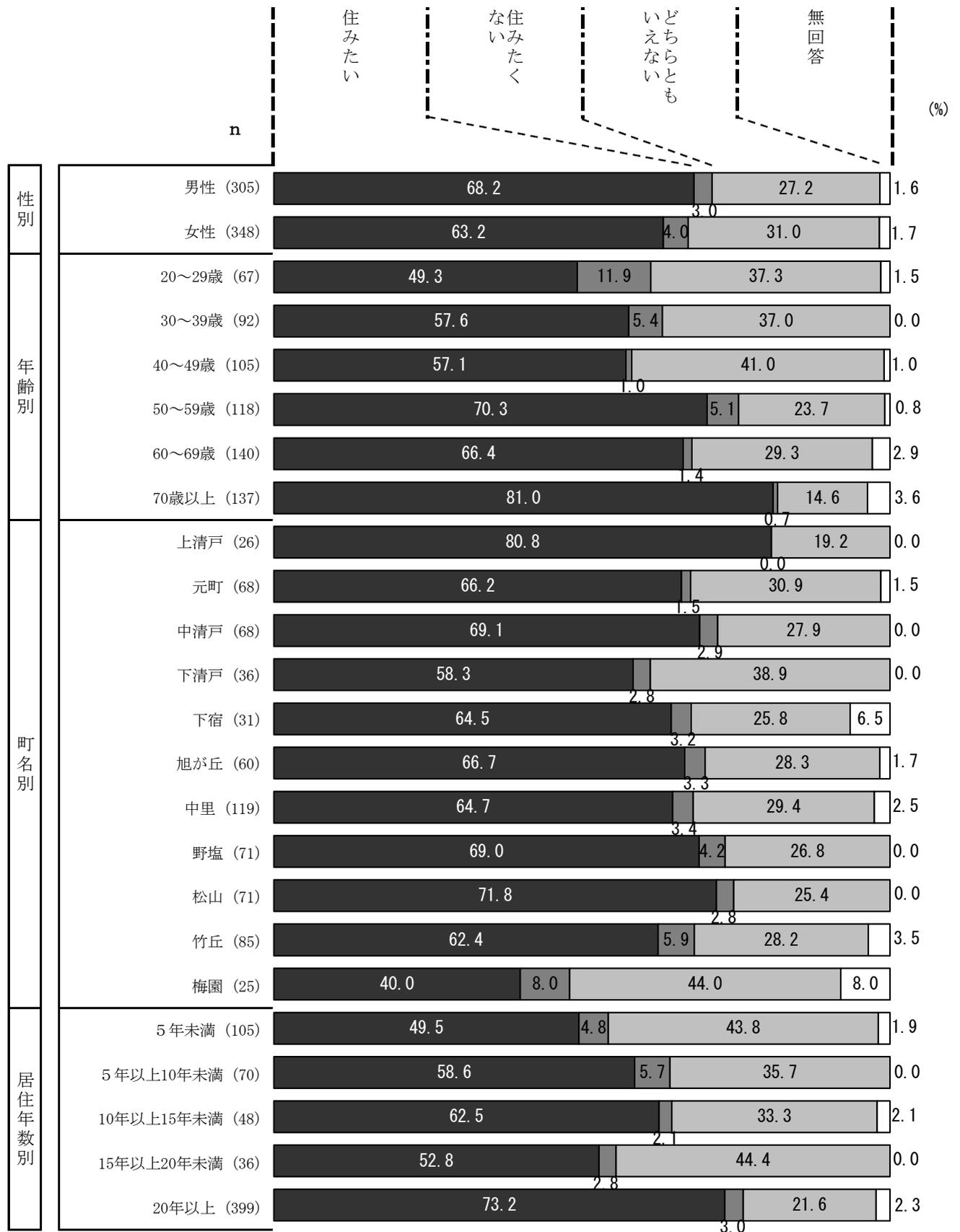
性別では、特に大きな差異はみられないが、「住みたい」は男性でやや多くなっている。

年齢別でみると、「住みたい」は70歳以上が81.0%と最も高く、次いで50歳代が70.3%で続いている。他方、「住みたくない」は、20歳代が11.9%と最も高く、次いで30歳代が5.4%、50歳代が5.1%となっている。

町名別でみると、「住みたい」が最も高いのは上清戸で80.8%と最も高く、松山が71.8%、中清戸が69.1%、野塩が69.0%と続いている。他方、最も低いのは梅園の40.0%となっている。

居住年数別でみると、20年以上で「住みたい」が73.2%であり、他の居住年数と比較して高くなっている。

< 図1-2:性別・年齢別・町名別・居住年数別 >

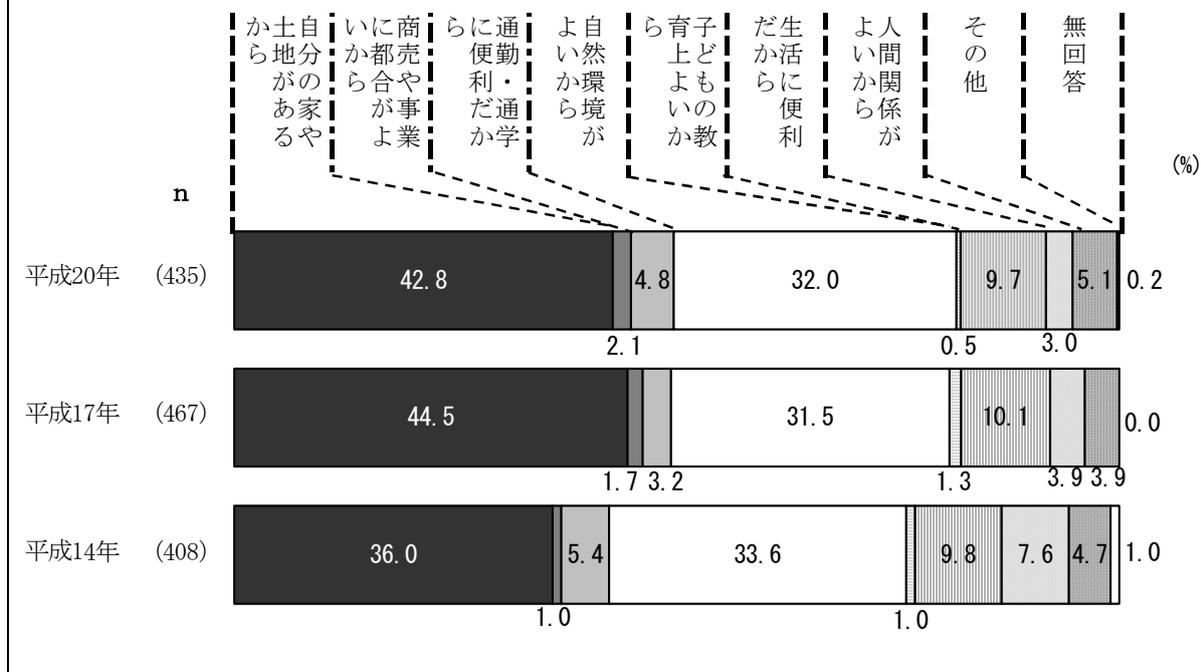


(2) 住みたい理由

S Q 1 問1で「①住みたい」とお答えの方にはうかがいます。その理由をお聞かせください。

[n = 435]

<図1-3：住みたい理由・経年比較>



【全体・経年比較】

問1で「住みたい」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「自分の家や土地があるから」が42.8%と最も高く、次いで「自然環境がよいから」の32.0%となっており、この上位2項目で全体の74.8%を占めている。また、「生活に便利だから」は9.7%となっている。

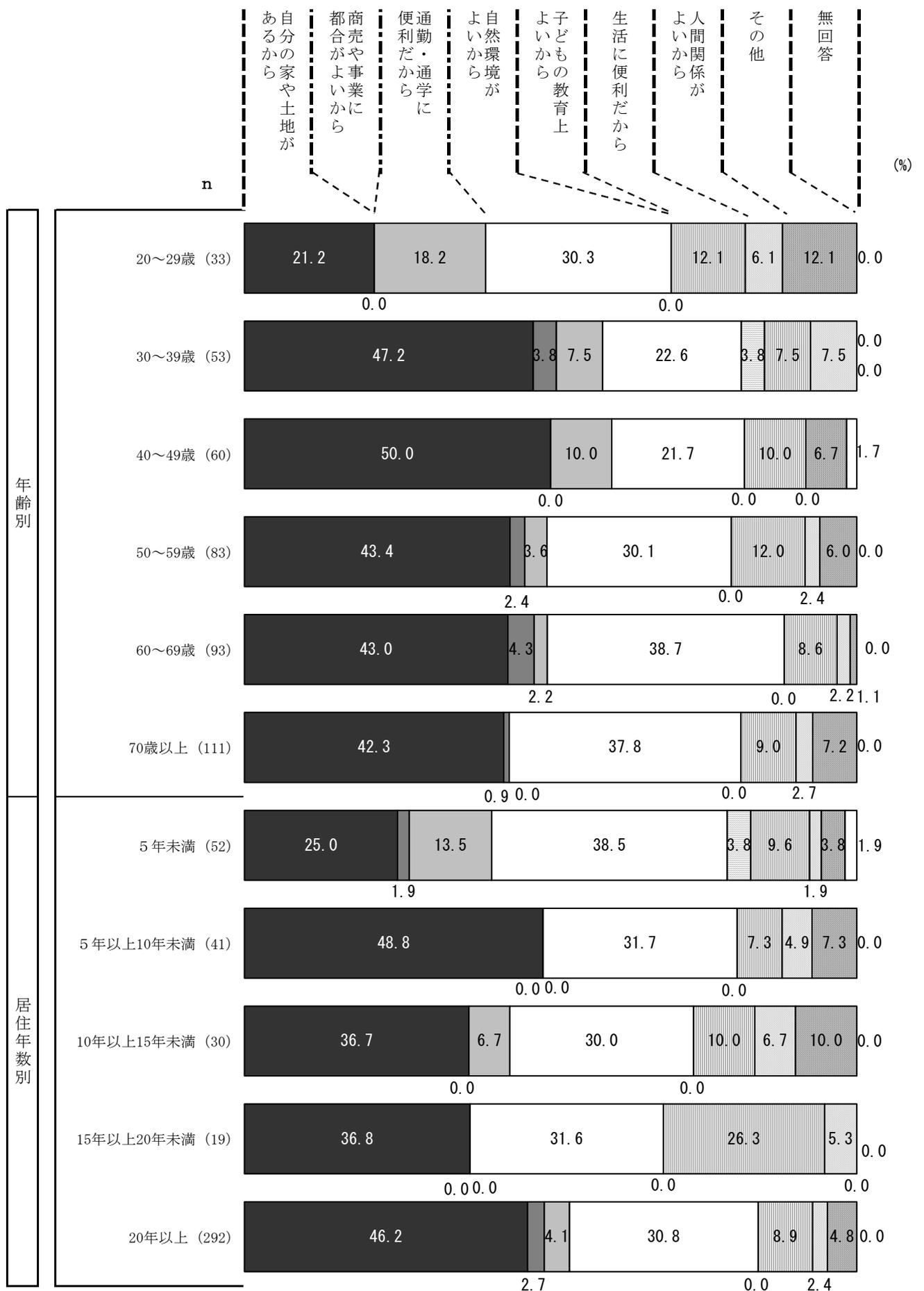
経年変化でみると、「自分の家や土地があるから」が前々回調査（平成14年）から6.8ポイント増加しているが、前回調査（平成17年）からは1.7ポイントと僅かではあるが減少している。その他の項目については特に大きな数値の変化はみられない。

【年齢別・居住年数別】

年齢別でみると、「自分の家や土地があるから」は40歳代が50.0%と最も高く、30歳代で47.2%と高い数値を示している。また、「自然環境がよいから」は60歳代で38.7%、70歳以上で37.8%と他の年齢層よりも高くなっている。

居住年数別でみると、「自分の家や土地があるから」は5年以上10年未満が48.8%と最も高く、次いで20年以上が46.2%と続いている。また、「生活に便利だから」は15年以上20年未満で26.3%と他の居住年数よりも高くなっている。

< 図1-4：住みたい理由・年齢別・居住年数別 >

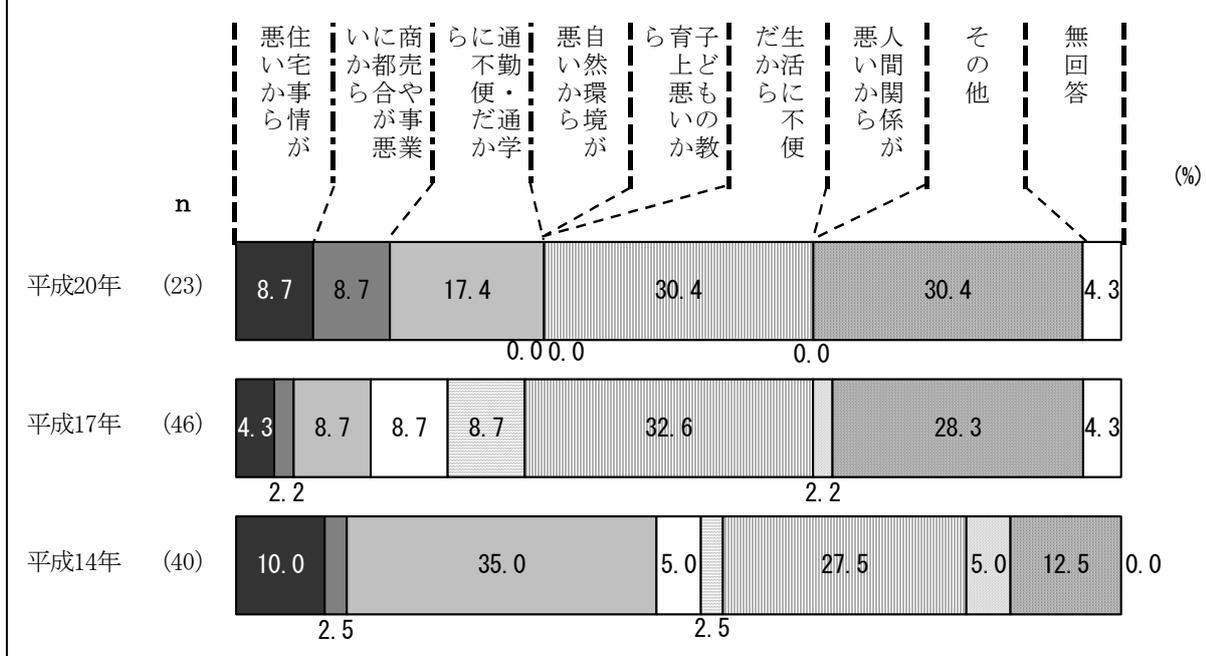


(3) 住みたくない理由

SQ2 問1で「②住みたくない」とお答えの方にはうかがいます。その理由をお聞かせください。

[n=23]

<図1-5：住みたくない理由・経年比較>



【全体・経年比較】

問1で「住みたくない」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「生活に不便だから」が30.4%と最も高くなっている。

経年変化でみると、「通勤・通学に不便だから」は前回調査（平成17年）では8.7%と前々回調査から26.3ポイント減少したが、今回の調査では17.4%であり、前回調査から8.7ポイント増加している。

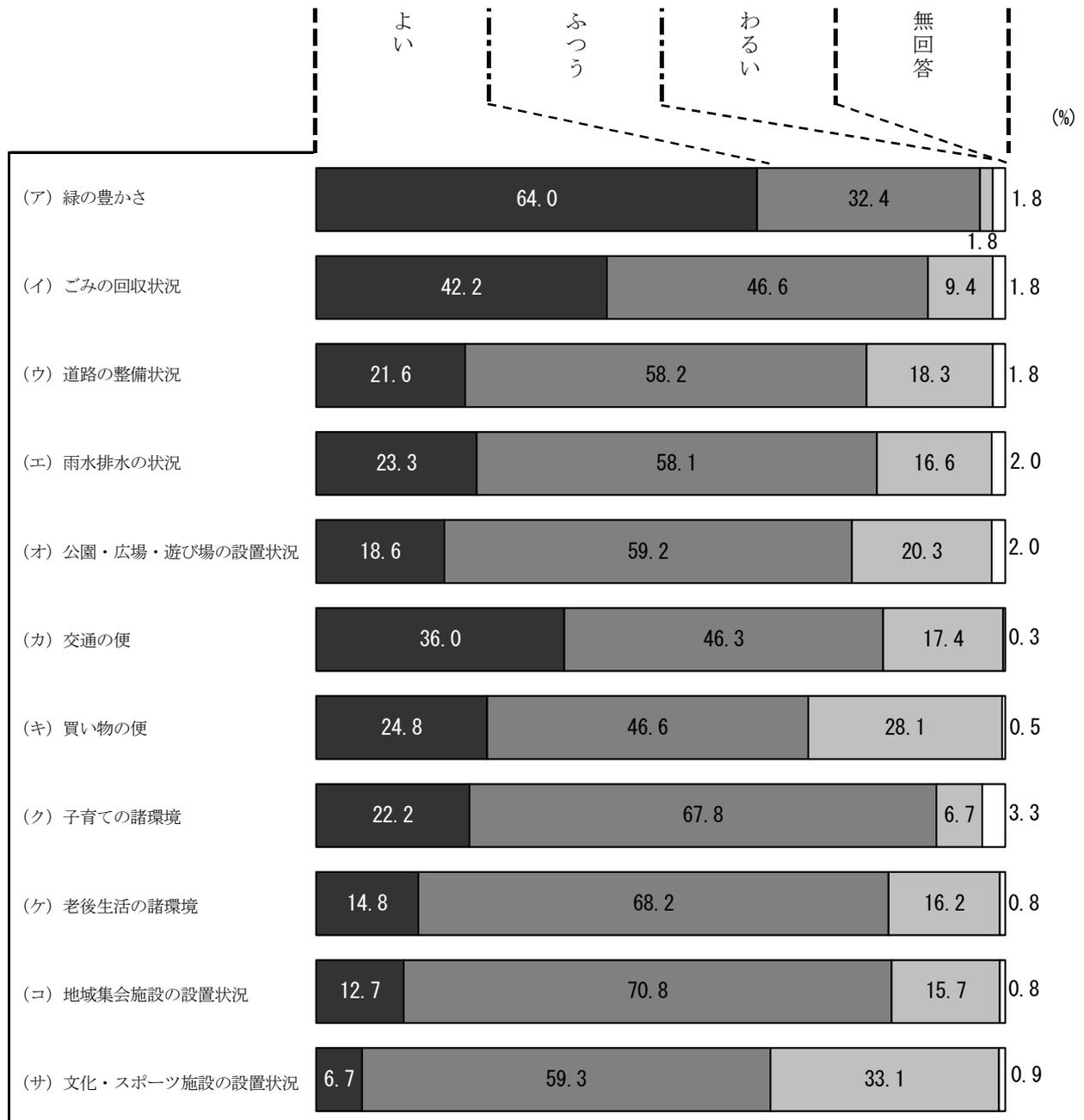
2 生活環境評価

(1) 生活環境評価

問2 あなたの身近な生活環境についてうかがいます。(ア)～(サ)の各項目について、あなたの率直な気持ちをお聞かせ下さい。

[n=661]

<図2-1：生活環境評価>



身近な生活環境を（ア）～（サ）までの11の項目に分け、それぞれの評価をたずねた。

「よい」との評価を満足、「わるい」を不満足として、それぞれの上位5項目をあげると次のようになる。

| ◎満足 | | ×不満足 | |
|----------|---------|-----------------|---------|
| ①緑の豊かさ | (64.0%) | ①文化・スポーツ施設の設置状況 | (33.1%) |
| ②ごみの回収状況 | (42.2%) | ②買い物の便 | (28.1%) |
| ③交通の便 | (36.0%) | ③公園・広場・遊び場の設置状況 | (20.3%) |
| ④買い物の便 | (24.8%) | ④道路の整備状況 | (18.3%) |
| ⑤雨水排水の状況 | (23.3%) | ⑤交通の便 | (17.4%) |

<加重平均値>

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「よいの回答者数」} \times 10 \text{ 点} + \text{「わるいの回答者数」} \times \blacktriangle 10 \text{ 点}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は+10.00点～▲10.00点の間に分布し中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど「よい」との評価は高くなり、逆に▲10.00点に近くなるほど「わるい」との評価が高くなる。

これによる評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

| ◎満足 | | ×不満足 | |
|----------|-------|-----------------|-------|
| ①緑の豊かさ | +6.33 | ①文化・スポーツ施設の設置状況 | ▲2.67 |
| ②ごみの回収状況 | +3.34 | ②買い物の便 | ▲0.33 |
| ③交通の便 | +1.87 | ③地域集会施設の設置状況 | ▲0.30 |
| ④子育ての諸環境 | +1.61 | ④公園・広場・遊び場の設置状況 | ▲0.17 |
| ⑤雨水排水の状況 | +0.68 | ⑤老後生活の諸環境 | ▲0.14 |

11項目の合計点を市全体及び町名別で比較すると次のようになる。

| | | | |
|---------|-------|-----|-------|
| 市全体の合計点 | 10.55 | | |
| ①上清戸 | 27.22 | ⑦中里 | 3.81 |
| ②元町 | 19.80 | ⑧野塩 | 7.46 |
| ③中清戸 | 13.41 | ⑨松山 | 14.11 |
| ④下清戸 | 2.58 | ⑩竹丘 | 12.56 |
| ⑤下宿 | 6.93 | ⑪梅園 | 2.49 |
| ⑥旭が丘 | 10.08 | | |

＜表 2 - 1 : 町名別加重平均値＞

| | 生 活 環 境 | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|-----------|-------------|-------------|-------------|--------------------|----------|----------|-------------|--------------|-----------------|--------------------|
| | (ア) (サ)までの合計点 | (ア) 緑の豊かさ | (イ) ごみの回収状況 | (ウ) 道路の整備状況 | (エ) 雨水排水の状況 | (オ) 公園・広場・遊び場の設置状況 | (カ) 交通の便 | (キ) 買い物便 | (ク) 子育ての諸環境 | (ケ) 老後生活の諸環境 | (コ) 地域集会施設の設置状況 | (サ) 文化・スポーツ施設の設置状況 |
| 市全体 (平成 20 年) | 10.55 | 6.33 | 3.34 | 0.34 | 0.68 | ▲ 0.17 | 1.87 | ▲ 0.33 | 1.61 | ▲ 0.14 | ▲ 0.30 | ▲ 2.67 |
| 市全体 (平成 17 年) | 8.07 | 5.63 | 4.73 | 0.09 | 0.77 | ▲ 0.98 | 0.85 | ▲ 0.42 | 1.09 | 0.02 | ▲ 0.48 | ▲ 3.22 |
| 上清戸 | 27.22 | 7.69 | 4.62 | 2.69 | 4.23 | 0.38 | 4.62 | 1.20 | 2.17 | 0.00 | 0.00 | ▲ 0.38 |
| 元町 | 19.80 | 5.22 | 3.13 | 0.90 | 0.75 | ▲ 1.34 | 7.21 | 3.73 | 1.38 | 0.74 | 0.15 | ▲ 2.06 |
| 中清戸 | 13.41 | 5.74 | 2.06 | 0.29 | 0.29 | 2.06 | 0.44 | ▲ 1.18 | 2.81 | 0.75 | 1.19 | ▲ 1.04 |
| 下清戸 | 2.58 | 7.22 | 2.22 | 1.67 | 0.28 | ▲ 2.50 | ▲ 1.39 | ▲ 3.06 | 2.86 | ▲ 0.56 | ▲ 0.28 | ▲ 3.89 |
| 下宿 | 6.93 | 7.93 | 5.17 | 2.07 | 0.34 | 0.34 | ▲ 4.52 | ▲ 4.52 | 3.00 | ▲ 2.90 | 0.00 | 0.00 |
| 旭が丘 | 10.08 | 6.61 | 3.39 | 0.34 | 1.36 | 0.00 | 2.00 | ▲ 1.83 | 1.25 | ▲ 1.00 | ▲ 0.17 | ▲ 1.86 |
| 中里 | 3.81 | 7.24 | 2.84 | 0.60 | ▲ 0.52 | ▲ 0.17 | ▲ 1.10 | ▲ 2.88 | 2.12 | 0.08 | ▲ 0.93 | ▲ 3.47 |
| 野塩 | 7.46 | 6.76 | 3.24 | ▲ 1.41 | 0.42 | ▲ 2.82 | 3.57 | 1.83 | 0.14 | 0.28 | ▲ 0.85 | ▲ 3.71 |
| 松山 | 14.11 | 4.65 | 4.23 | ▲ 1.69 | 0.43 | 0.57 | 4.79 | 3.38 | 0.58 | ▲ 0.42 | ▲ 0.14 | ▲ 2.25 |
| 竹丘 | 12.56 | 6.46 | 4.15 | 1.22 | 2.20 | 1.22 | 1.88 | ▲ 1.18 | 1.67 | ▲ 0.24 | ▲ 0.48 | ▲ 4.34 |
| 梅園 | 2.49 | 4.78 | 3.04 | ▲ 0.87 | ▲ 0.87 | ▲ 0.43 | 1.60 | 0.40 | 0.43 | 0.00 | ▲ 2.00 | ▲ 3.60 |

～生活環境評価の比較（加重平均値）～

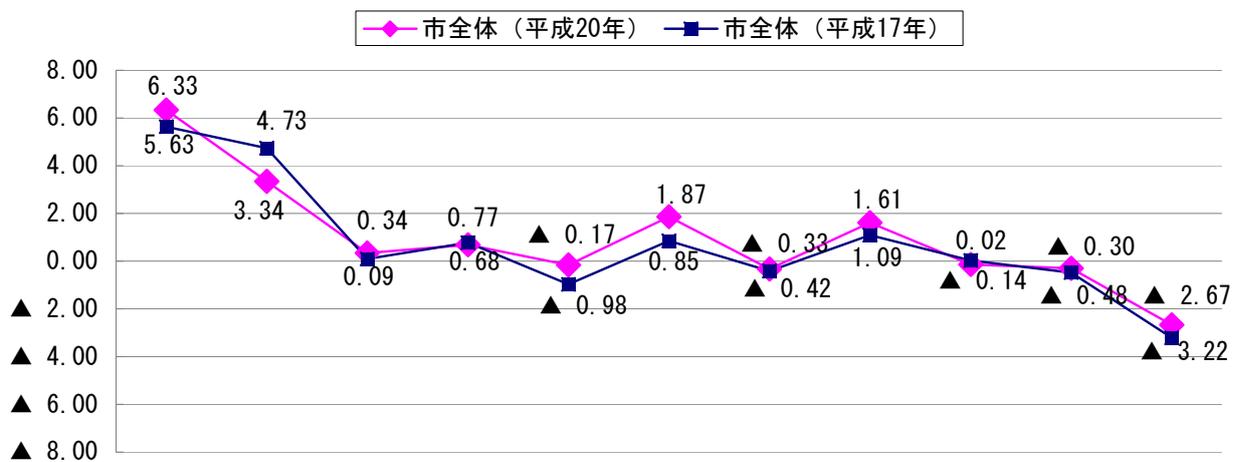
【全体・経年比較・町名別】

前回調査（平成17年）と比較すると、「ごみの回収状況」が1.39点減少し、「交通の便」が1.02点増加した。

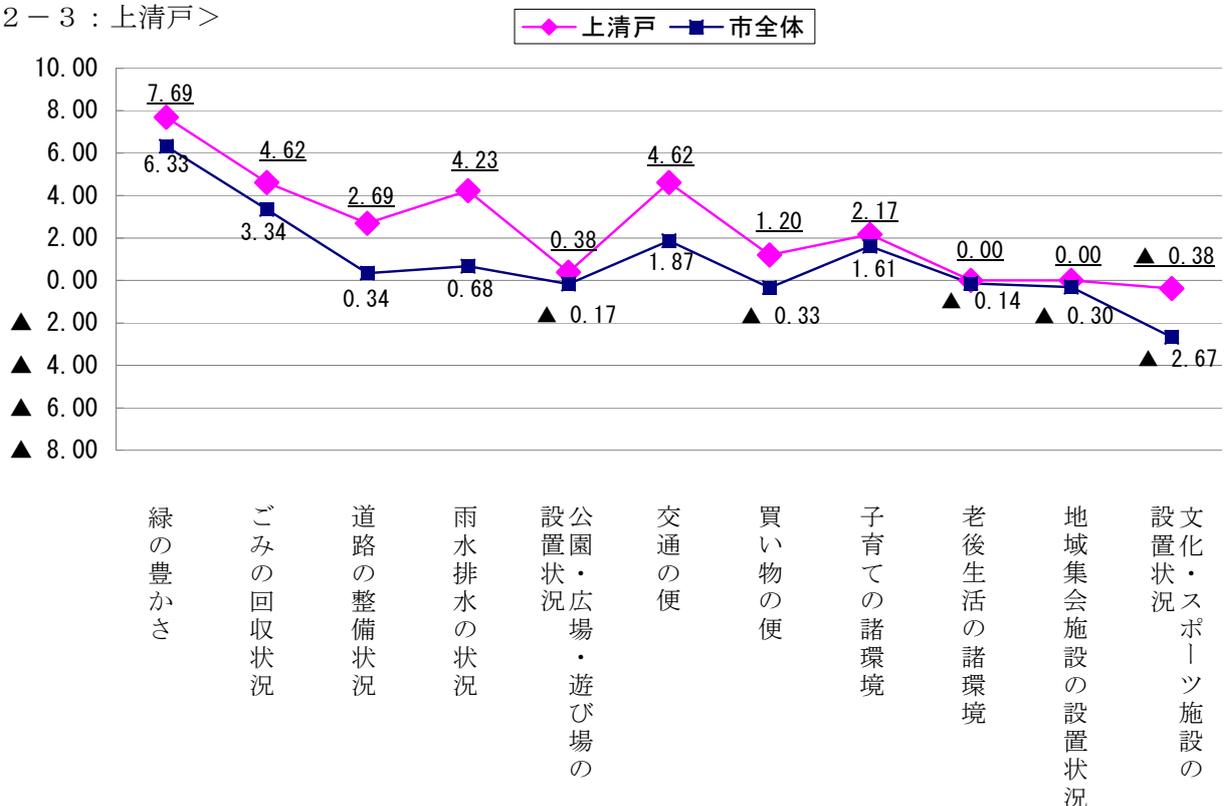
上清戸

☆上回るもの・・・11項目全てが市全体を上回っており、差が大きいものとしては、「雨水排水の状況」の3.55点差、「交通の便」の2.75点差、「道路の整備状況」の2.35点差があげられる。

<図2-2：経年比較>



<図2-3：上清戸>



元町

☆上回るもの・・・11項目中8項目が市全体を上回っており、差が大きいものには、「交通の便」の5.34点差、「買い物の便」の3.40点差があげられる。

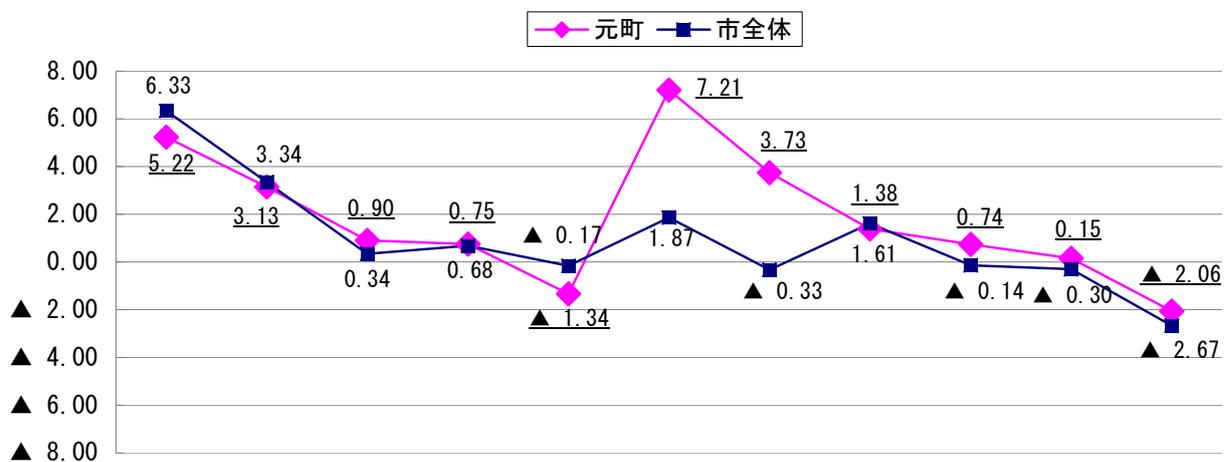
☆下回るもの・・・11項目中3項目が市全体を下回っているが、特に大きな差はみられない。

中清戸

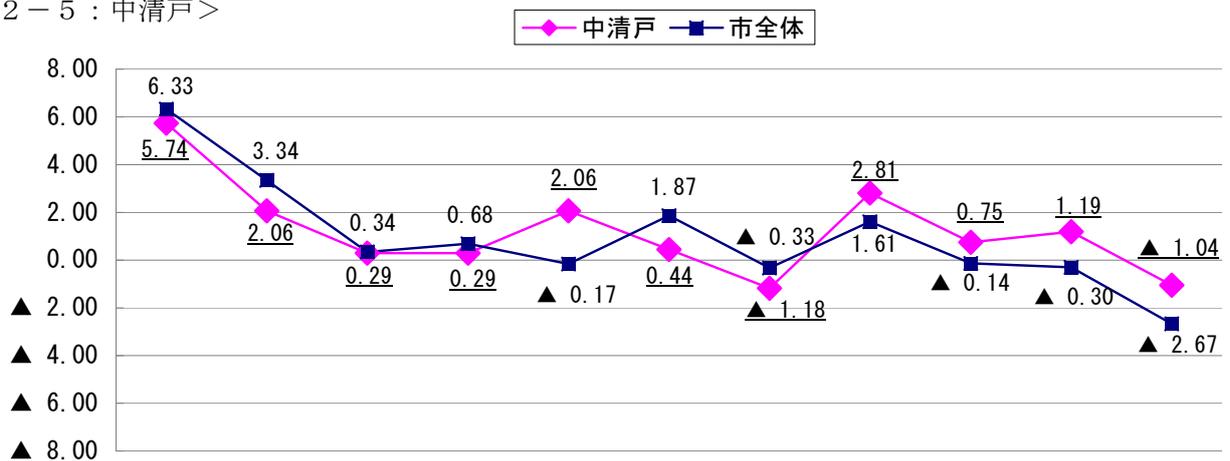
☆上回るもの・・・11項目中5項目で市全体を上回り、その中でも「公園・広場・遊び場の設置状況」は2.23点差と差が大きくなっている。

☆下回るもの・・・11項目中6項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「交通の便」の1.43点差、「ごみの回収状況」の1.28点差があげられる。

<図2-4：元町>



<図2-5：中清戸>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

下清戸

☆上回るもの・・・11項目中4項目が市全体を上回り、その中でも「道路の整備状況」の1.33点差、「子育ての諸環境」の1.25点差が比較的大きい。

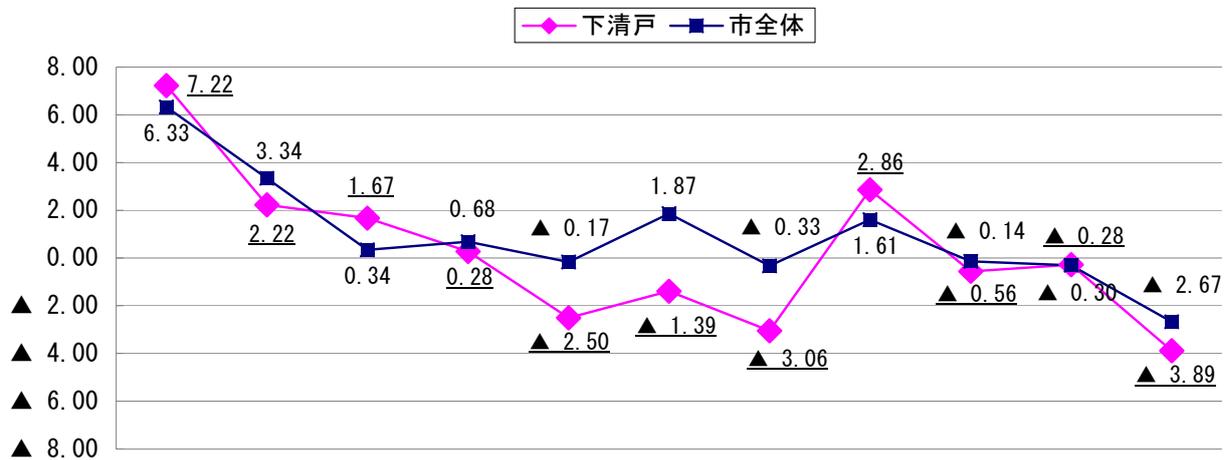
☆下回るもの・・・11項目中7項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「交通の便」の3.26点差、「買い物の便」の2.73点差と続いている。

下宿

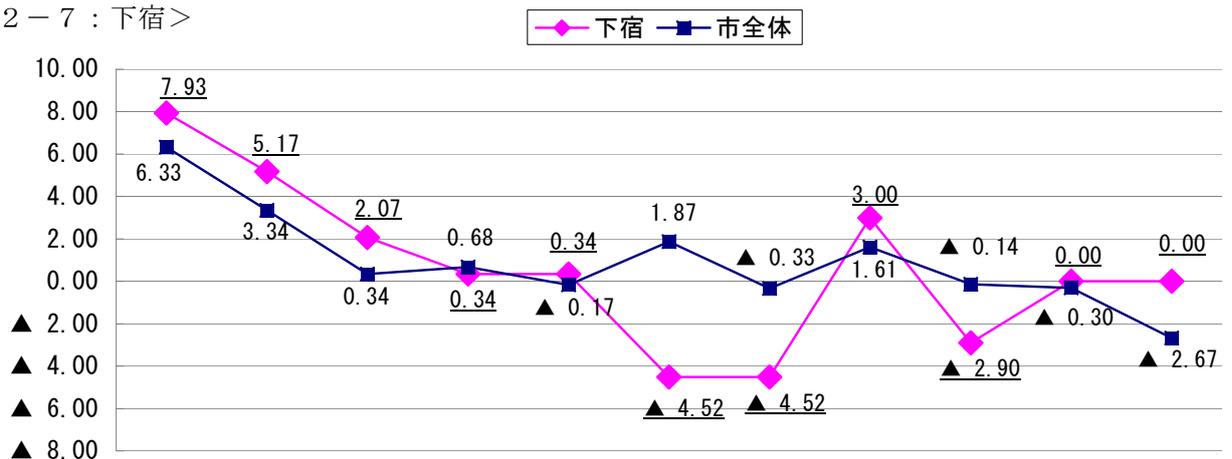
☆上回るもの・・・11項目中7項目で市全体を上回り、差が大きいものには、「ごみの回収状況」の1.83点差、「道路の整備状況」の1.73点差、「緑の豊かさ」の1.60点差となっている。

☆下回るもの・・・11項目中4項目で市全体を下回っており、その中でも「交通の便」は6.39点差、「買い物の便」は4.19点差と差が大きい。

<図2-6：下清戸>



<図2-7：下宿>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

旭が丘

☆上回るもの・・・11項目中7項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

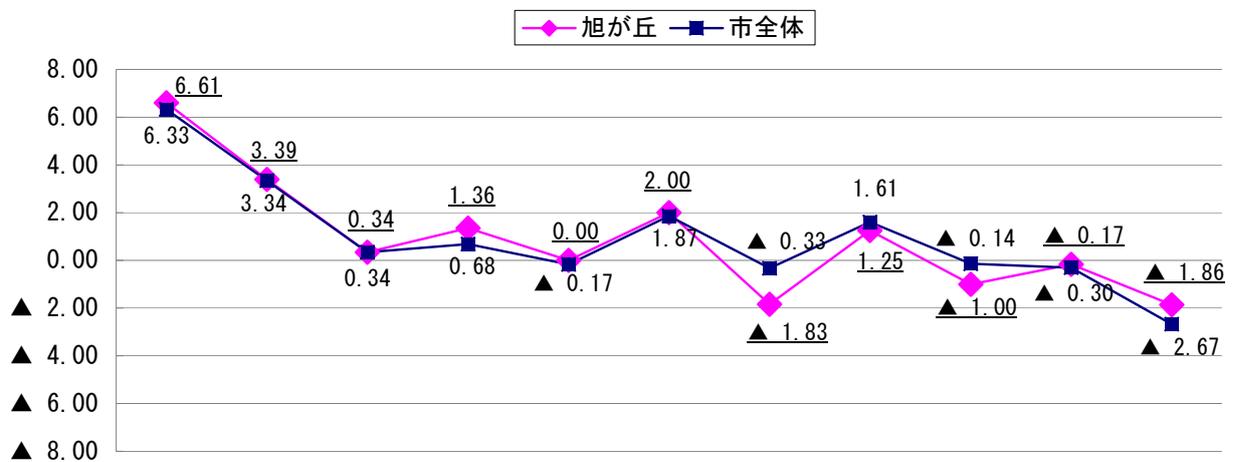
☆下回るもの・・・11項目中3項目が市全体を下回っており、その中で「買い物の便」が1.50点差となっている。

中里

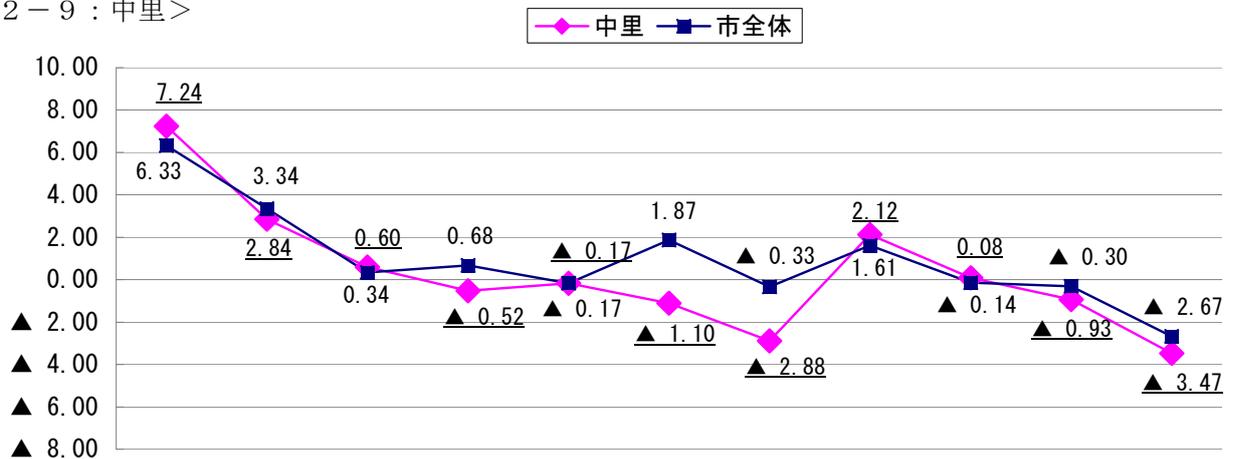
☆上回るもの・・・11項目中4項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

☆下回るもの・・・11項目中6項目が市全体を下回っており、その中で比較的差が大きいのは「交通の便」の2.97点差、「買い物の便」の2.55点差となっている。

<図2-8：旭が丘>



<図2-9：中里>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

野塩

☆上回るもの・・・11項目中4項目が市全体を上回っており、その中でも差が大きいものとしては「買い物の便」の2.16点差があげられる。

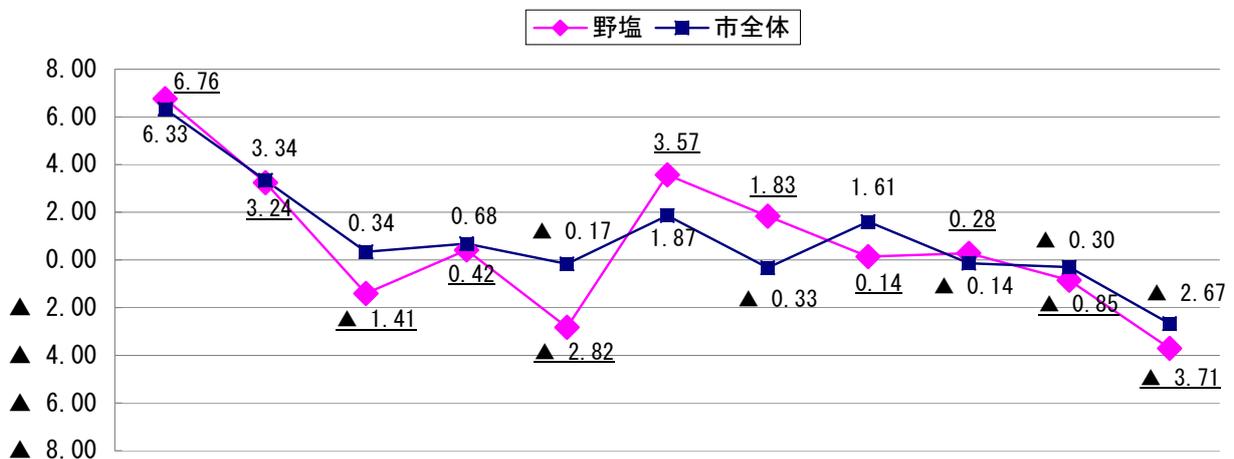
☆下回るもの・・・11項目中7項目で市全体を下回っており、その中でも差が大きいものとしては「公園・広場・遊び場の設置状況」の2.65点差があげられる。

松山

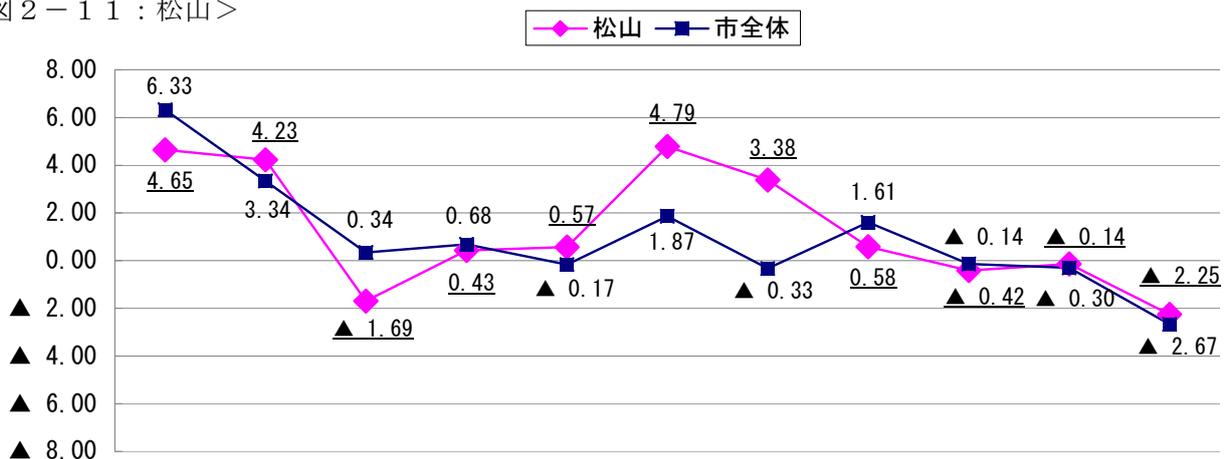
☆上回るもの・・・11項目中6項目が市全体を上回り、特に「買い物の便」、「交通の便」においては前者において3.71点、後者において2.92点の差がある。

☆下回るもの・・・11項目中5項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「道路の整備状況」の2.03点差、「緑の豊かさ」の1.68点差があげられる。

<図2-10：野塩>



<図2-11：松山>



緑の豊かさ
ごみの回収状況
道路の整備状況
雨水排水の状況
公園・広場・遊び場の設置状況
交通の便
買い物の便
子育ての諸環境
老後生活の諸環境
地域集会施設の設置状況
文化・スポーツ施設の設置状況

竹丘

☆上回るもの・・・11項目中7項目が市全体を上回っており、差が大きいものには「雨水排水の状況」の1.52点差、「公園・広場・遊び場の設置状況」の1.39点差があげられる。

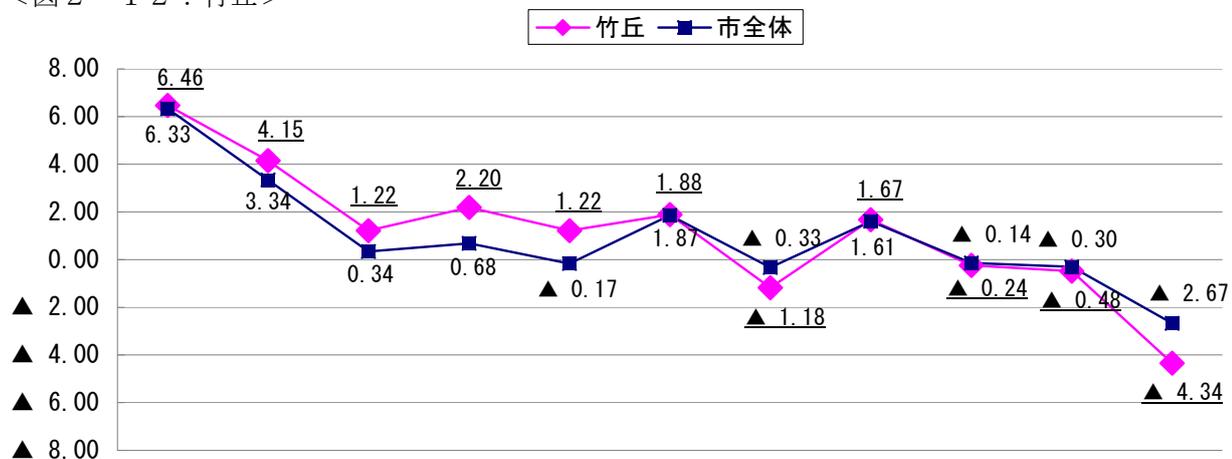
☆下回るもの・・・11項目中4項目が市全体を下回っており、「文化・スポーツ施設の設置状況」は1.67点差と比較的大きい。

梅園

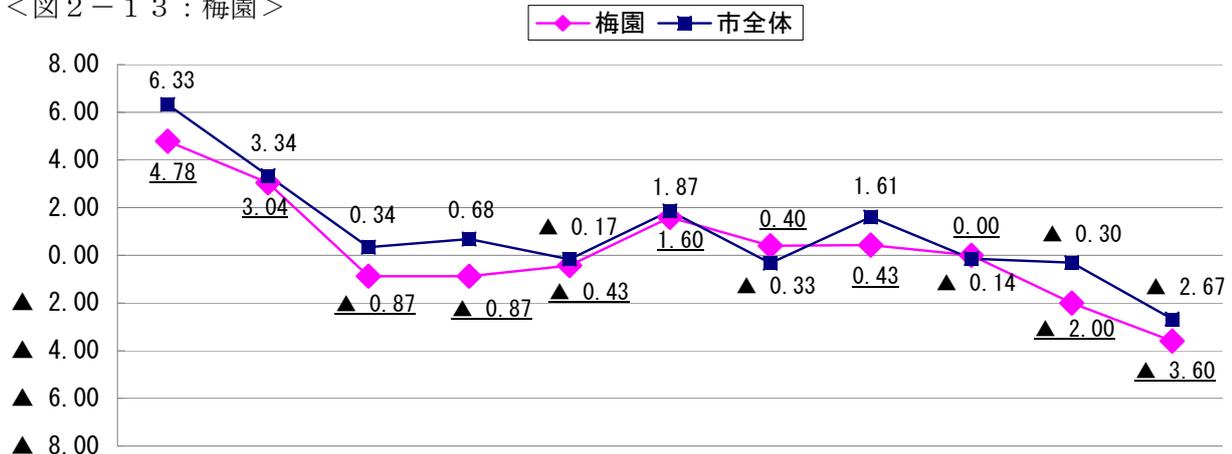
☆上回るもの・・・11項目中2項目が市全体を上回っているが、特に大きな差はみられない。

☆下回るもの・・・11項目中9項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「地域集会施設の設置状況」の1.70点差、「雨水排水の状況」の1.55点差があげられる。

<図2-12: 竹丘>

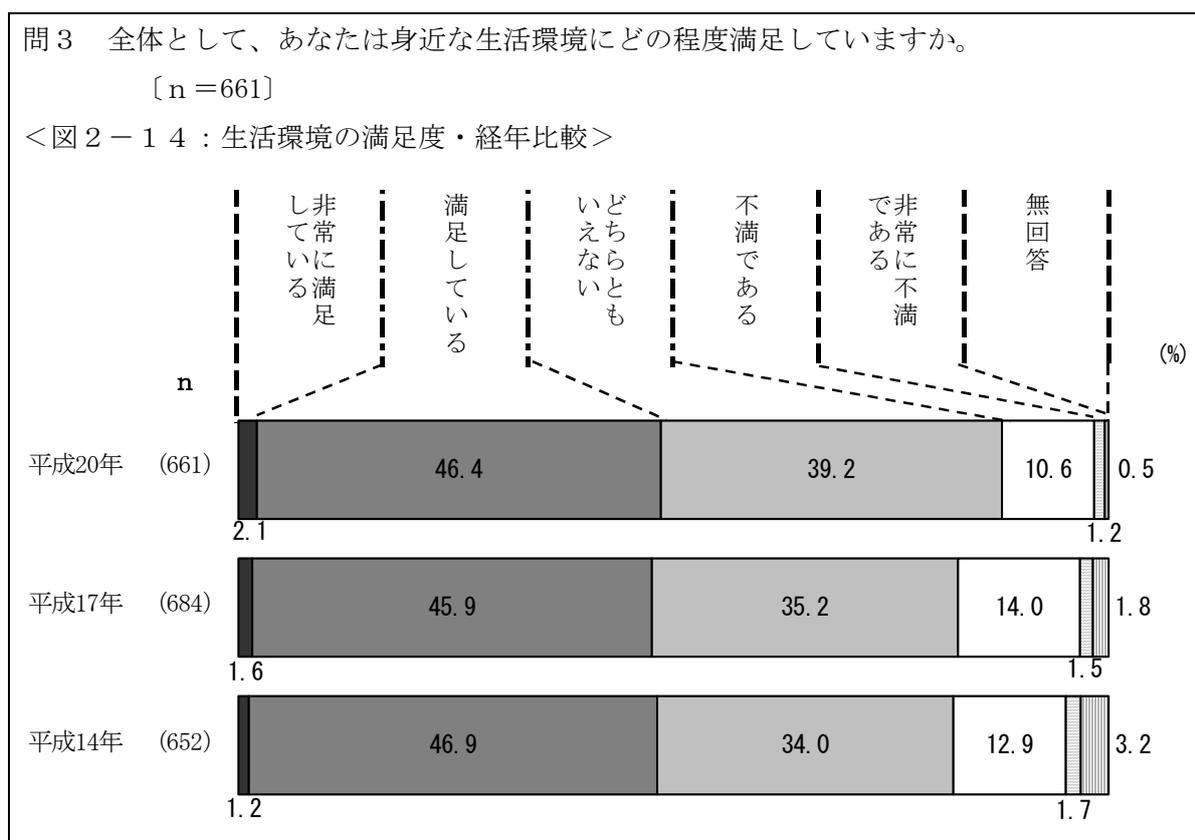


<図2-13: 梅園>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

(2) 生活環境の満足度



【全体・経年比較】

身近な生活環境の満足度についてしてみると、「非常に満足している」は2.1%と少数であるが、「満足している」とあわせた『満足派』は48.5%になる。また、「不満である」と「非常に不満である」をあわせた『不満足派』は、11.8%にとどまっている。

前回調査（平成17年）及び前々回調査（平成14年）と比較すると大きな変化はみられないが、「不満である」と「非常に不満である」をあわせた『不満足派』は前回調査の15.5%から3.7ポイント減少している。

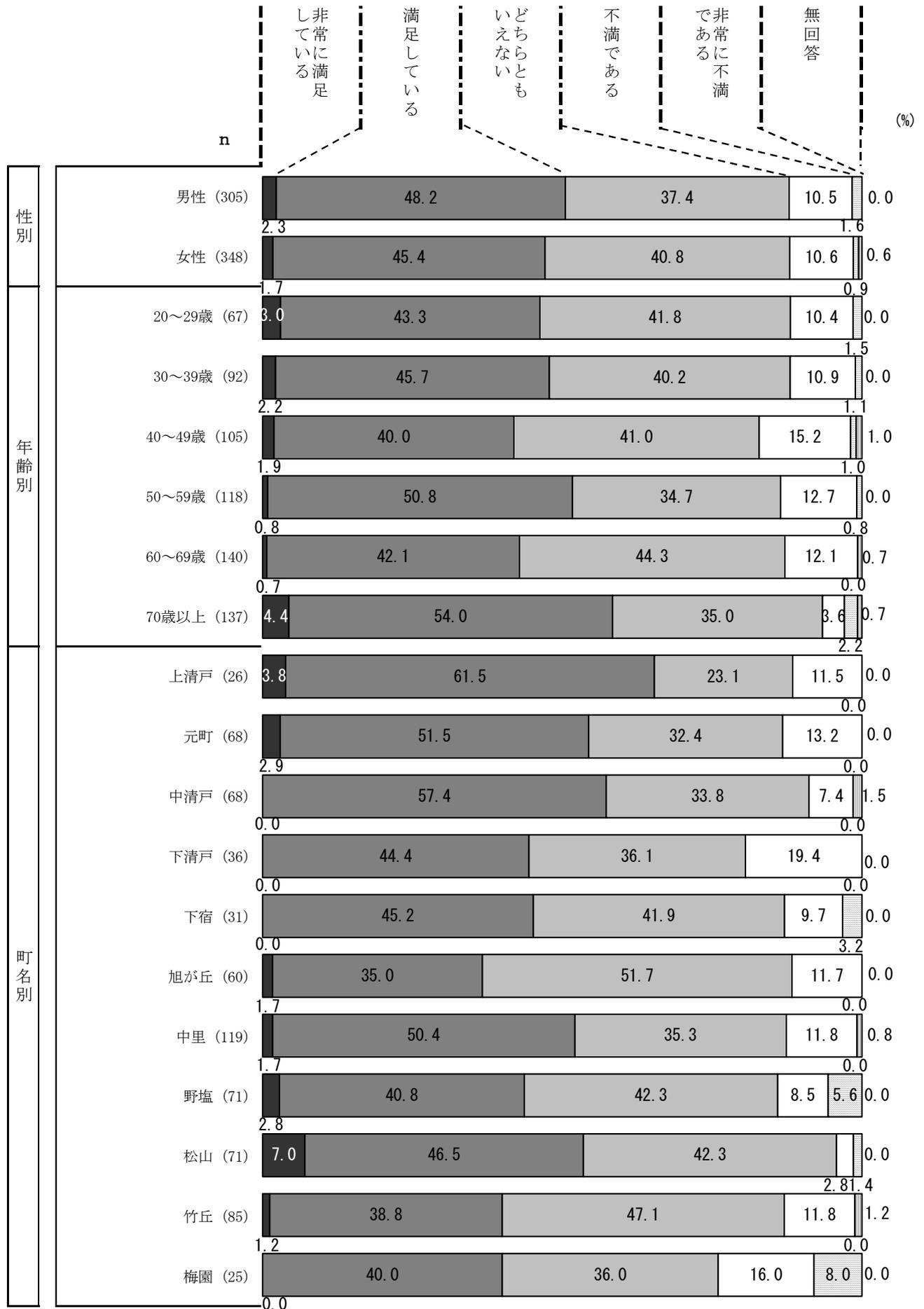
【性別・年齢別・町名別】

性別では、男性の方が女性よりも『満足派』が3.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『満足派』は70歳以上が58.4%で最も高く、次いで50歳代が51.6%が続いている。逆に、『不満足派』は40歳代が16.2%で最も高く、次いで50歳代が13.5%が続いている。他方、70歳以上では『不満足派』が5.8%と低くなっている。

町名別では、『満足派』は上清戸が65.3%と最も高く、中清戸が57.4%でそれに続く。逆に、『不満足派』は、梅園が24.0%と最も高く、下清戸が19.4%が続いている。

<図 2-15 : 性別・年齢別・町名別>



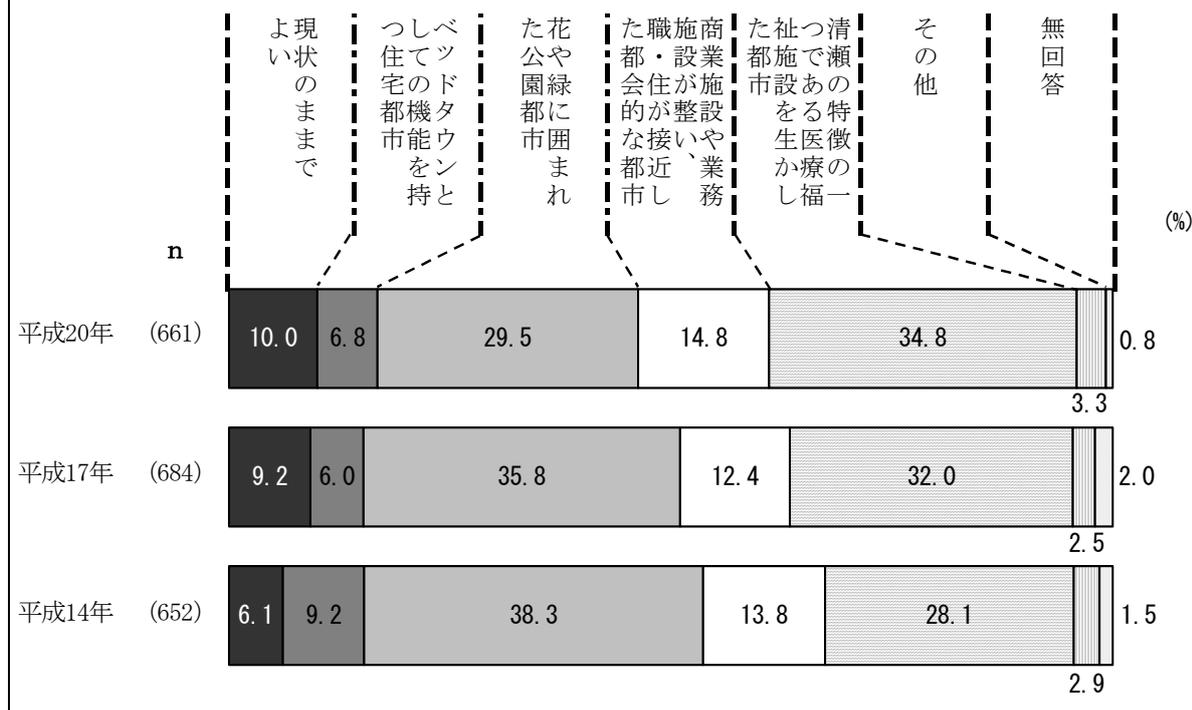
3 将来のまちのイメージ

(1) 市の将来像

問4 清瀬市は、みどり豊かな文化都市を未来像にまちづくりを進めています。あなたは将来清瀬市がどのような都市になるのが望ましいとお考えですか。

[n=661]

<図3-1：市の将来像・経年比較>



【全体・経年比較】

市の将来像としては、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」が34.8%と最も高く、これに「花や緑に囲まれた公園都市」が29.5%と続き、上位2項目で64.3%を占めている。また、「商業施設や業務施設が整い、職・住が接近した都会的な都市」が14.8%となっている。

経年変化でみると、「花や緑に囲まれた公園都市」が前回調査（平成17年）では35.8%、前々回調査（平成14年）では38.3%であったが、今回は29.5%と前回調査及び前々回調査からそれぞれ6.3ポイント、8.8ポイント減少している。他方、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は前回調査（平成17年）では32.0%、前々回調査（平成14年）では28.1%であったが、今回は34.8%と前回調査及び前々回調査からそれぞれ2.8ポイント、6.7ポイント増加している。

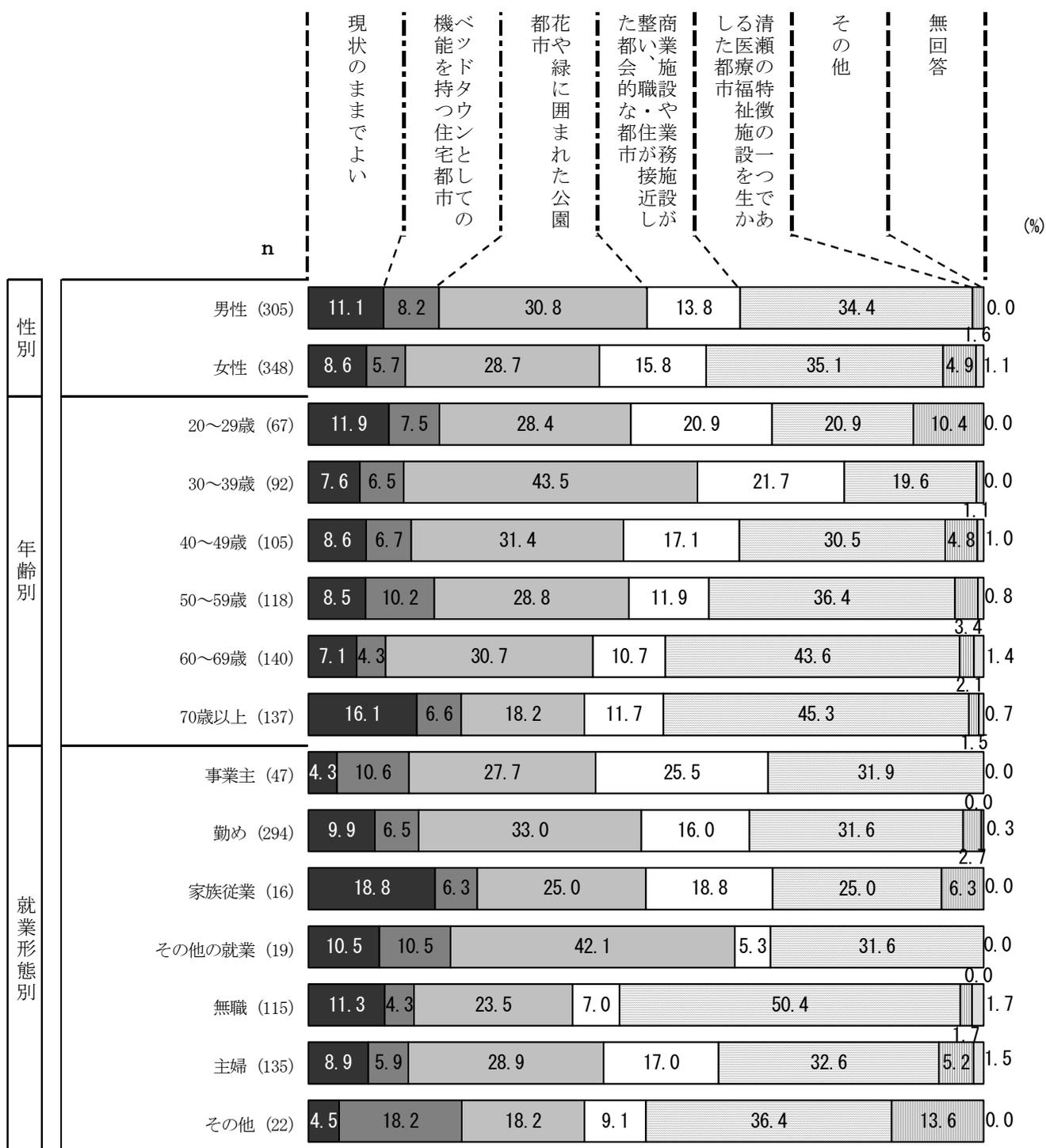
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「花や緑に囲まれた公園都市」が30歳代で43.5%あるが、他の年齢層では3割前後にとどまり、70歳以上は18.2%と低い。「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は20歳代や30歳代で2割前後、40歳代と50歳代は3割台にとどまるが、60歳代で43.6%、70歳以上で45.3%と高くなっている。

就業形態別でみると、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は、無職で50.4%と高くなっている。

<図3-2：性別・年齢別・就業形態別>

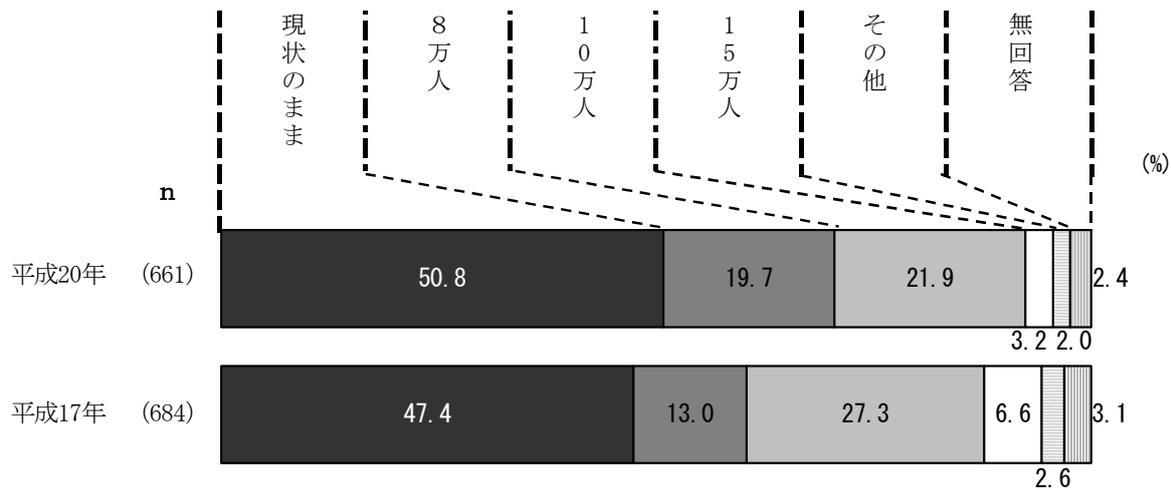


(2) 市の将来の人口

問5 現在、清瀬市の人口は7万3千人程度であり、清瀬市基本構想では目標年次である平成27年の人口を7万5千人と想定していますが、あなたが望むようなまちとなるためには、将来の清瀬市の人口はどれくらいが適当だと思いますか。

[n=661]

<図3-3：市の将来の人口・経年比較>



【全体】

市の将来の人口については、「現状のまま」が50.8%で最も高く、5割を超えている。次いで「10万人」が21.9%、「8万人」が19.7%が続いている。

<表3-1：市の将来の人口・経年比較>

| 順位 | 平成14年 [n=652] | 平成17年 [n=684] | 平成20年 [n=661] |
|----|------------------|------------------|------------------|
| 1位 | 現状のまま (50.5) | 現状のまま (47.4) | 現状のまま (50.8) |
| 2位 | 10万人 (25.3) | 10万人 (27.3) | 10万人 (21.9) |
| 3位 | 7.5万人 (16.1) | 8万人 (13.0) | 8万人 (19.7) |
| 4位 | 15万人 (2.8) | 15万人 (6.6) | 15万人 (3.2) |

【経年比較】

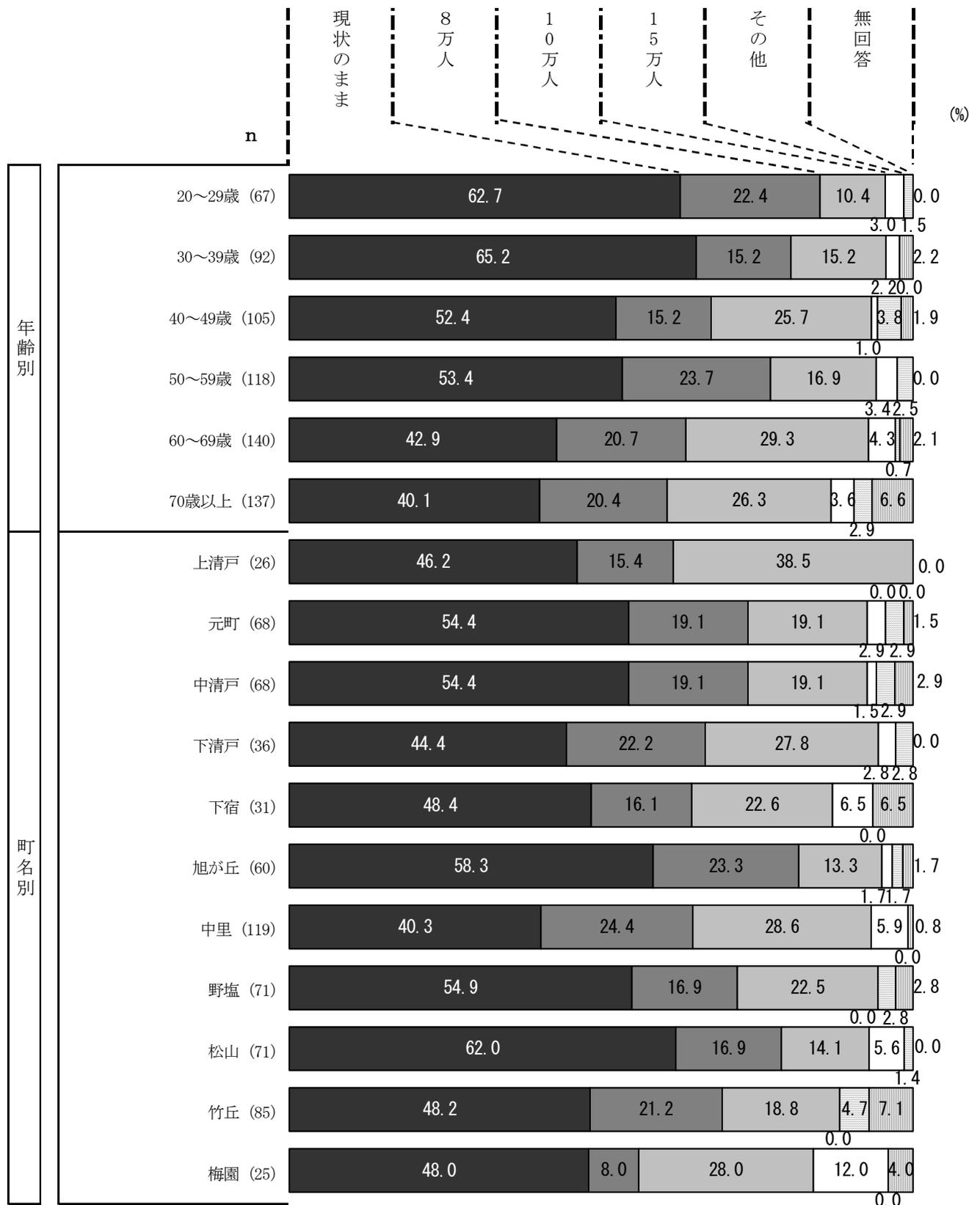
前々回調査（平成14年）・前回調査（平成17年）とともに今回調査においても「現状のまま」が50.8%で最も高くなっている。「10万人」は前々回調査から、3.4ポイント、前回調査から5.4ポイント減少している。「8万人」は前回調査から6.7ポイント増加している。

【年齢別・町名別】

年齢別でみると、「現状のまま」は、いずれの年齢層においても高い数値を示しているが、20歳代で62.7%、30歳代で65.2%と6割を超えている。また、「10万人」は40歳代、60歳代、70歳以上でそれぞれ25.7%、29.3%、26.3%と他の年齢層よりもやや高くなっている。

町名別でみると、「現状のまま」は松山が62.0%で最も高く、次いで旭が丘が58.3%が続いている。また、「8万人」は中里が24.4%、旭が丘が23.3%、下清戸が22.2%と比較的高く、「10万人」では上清戸で38.5%と高い数値を示している。

< 図3-4 : 年齢別・町名別 >

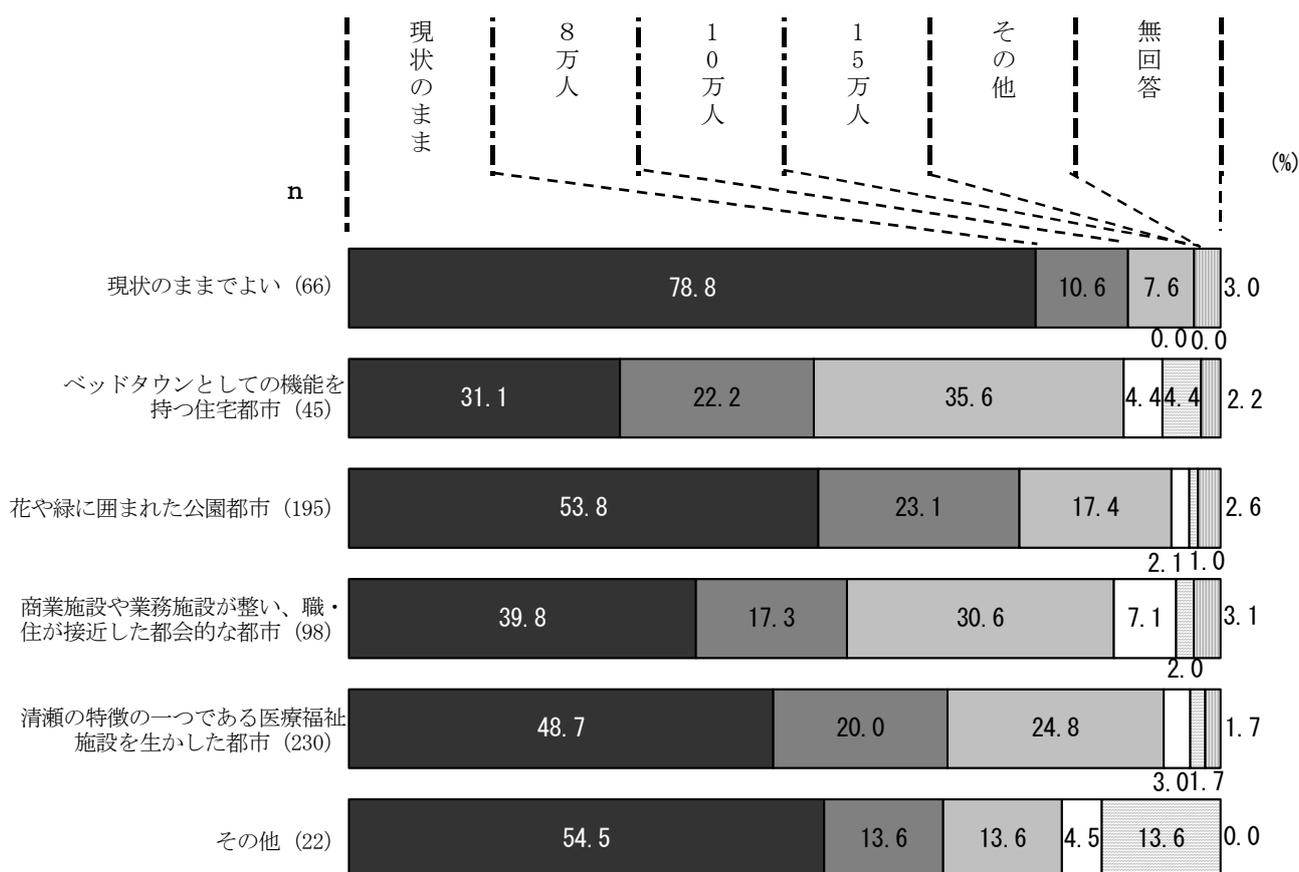


～市の将来像と人口の関係～

これまで『問4 市の将来像』と『問5 市の将来の人口』で清瀬市の将来像を模索したが、ここでは、それらの回答別にどのような傾向があるかをみることにする。なお、分析の軸（＝表側）には『問4 市の将来像』の回答別を置き、“「将来的には〇〇のような都市」を理想に描いているので、「人口は〇〇ぐらい」が理想である”という傾向がみられるようにした。

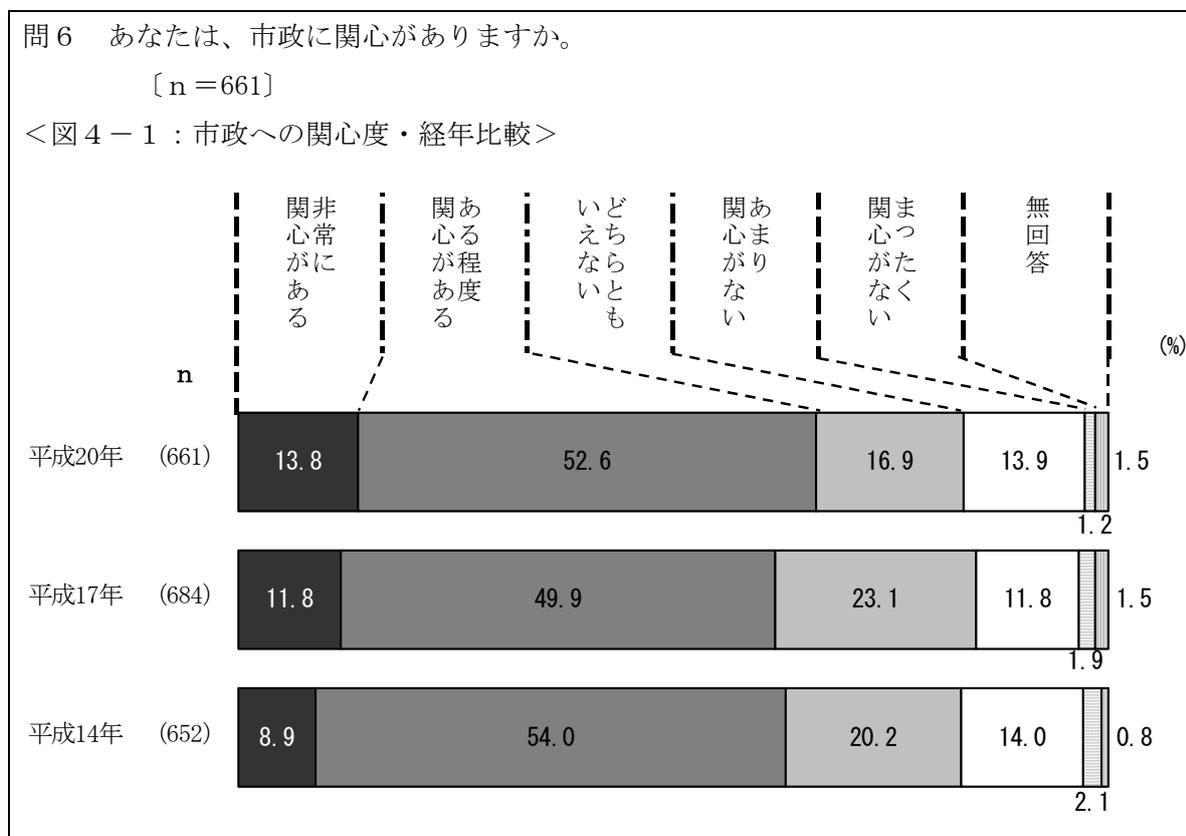
その結果、『問4 市の将来像』を“現状のままでよい”、“花や緑に囲まれた公園都市”、“清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市”と回答した人は、『問5 市の将来の人口』でも「現状のまま」と回答する傾向にあり、それぞれ78.8%、53.8%、48.7%と高い数値を示している。他方、『問4 市の将来像』を“ベッドタウンとして機能をもつ住宅都市”と回答した人は、『問5 市の将来の人口』で「10万人」が35.6%と高くなっている。また、『問4 市の将来像』を“商業施設や業務施設が整い、職・住が接近した都会的な都市”と回答した人では、『問5 市の将来の人口』で「現状のまま」と「10万人」がそれぞれ3割台で二分されている。

<図3-5：市の将来像と人口の関係>



4 市政への関心

(1) 市政への関心度



【全体・経年比較】

市政への関心度では、「非常に興味がある」は13.8%であるが、「ある程度関心がある」とあわせた『関心派』は66.4%になる。他方、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた『無関心派』は15.1%になっている。

前回調査（平成17年）と比較すると、「どちらともいえない」が6.2ポイント減少し、『関心派』は4.7ポイント、『無関心派』は1.4ポイント増加している。

【性別・年齢別・就業形態別・居住年数別】

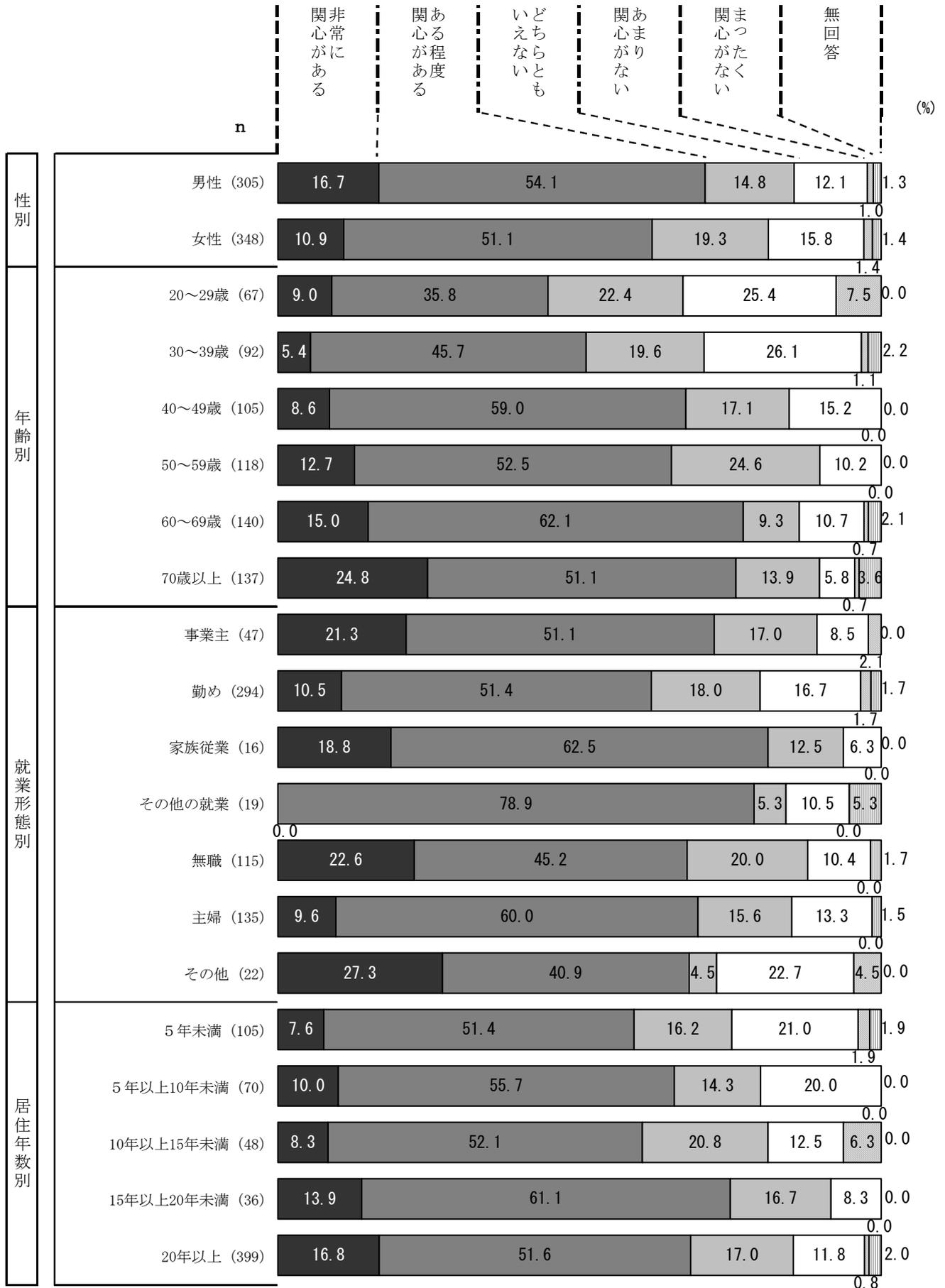
性別でみると、『関心派』は男性（70.8%）、女性（62.0%）となっており、男性が8.8ポイント高くなっている。他方、『無関心派』は女性（17.2%）、男性（13.1%）となっており、女性が4.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『関心派』は年齢が上がるほど増加傾向にあり、60歳代で77.1%、70歳以上で75.9%と高くなっている。逆に『無関心派』は20歳代、30歳代でそれぞれ32.9%、27.2%と高い数値を示している。

就業形態別でみると、『関心派』は家族従業が81.3%と最も高くなっている。

居住年数別でみると、『関心派』は15年以上20年未満が75.0%と最も高くなっている。

<図4-2：性別・年齢別・就業形態別・居住年数別>

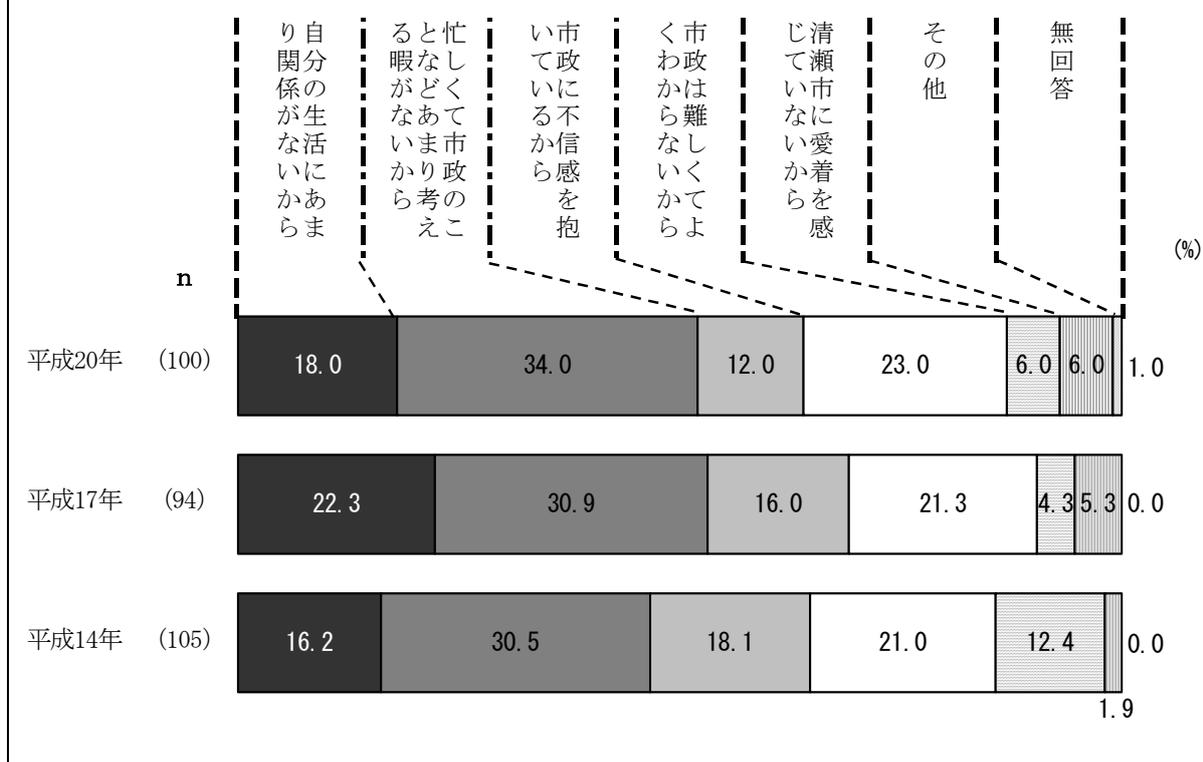


(2) 関心がない理由

S Q 1 問6で「④あまり関心がない」、「⑤まったく関心がない」とお答えの方にはうかがいます。その理由を次の中からお答えください。

[n=100]

<図4-3：関心がない理由・経年比較>



【全体・経年比較】

問6で『無関心派』だった人に理由を尋ねたところ、「忙しくて市政のことがあまり考える暇がないから」が34.0%と最も高く、「市政は難しくよくわからないから」が23.0%、「自分の生活にあまり関係がないから」が18.0%で続いている。

前回調査（平成17年）と比較すると、「自分の生活にあまり関係がないから」は4.3ポイント、「市政に不信感を抱いているから」は4.0ポイント減少している。

5 市民参画

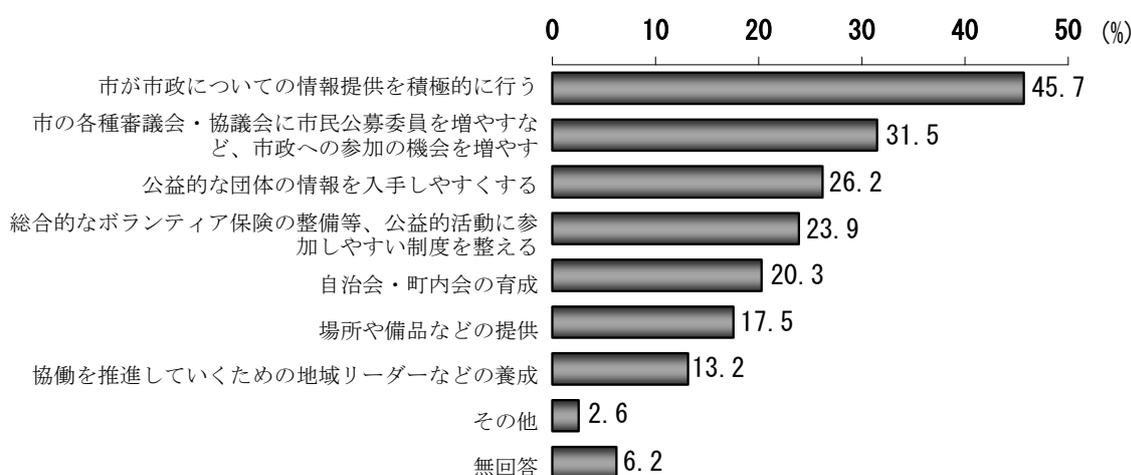
(1) 協働社会を実現していくために必要なこと

問7 市では「清瀬市まちづくり基本条例」を制定しています。

この条例の市民参画・協働のまちづくりを仕組みとして保護するための条項の中には、常設機関として設置された「まちづくり委員会」の規定があり、これまでに市民から寄せられた提案の中から市長へ7つの提言をしました。今後、協働社会を実現していくために必要と思われるものを、次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図5-1：協働社会を実現していくために必要なこと>



【全体】

協働社会を実現していくために必要なこととしては、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」が45.7%と最も高く、「市の各種審議会・協議会に市民公募委員を増やすなど、市政への参加の機会を増やす」が31.5%、「公益的な団体の情報を入手しやすくする」が26.2%、「総合的なボランティア保険の整備等、公益的活動に参加しやすい制度を整える」が23.9%と続いている。

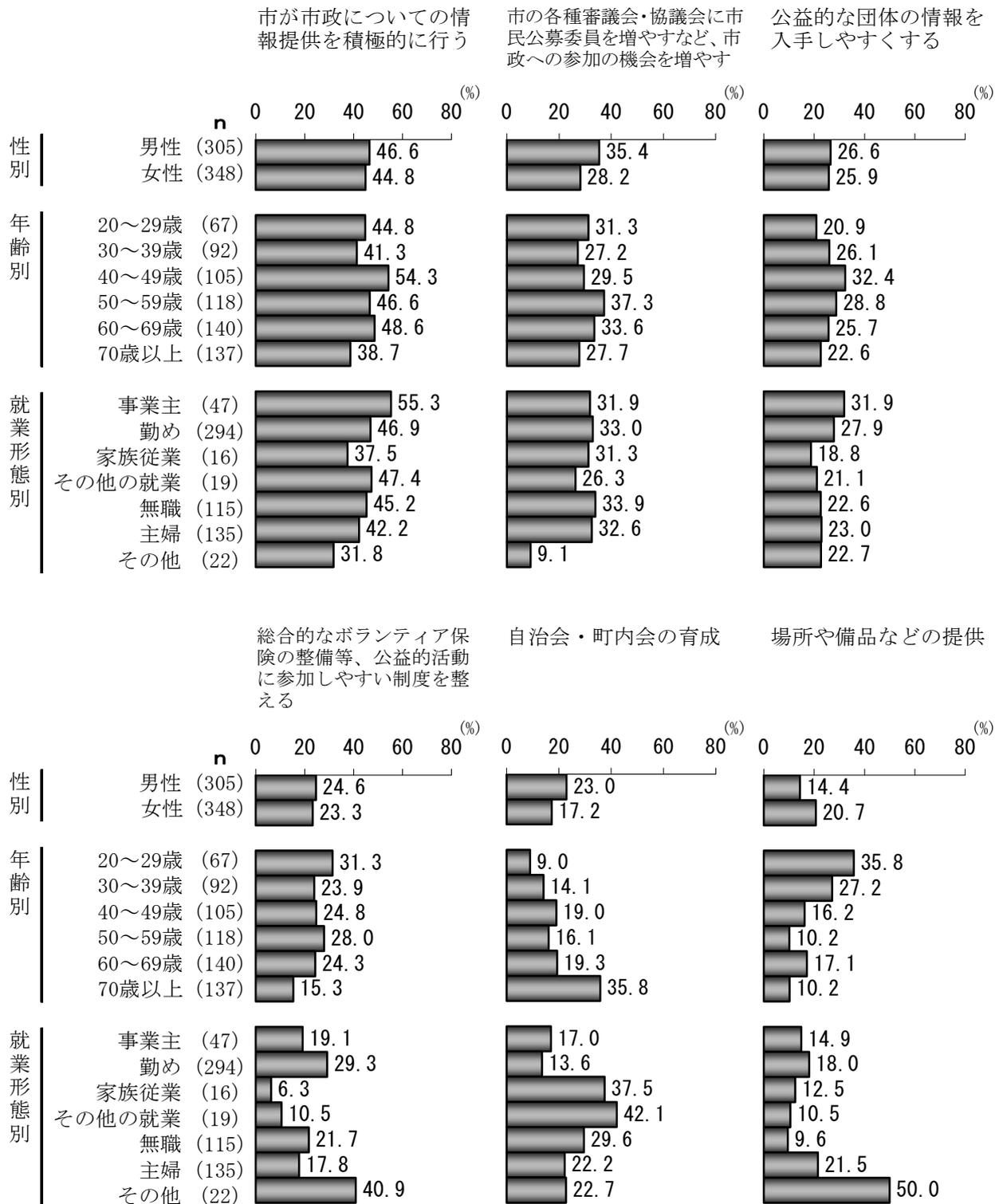
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「市の各種審議会・協議会に市民公募委員を増やすなど、市政への参加の機会を増やす」が男性（35.4%）、女性（28.2%）となっており、男性が7.2ポイント上回っている。他方、「場所や備品などの提供」は女性（20.7%）、男性（14.4%）となっており、女性が6.3ポイント上回っている。

年齢別では、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」はいずれの年齢層においても数値が高いが、40歳代が最も高く54.3%となっている。また、「自治会・町内会の育成」は70歳以上、「場所や備品などの提供」は20歳代で高くなっている。

就業形態別でみると、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」はいずれの就業形態においても数値が高いが、事業主が最も高く 55.3%となっている。

<図 5-2：性別・年齢別・就業形態別：上位 6 項目>

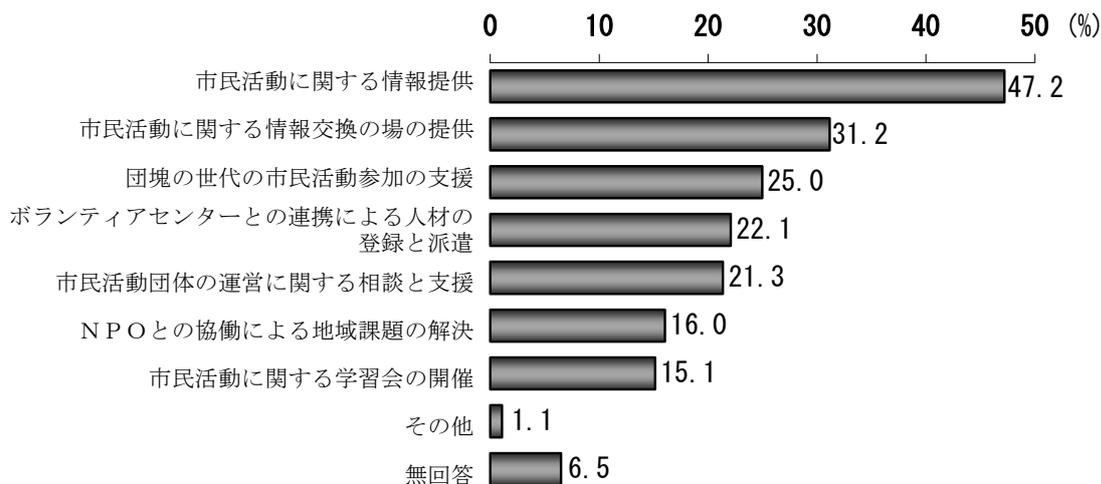


(2) 期待する市民活動センターの役割

問8 市民のみなさんが自ら、さまざまな要望に対応したサービスを提供したり、社会的な課題を解決することを目的とした、よりよいまちづくりのために自発的・自主的な活動を市民活動とといいます。市には活動を支援するために市民活動センターが設置されています。あなたが市民活動センターの役割として期待することを、次の中から2つまでお答えください。

[n = 661]

<図5-3：期待する市民活動センターの役割>



【全体】

期待する市民活動センターの役割は、「市民活動に関する情報提供」が47.2%と最も高く、「市民活動に関する情報交換の場の提供」が31.2%、「団塊の世代の市民活動参加の支援」が25.0%と続いている。

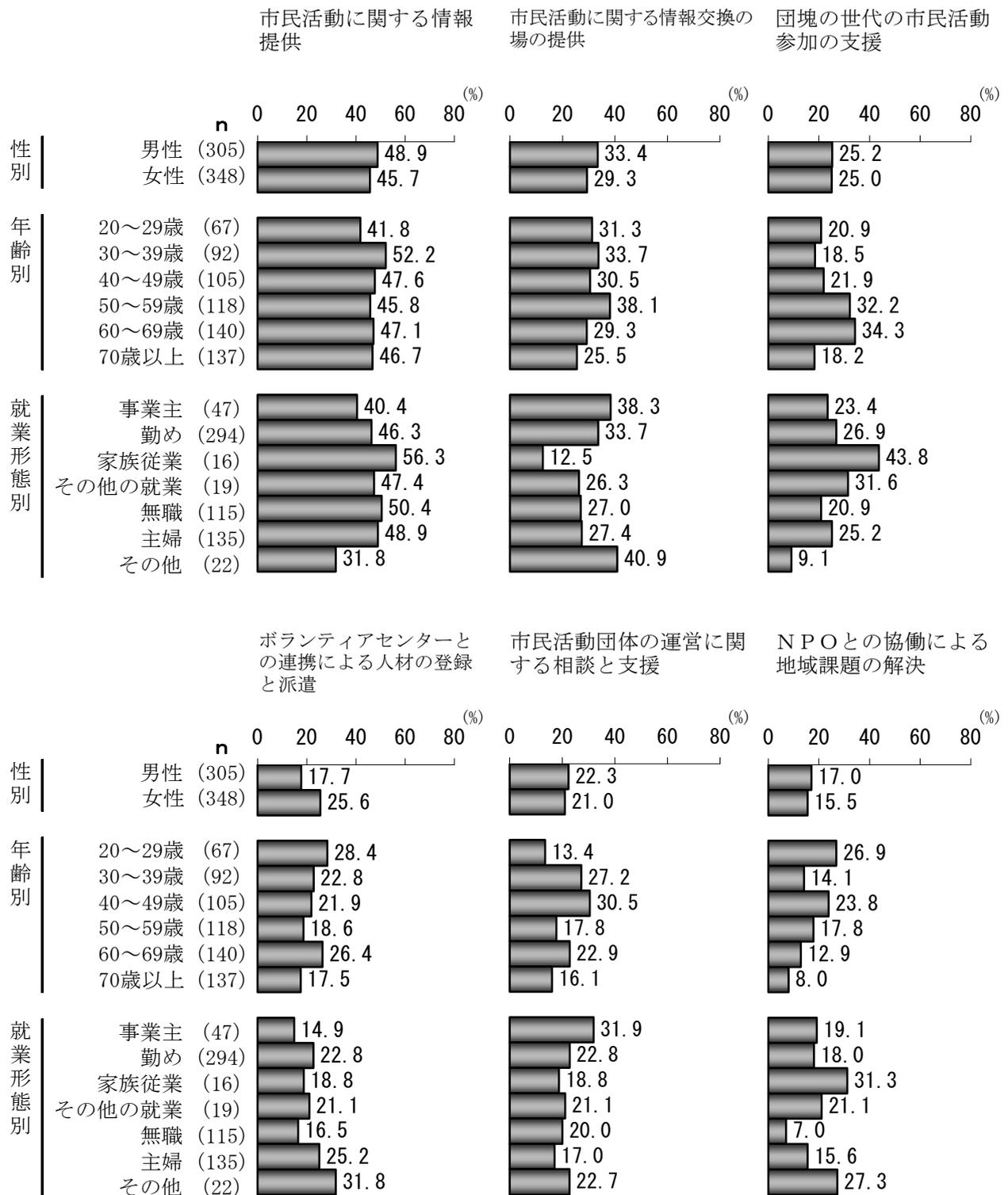
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「市民活動に関する情報提供」は男性(48.9%)、女性(45.7%)、「市民活動に関する情報交換の場の提供」は男性(33.4%)、女性(29.3%)となっており、それぞれ男性が3.2ポイント、4.1ポイント上回っている。他方、「ボランティアセンターとの連携による人材の登録と派遣」は女性(25.6%)、男性(17.7%)となっており、女性が7.9ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「市民活動に関する情報提供」はいずれの年齢においても数値が高いが、30歳代が最も高く52.2%となっている。また、「団塊の世代の市民活動参加の支援」は50歳代で32.2%、60歳代で34.3%と高くなっている。「ボランティアセンターとの連携による人材の登録と派遣」は20歳代と60歳代、「市民活動団体の運営に関する相談と支援」は30歳代と40歳代、「NPOとの協働による地域課題の解決」は20歳代と40歳代で他の年齢層よりもやや高くなっている。

就業形態別でみると、「市民活動に関する情報提供」はいずれの就業形態においても数値が高いが、家族従業が最も高く 56.3%となっている。また、「団塊の世代の市民活動参加の支援」および「NPOとの協働による地域課題の解決」も家族従業で高くなっている。「市民活動団体の運営に関する相談と支援」は事業主で 31.9%と高くなっている。

<図5-4：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>

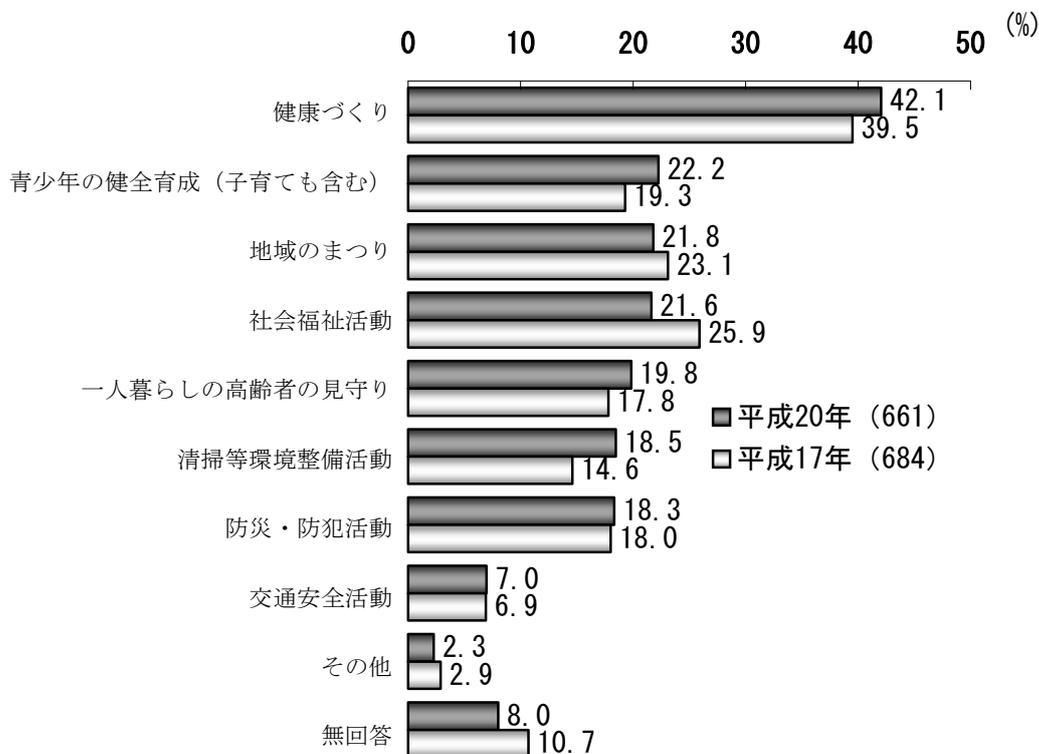


(3) 参加してみたい市民活動

問9 あなたが参加してみたいと思う市民活動があれば、次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図5-5：参加してみたい市民活動・経年比較>



【全体・経年比較】

参加してみたいと思う市民活動は、「健康づくり」が42.1%と最も高く、「青少年の健全育成(子育ても含む)」が22.2%、「地域のまつり」が21.8%、「社会福祉活動」が21.6%と続いている。

前回調査(平成17年)と比較すると、「清掃等環境整備活動」が3.9ポイント、「青少年の健全育成(子育ても含む)」が2.9ポイント、「健康づくり」が2.6ポイント増加している。他方、「社会福祉活動」は4.3ポイント減少している。

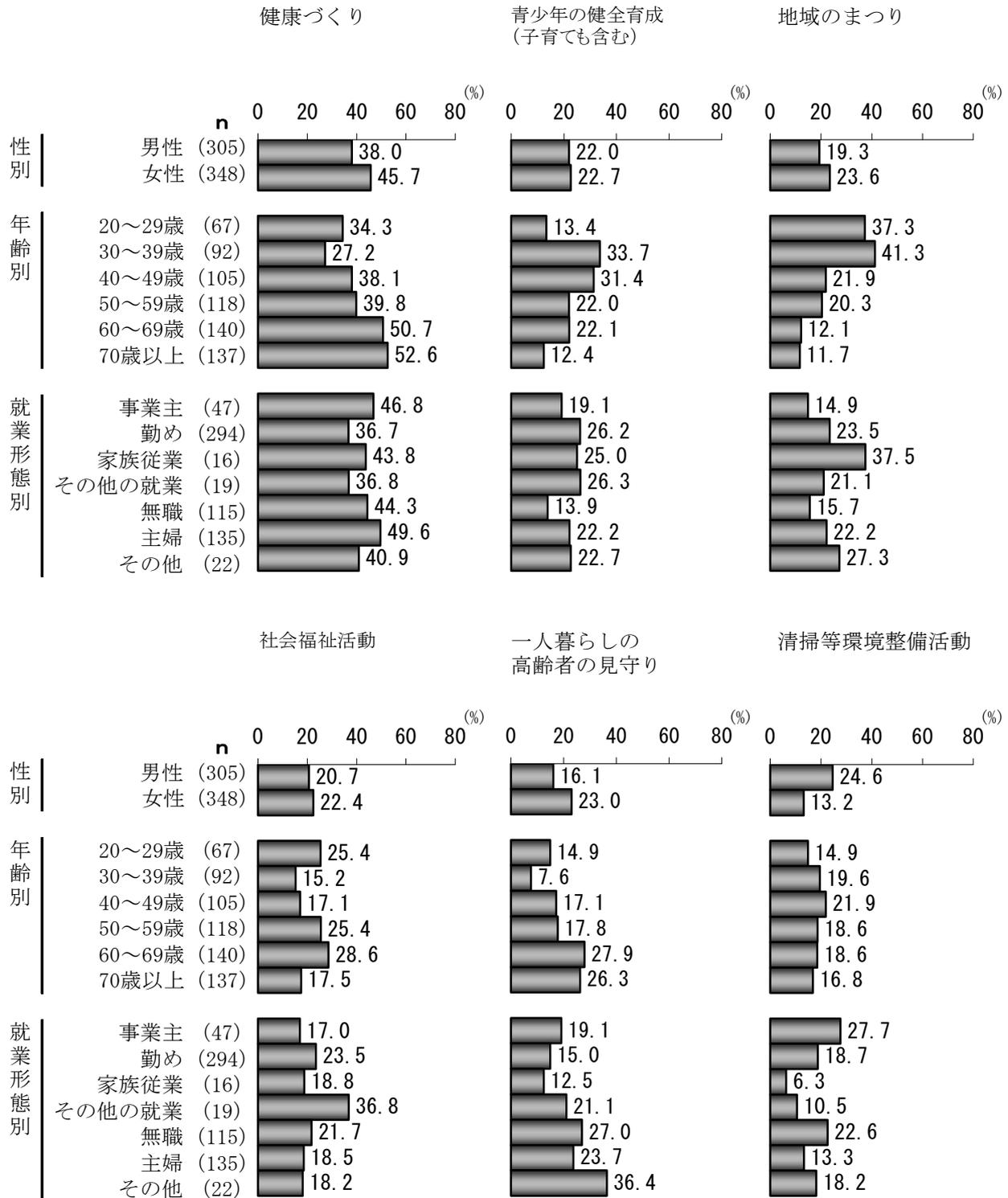
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「清掃等環境整備活動」が男性(24.6%)、女性(13.2%)となっており、男性が11.4ポイント上回っている。他方、「健康づくり」が女性(45.7%)、男性(38.0%)、「一人暮らしの高齢者の見守り」が女性(23.0%)、男性(16.1%)となっており、それぞれ女性が7.7ポイント、6.9ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「健康づくり」は60歳代、70歳以上、「青少年の健全育成(子育ても含む)」は30歳代、40歳代、「地域のまつり」は20歳代、30歳代が他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別でみると、「健康づくり」はいずれの就業形態においても数値が高いが、主婦が最も高く49.6%となっている。また、「地域のまつり」は家族従業で37.5%と高くなっている。

<図5-6：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>



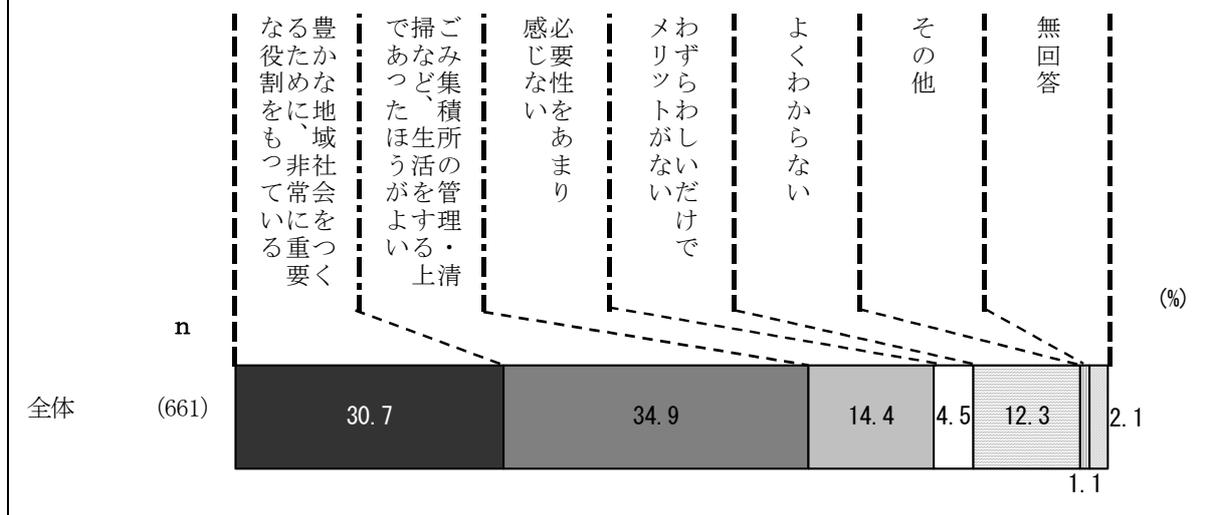
6 コミュニティ

(1) 自治会等の地域コミュニティの考え方

問10 自治会等の地域コミュニティについて、あなたはどのように考えていますか。

[n=661]

<図6-1：自治会等の地域コミュニティの考え方>



【全体】

自治会等の地域コミュニティの考え方については、「ごみ集積所の管理・清掃など、生活をする上であったほうがよい」が34.9%で最も高く、「豊かな地域社会をつくるために、非常に重要な役割をもっている」が30.7%で続いている。

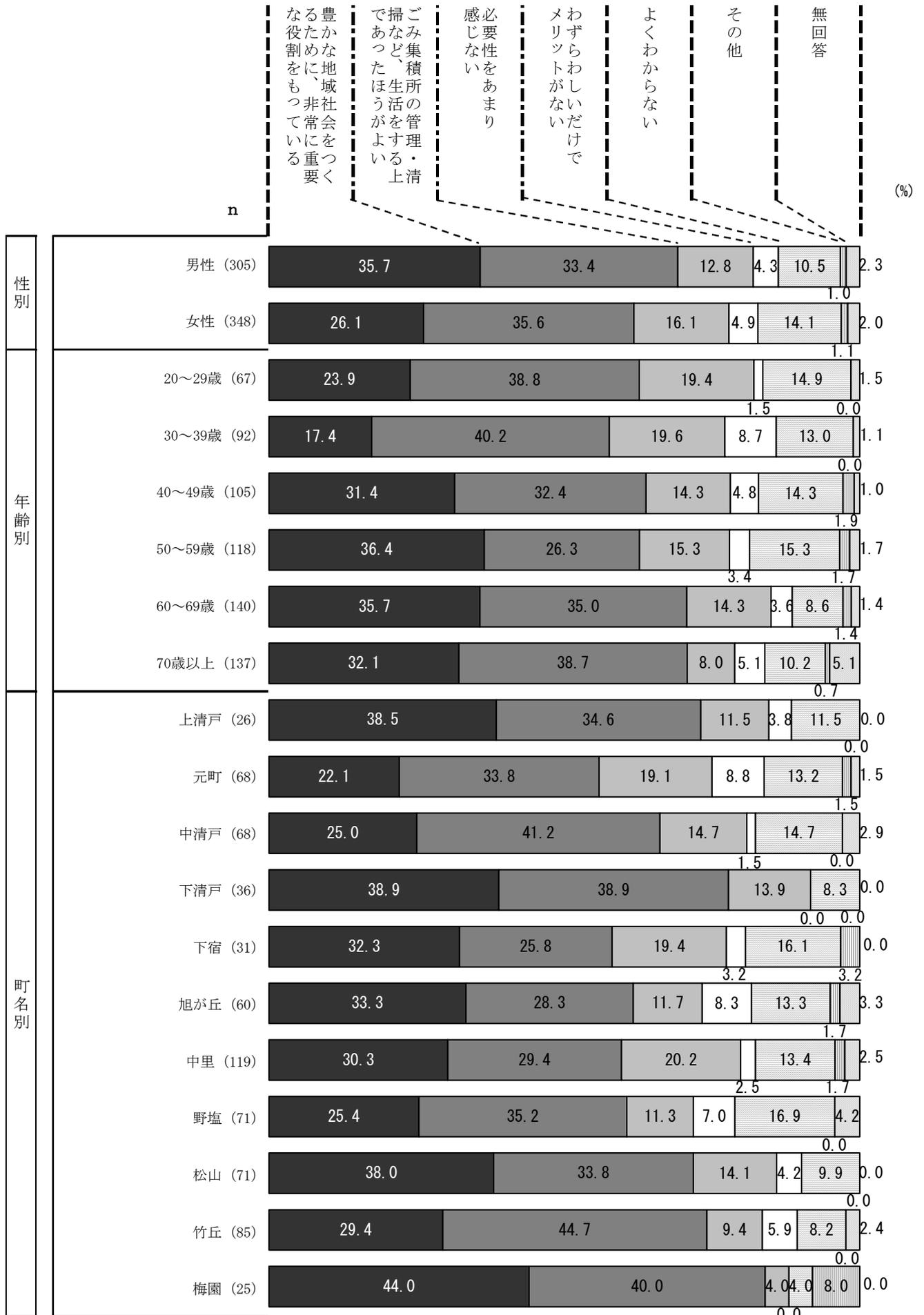
【性別・年齢別・町名別】

性別でみると、「豊かな地域社会をつくるために、非常に重要な役割をもっている」が男性(35.7%)、女性(26.1%)となっており、男性が9.6ポイント上回っている。

年齢別でみると、「ごみ集積所の管理・清掃など、生活をする上であったほうがよい」は20歳代、30歳代、70歳以上が高く、それぞれ38.8%、40.2%、38.7%となっている。また、「必要性をあまり感じない」は20歳代、30歳代でそれぞれ19.4%、19.6%となっており、他の年齢層と比較して高くなっている。

町名別でみると、「ごみ集積所の管理・清掃など、生活をする上であったほうがよい」は竹丘、中清戸、梅園において数値が高く、それぞれ44.7%、41.2%、40.0%となっている。また、「豊かな地域社会をつくるために、非常に重要な役割をもっている」は梅園が44.0%となっており他の町名と比較して高くなっている。

<図6-2：性別・年齢別・町名別>



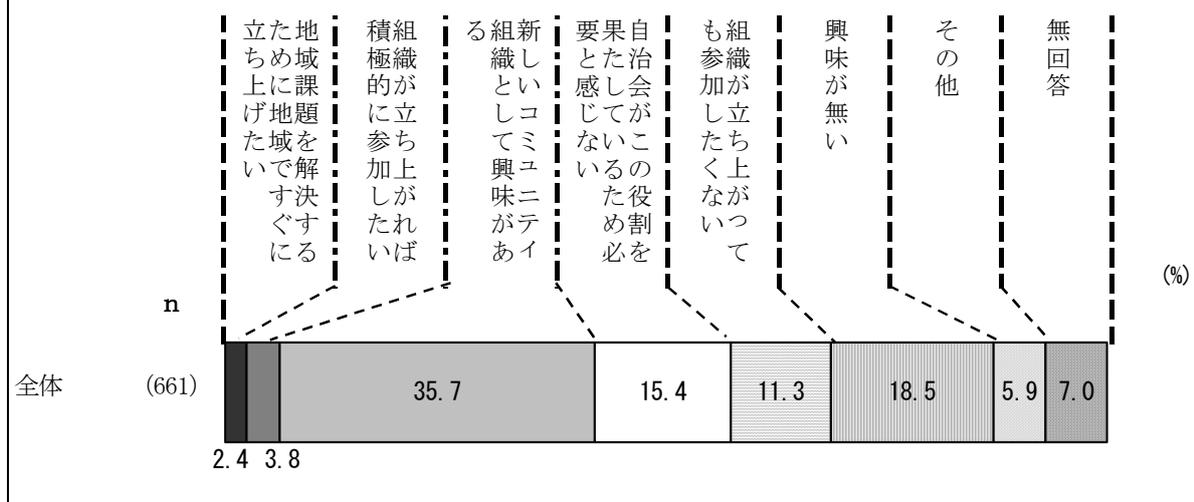
(2) 円卓会議への参加希望

問 1 1 市では、地域にある課題を解決できるコミュニティとして学区域をひとつの地域と位置づけ地域の皆さんが、同じテーブルについて話し合う組織として円卓会議を第六小学校区をモデル地区に設定し活動を始めています。

あなたはお住まいの地域でこの取り組みに参加を希望しますか。

[n=661]

<図 6-3 : 円卓会議への参加希望>



【全体】

円卓会議への参加希望については、「新しいコミュニティ組織として興味がある」が35.7%と最も高くなっている。「興味がない」は18.5%、「自治会がこの役割を果たしているため必要と感ぜない」は15.4%となっている。

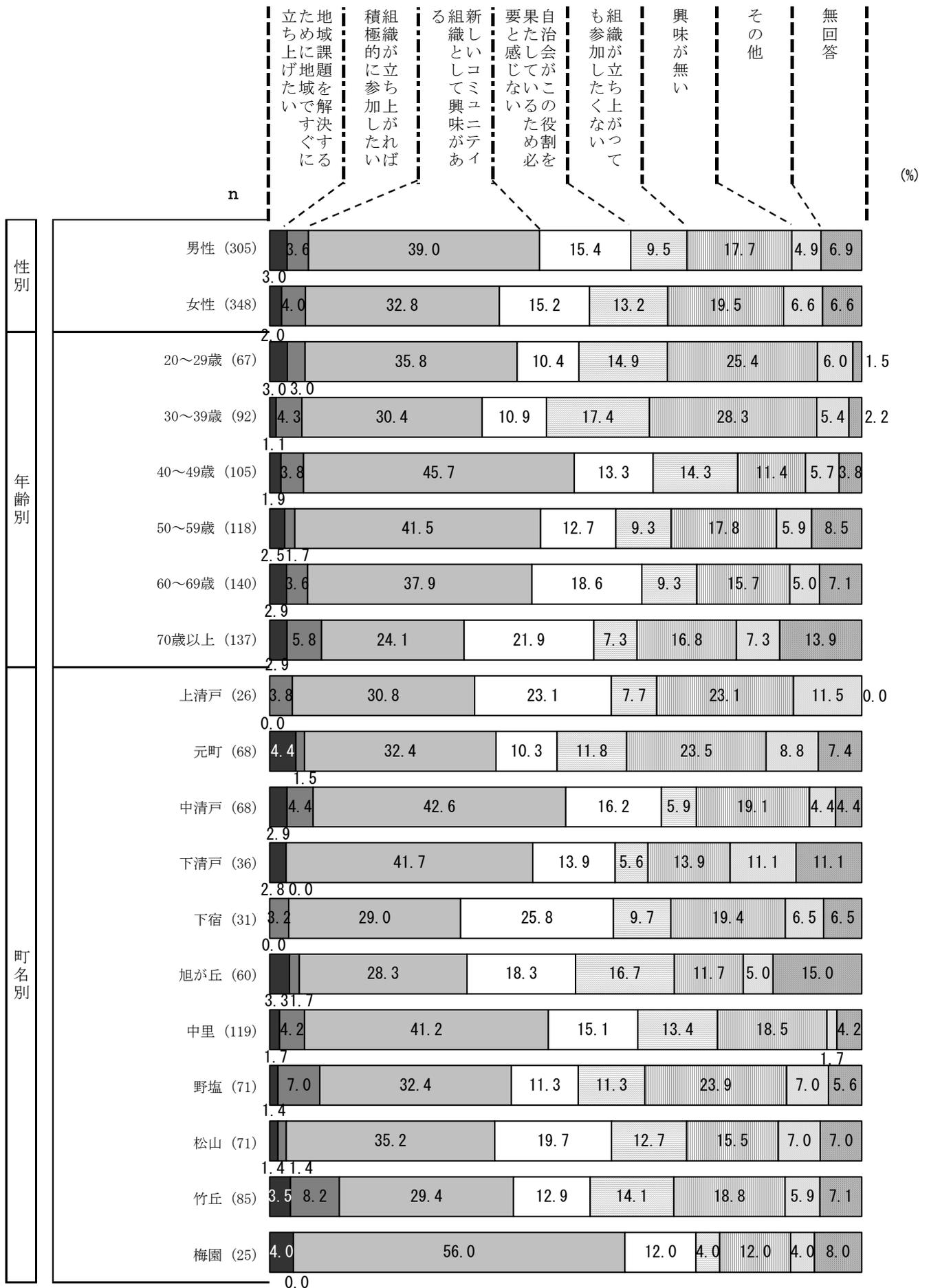
【性別・年齢別・町名別】

性別で見ると、「新しいコミュニティ組織として興味がある」が男性（39.0%）、女性（32.8%）となっており、男性が6.2ポイント上回っている。他方、「組織が立ち上がりたくないと感ぜない」が女性（13.2%）、男性（9.5%）となっており、女性が3.7ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「新しいコミュニティ組織として興味がある」は40歳代が最も高く45.7%となっている。他方、「興味がない」は20歳代、30歳代で高く、それぞれ25.4%、28.3%となっている。

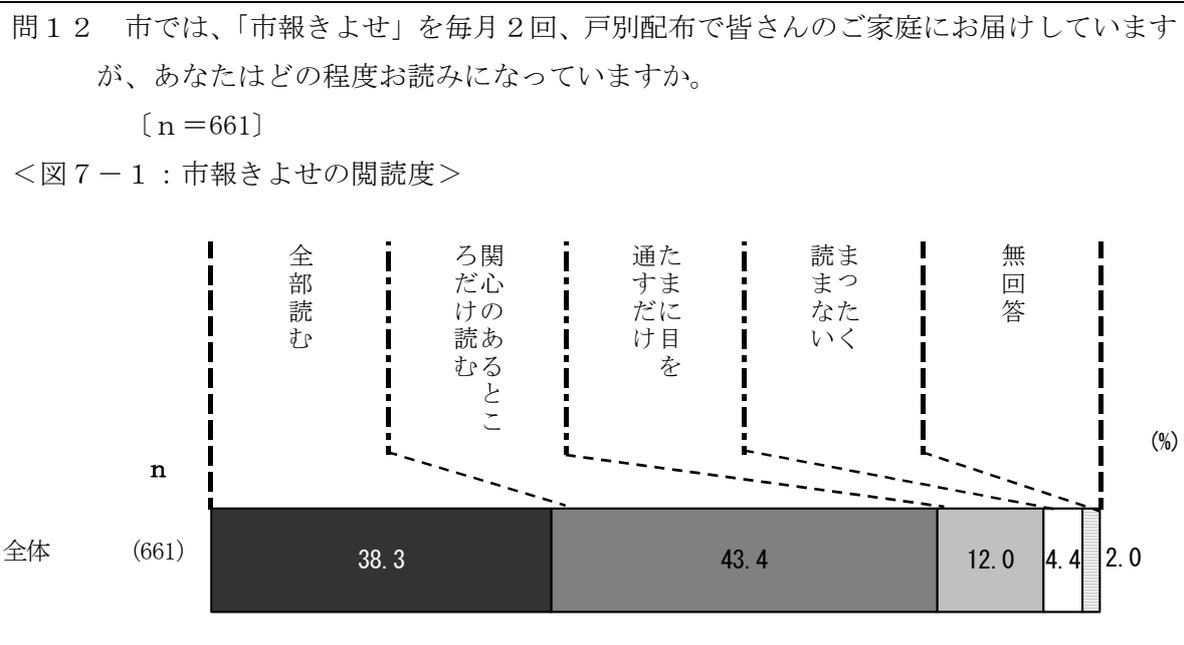
町名別で見ると、「新しいコミュニティ組織として興味がある」は梅園で56.0%と最も高く、次いで中清戸、下清戸、中里がそれぞれ42.6%、41.7%、41.2%で続いている。

<図6-4：性別・年齢別・町名別>



7 広報

(1) 「市報きよせ」の閲読度



【全体】

「市報きよせ」の閲読度は、「関心のあるところだけ読む」が 43.4%と最も高く、「全部読む」が 38.3%と続いている。これら両者を合算した『随時読んでいる』人が 81.7%と、「まったく読まない」人の 4.4%を大きく上回っている。

＜表 7-1：市報きよせの閲読度・経年比較＞

| 平成 14 年 〔n = 652〕 | | 平成 17 年 〔n = 684〕 | | 平成 20 年 〔n = 661〕 |
|-------------------------|---|-------------------------|---|-------------------------|
| 全部読む (39.9) | → | 全部読む (36.5) | → | 全部読む (38.3) |
| 関心のあるところ だけ読む (39.7) | → | 関心のあるところ だけ読む (39.3) | → | 関心のあるところ だけ読む (43.4) |
| たまた目に通すだけ (13.2) | → | たまた目に通すだけ (12.4) | → | たまた目に通すだけ (12.0) |
| まったく読まない (3.5) | → | まったく読まない (3.1) | → | まったく読まない (4.4) |
| 見たことがない (3.1) | → | 見たことがない (5.8) | | |

【経年比較】

経年変化をみると、前回調査（平成 17 年）では『随時読んでいる』人が減少していたが、今回は『随時読んでいる』人が前回調査（平成 17 年）に比べ 5.9 ポイント増加している。

【性別・年齢別・就業形態別・居住年数別】

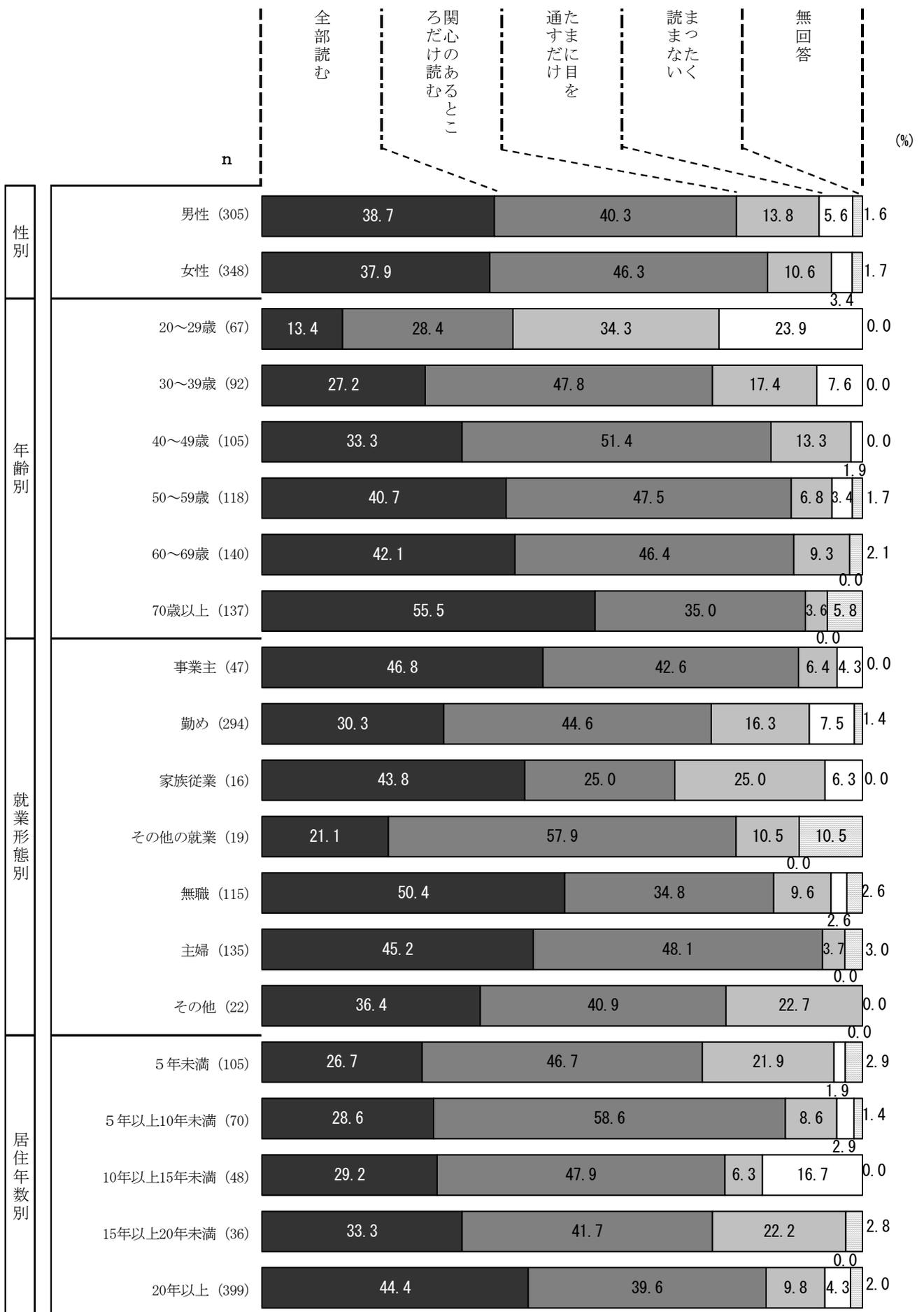
性別でみると、「関心のあるところだけ読む」が女性（46.3%）、男性（40.3%）となっており、女性が 6.0 ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に女性が 5.2 ポイント上回っている。

年齢別でみると、「全部読む」は 70 歳以上が 55.5%と最も高くなっている。『随時読んでいる』人は年齢が上がるほど漸増する傾向になっている。他方、「まったく読まない」人は 20 歳代で数値が高く、23.9%となっている。

就業形態別でみると、「全部読む」は無職が 50.4%と最も高くなっている。『随時読んでいる』人は、主婦で数値が高く、93.3%となっている。

居住年数別でみると、「全部読む」は居住年数が長くなるほど漸増する傾向になっている。また、「まったく読まない」は 10 年以上 15 年未満が 16.7%と他の居住年数と比較して高くなっている。

< 図 7 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別・居住年数別 >

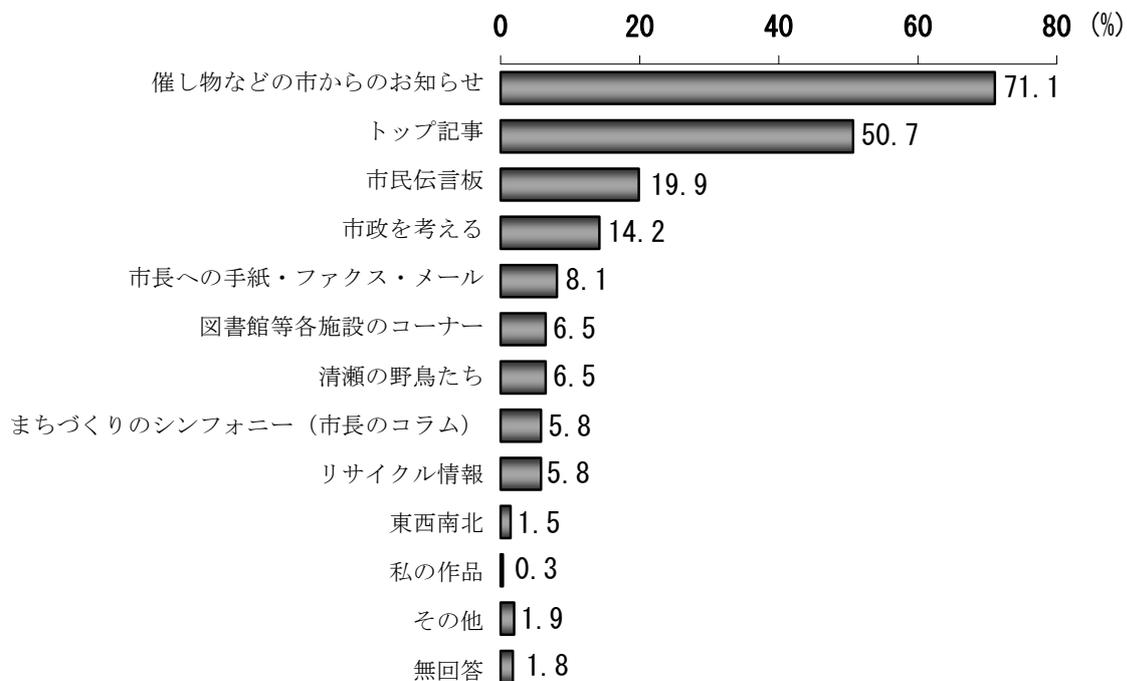


(1-1) 「市報きよせ」でよく読む記事

SQ1 問12で「①全部読む」、「②関心のあるところだけ読む」、「③たまに目を通すだけ」とお答えの方にはうかがいます。「市報きよせ」の記事の中でよく読む記事はどれですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=619]

<図7-3:「市報きよせ」でよく読む記事>



【全体】

「市報きよせ」でよく読む記事としては、「催し物などの市からのお知らせ」が71.1%と最も高く、「トップ記事」が50.7%、「市民伝言板」が19.9%、「市政を考える」が14.2%と続いている。

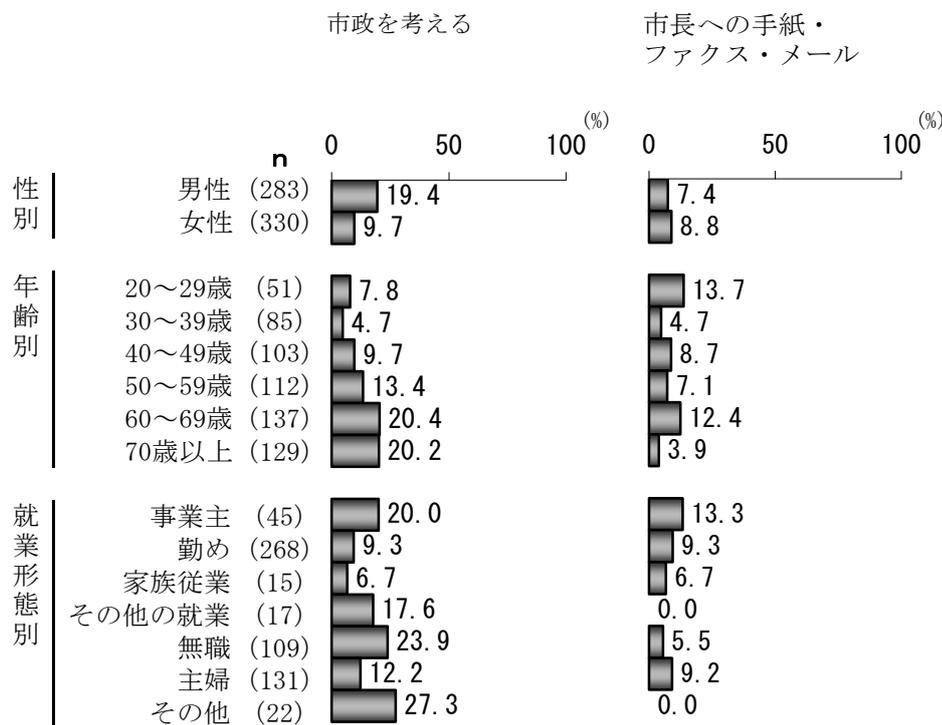
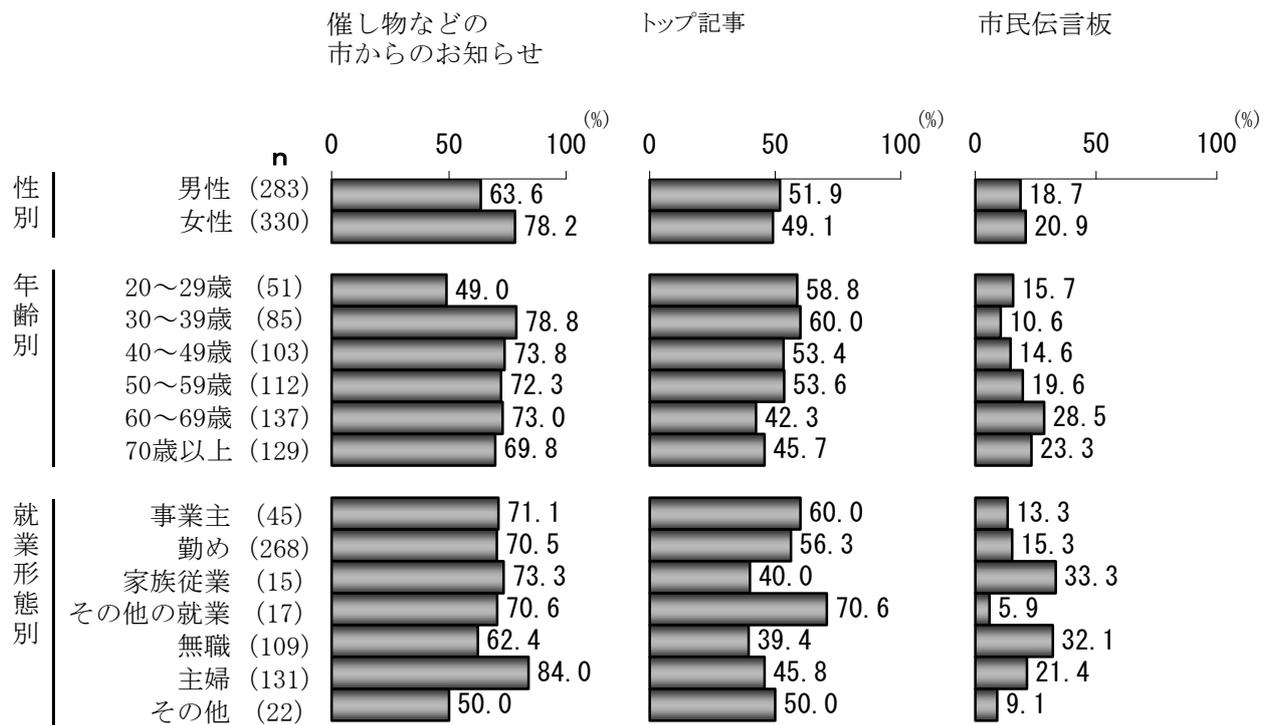
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「市政を考える」が男性(19.4%)、女性(9.7%)となっており、男性が9.7ポイント上回っている。他方、「催し物などの市からのお知らせ」は女性(78.2%)、男性(63.6%)となっており、女性が14.6ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「催し物などの市からのお知らせ」は30歳代が78.8%、「市民伝言板」は60歳代が28.5%と他の年齢層と比較してやや高くなっている。

就業形態別で見ると、「催し物などの市からのお知らせ」は主婦が84.0%と他の就業形態と比較して高くなっている。

<図7-4：性別・年齢別・就業形態別：上位5項目>

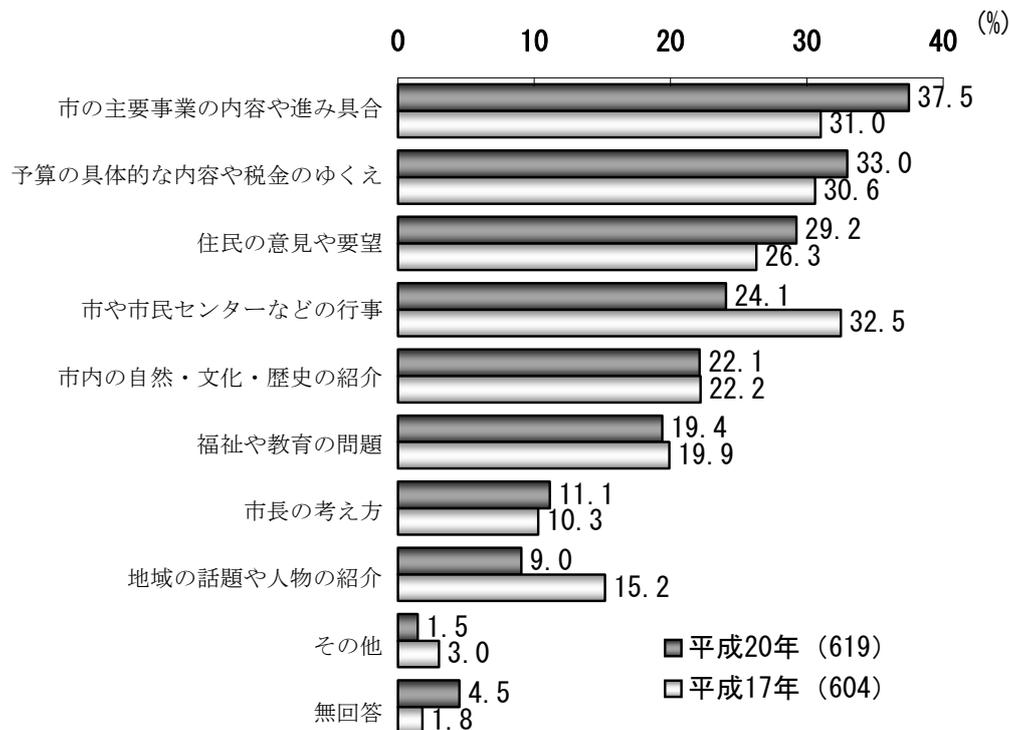


(1-2) 「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事

S Q 2 問12で「①全部読む」、「②関心のあるところだけ読む」、「③たまたま目を通すだけ」とお答えの方には「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=619]

<図7-5: 「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事・経年比較>



【全体・経年比較】

「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事としては、「市の主要事業の内容や進み具合」が37.5%と最も高く、「予算の具体的な内容や税金のゆくえ」が33.0%、「住民の意見や要望」が29.2%と続いている。

前回調査(平成17年)と比較すると、「市の主要事業の内容や進み具合」は6.5ポイント増加している。他方、前回調査で最も高かった「市や市民センターなどの行事」は8.4ポイント減少している。

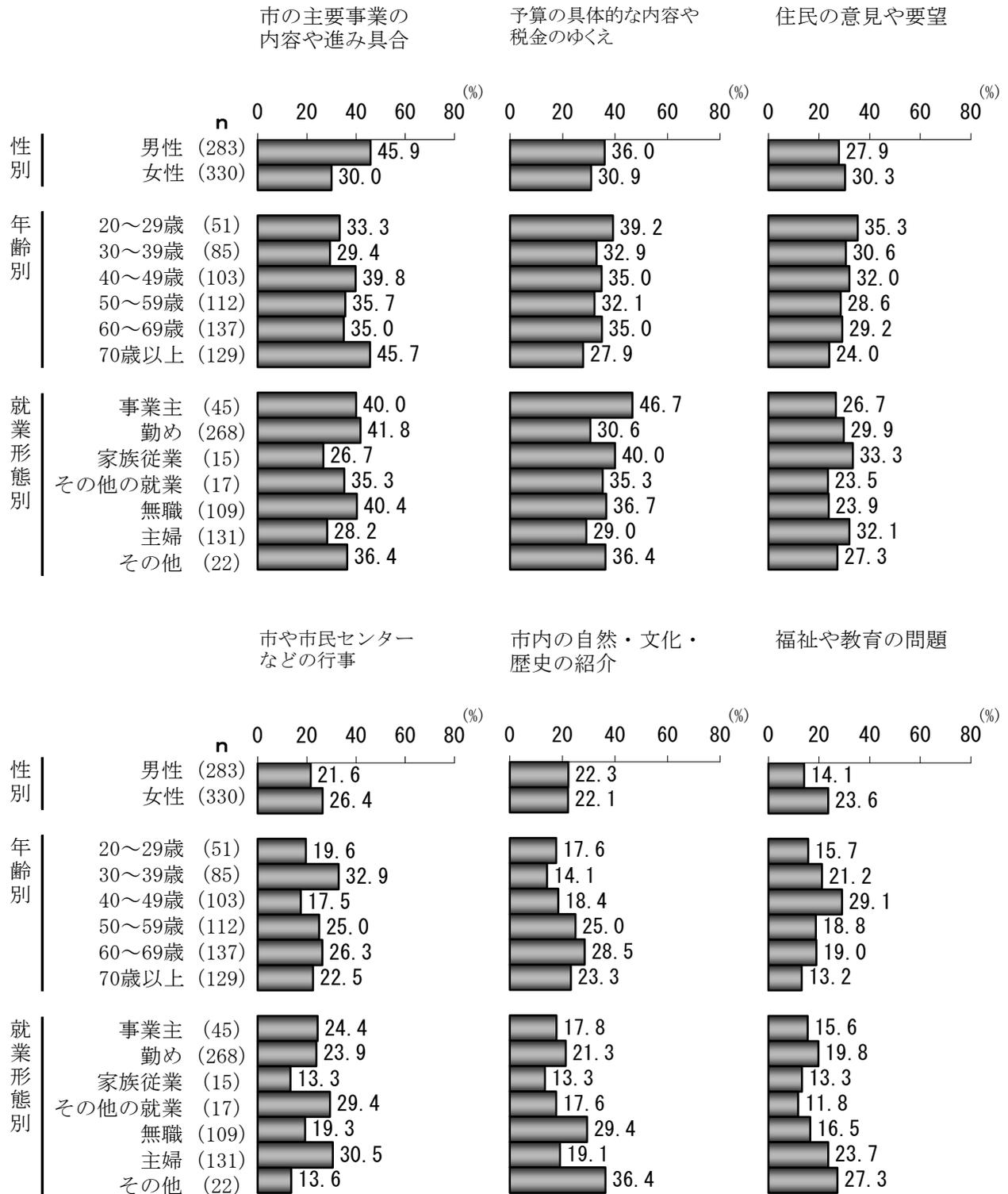
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「市の主要事業の内容や進み具合」が男性(45.9%)、女性(30.0%)となっており、男性が15.9ポイント上回っている。他方、「福祉や教育の問題」は女性(23.6%)、男性(14.1%)となっており、女性が9.5ポイント上回っている。

年齢別でみると、「市の主要事業の内容や進み具合」は70歳以上が45.7%、「市や市民センターなどの行事」は30歳代が32.9%、「福祉や教育の問題」は40歳代が29.1%と他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別で見ると、「予算の具体的な内容や税金のゆくえ」は事業主が46.7%と他の就業形態と比較して高くなっている。

<図7-6：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>

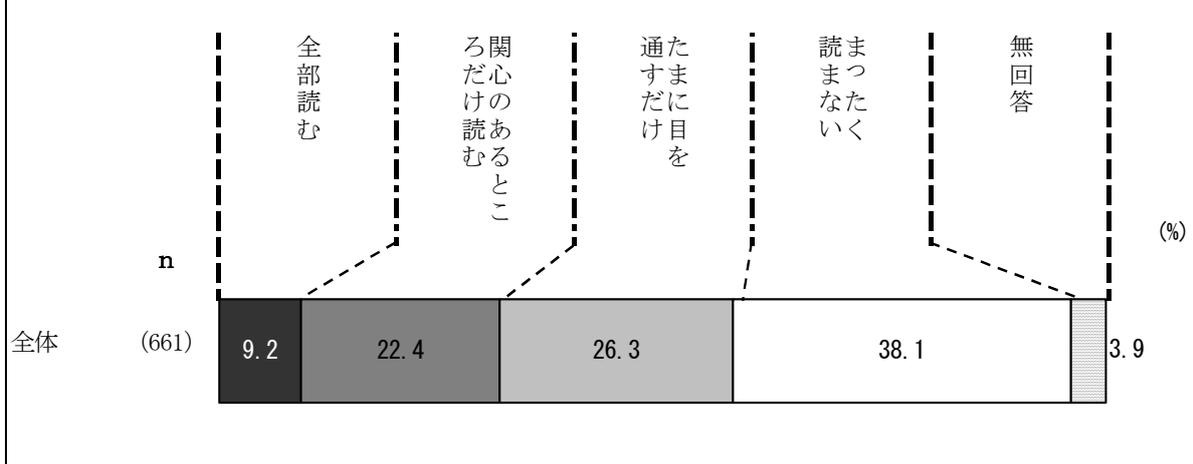


(2) 「Ms. スクエア」の閲読度

問13 市では女性広報誌「Ms. (ミズ) スクエア」を年3回、戸別配布で皆さんのご家庭にお届けしていますが、あなたはどの程度お読みになっていますか。

[n=661]

<図7-7:「Ms. スクエア」の閲読度>



【全体】

「Ms. スクエア」の閲読度では、「全部読む」が9.2%で、「関心のあるところだけ読む」が22.4%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は31.6%となる。また、「まったく読まない」が38.1%となっており比較的多くなっている。

＜表 7-2 : 「Ms. スクエア」の閲読度・経年比較＞

| 平成 14 年 [n=652] | 平成 17 年 [n=684] | 平成 20 年 [n=661] |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全部読む (11.5) | 全部読む (9.5) | 全部読む (9.2) |
| 関心のあるところ だけ読む (22.7) | 関心のあるところ だけ読む (21.8) | 関心のあるところ だけ読む (22.4) |
| たまた目に通すだけ (20.6) | たまた目に通すだけ (22.5) | たまた目に通すだけ (26.3) |
| まったく読まない (15.3) | まったく読まない (16.4) | まったく読まない (38.1) |
| 見たことがない (27.0) | 見たことがない (25.9) | |

【経年比較】

前々回調査（平成 14 年）・前回調査（平成 17 年）と比較すると、『随時読んでいる』は漸減傾向にあるが、特に大きな差異はみられない。

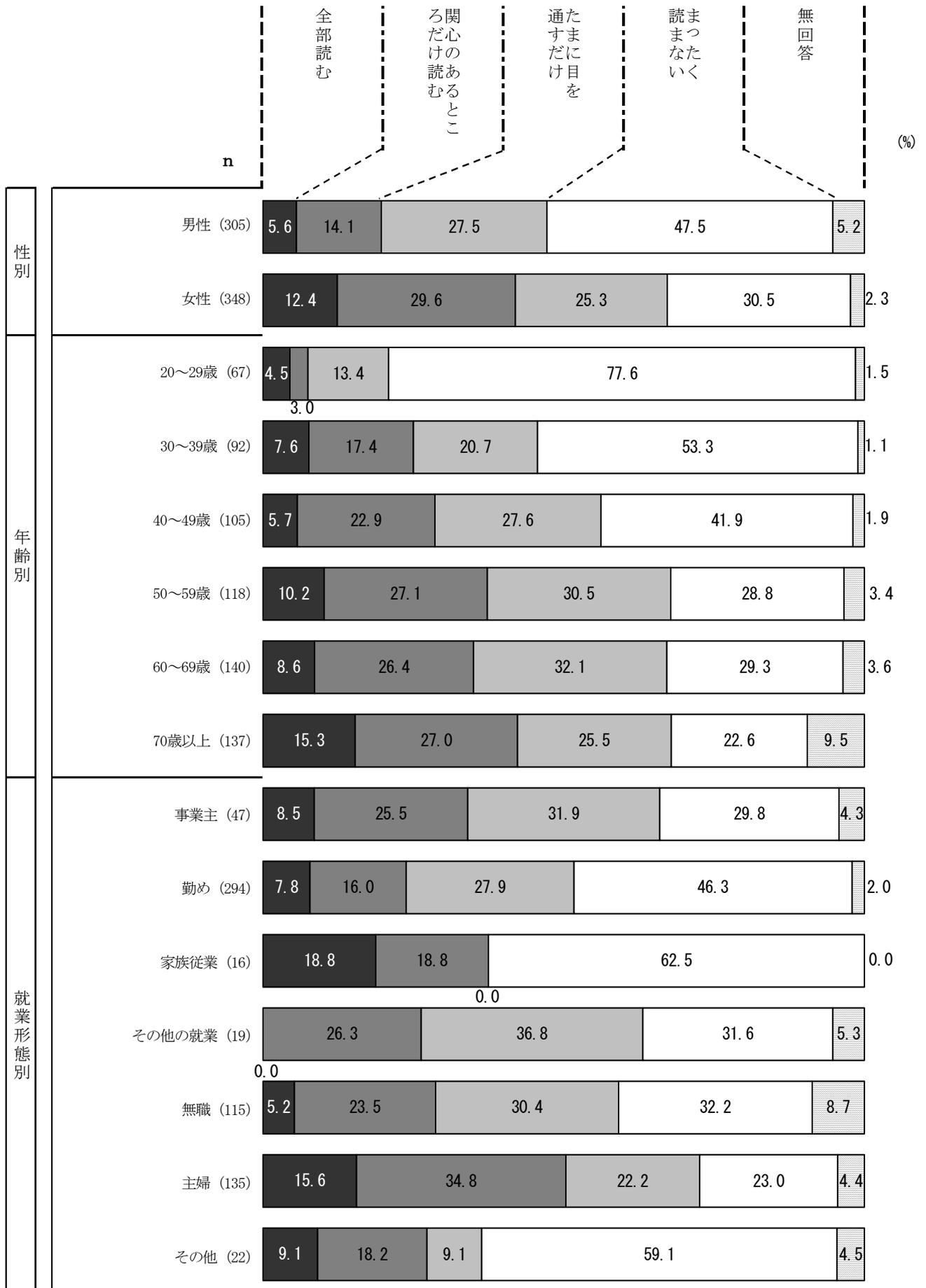
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「全部読む」が女性（12.4%）、男性（5.6%）となっており、女性が 6.8 ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に女性が 22.3 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「全部読む」は 70 歳以上が 15.3%と最も高くなっている。他方、「まったく読まない」は 20 歳代が 77.6%と最も高くなっている。

就業形態別で見ると、『随時読んでいる』人は主婦が 50.4%と最も数値が高くなっている。

< 図 7 - 8 : 性別・年齢別・就業形態別 >

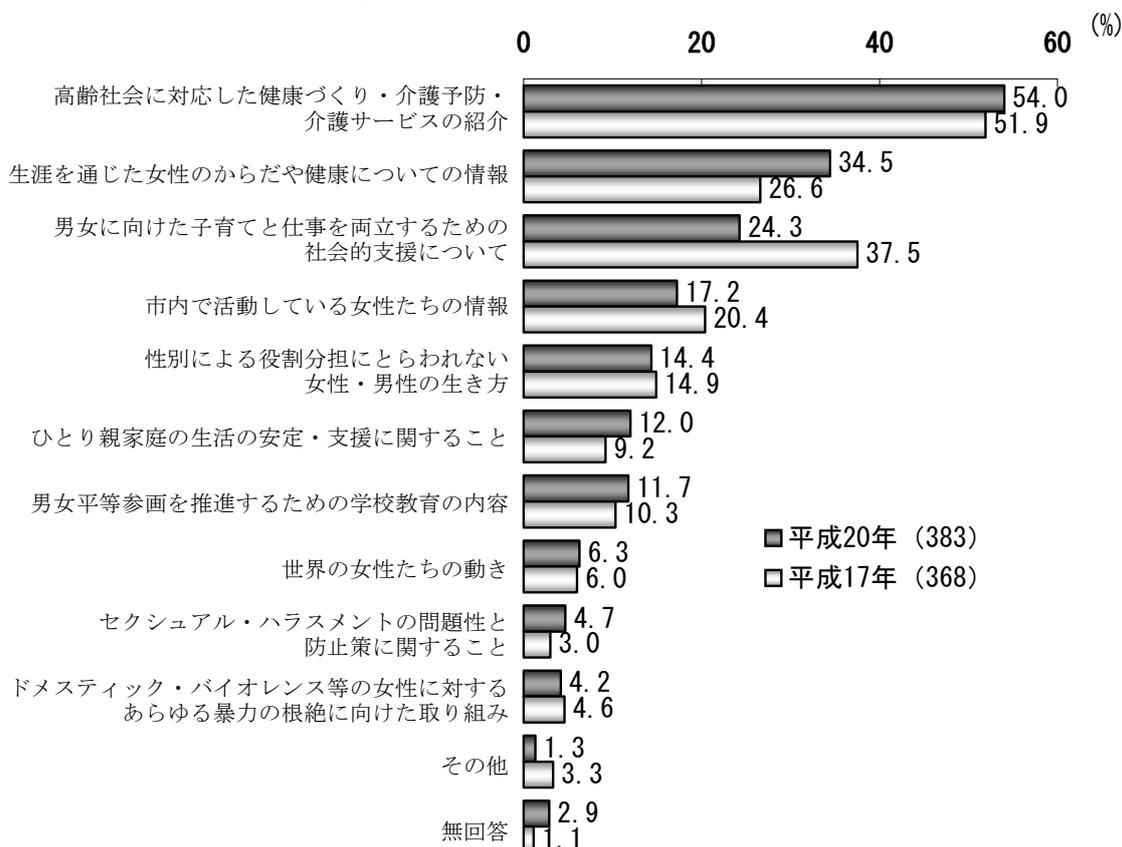


(2-1) 「Ms. スクエア」に取り上げて欲しい記事

SQ1 問13で「①全部読む」、「②関心のあるところだけ読む」、「③たまたま目を通すだけ」とお答えの方にはうかがいます。「Ms. (ミズ)スクエア」に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=383]

<図7-9:「Ms. スクエア」に取り上げて欲しい記事・経年比較>



【全体・経年比較】

「Ms. スクエア」に取り上げて欲しい記事では、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」が 54.0%と最も高く、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」が 34.5%、「男女に向けた子育てと仕事を両立するための社会的支援について」が 24.3%と続いている。

前回調査（平成 17 年）と比較すると、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」が 7.9 ポイント増加している。他方、「男女に向けた子育てと仕事を両立するための社会的支援について」が 13.2 ポイント減少している。

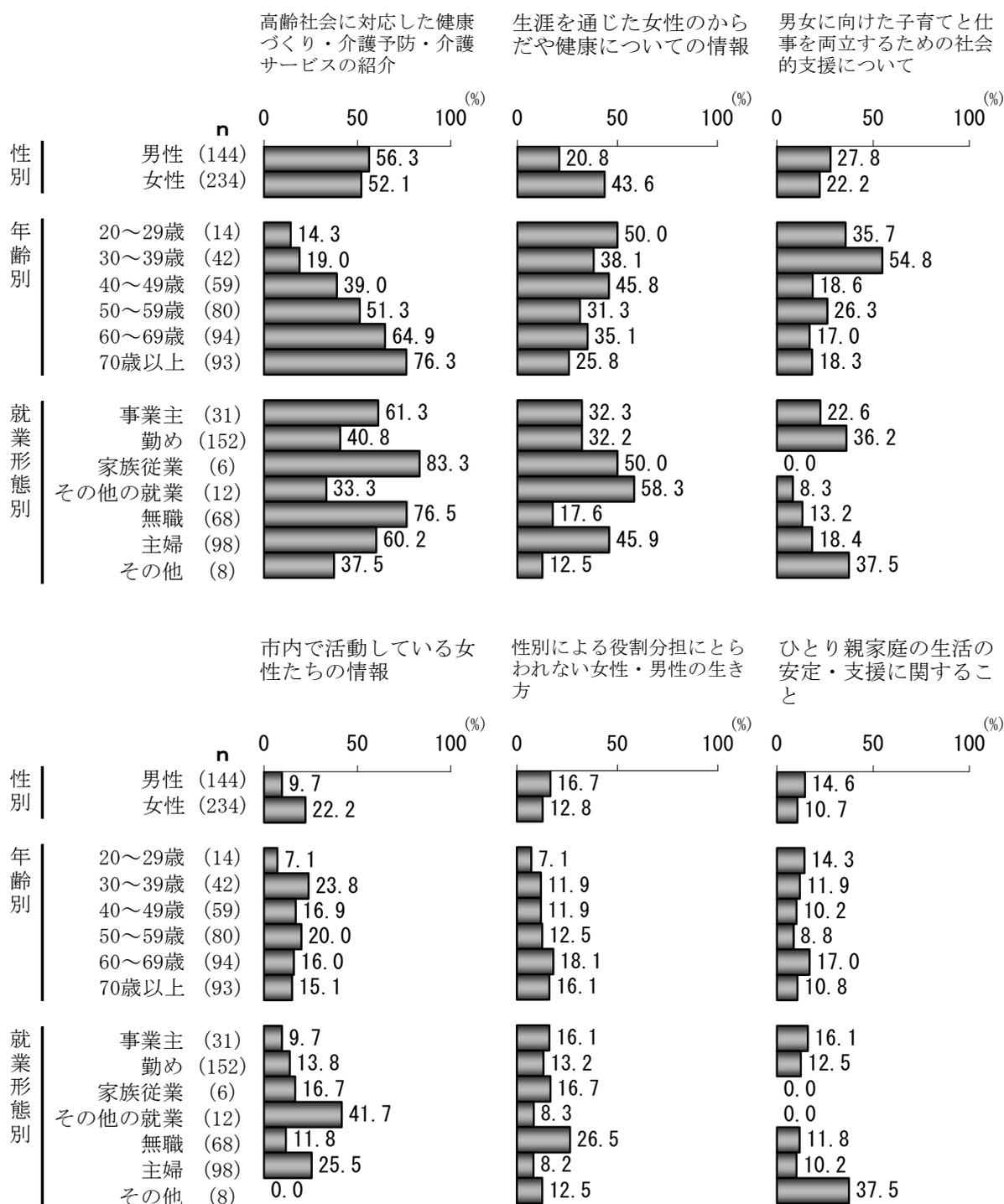
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」が女性（43.6%）、男性（20.8%）、「市内で活動している女性たちの情報」が女性（22.2%）、男性（9.7%）となっており、それぞれ女性が 22.8 ポイント、12.5 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」は70歳以上が他の年齢層と比較して高く、76.3%となっている。また、「男女に向けた子育てと仕事を両立するための社会的支援について」は30歳代が54.8%と最も高くなっている。「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」は20歳代、40歳代で数値が高く、それぞれ50.0%、45.8%となっている。

就業形態別で見ると、「男女に向けた子育てと仕事を両立するための社会的支援について」は勤めで36.2%と他の就業形態より高くなっている。

<図7-10：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>

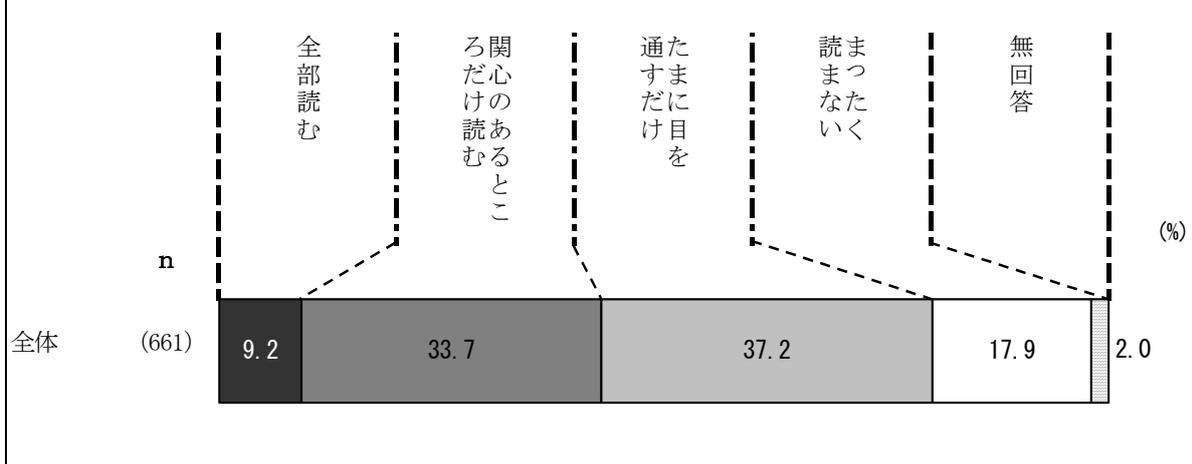


(3) 「きよせ市議会だより」の閲読度

問14 市議会では「きよせ市議会だより」を年4回、戸別配布で皆さんのご家庭にお届けしていますが、あなたはどの程度お読みになっていますか。

[n=661]

<図7-11: 「きよせ市議会だより」の閲読度>



【全体】

「きよせ市議会だより」の閲読度では、「全部読む」が9.2%で、「関心のあるところだけ読む」が33.7%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は42.9%となる。また、「たまに目を通すだけ」が37.2%となっている。

＜表 7-3：「きよせ市議会だより」の閲読度・経年比較＞

| 平成 14 年 [n=652] | 平成 17 年 [n=684] | 平成 20 年 [n=661] |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全部読む (9.7) | 全部読む (10.8) | 全部読む (9.2) |
| 関心のあるところ だけ読む (34.8) | 関心のあるところ だけ読む (33.2) | 関心のあるところ だけ読む (33.7) |
| たまたま目を通すだけ (32.2) | たまたま目を通すだけ (26.9) | たまたま目を通すだけ (37.2) |
| まったく読まない (13.5) | まったく読まない (16.2) | まったく読まない (17.9) |
| 見たことがない (8.3) | 見たことがない (10.2) | |

【経年比較】

前々回調査（平成 14 年）・前回調査（平成 17 年）と比較すると、『随時読んでいる』は漸減する傾向になっている。

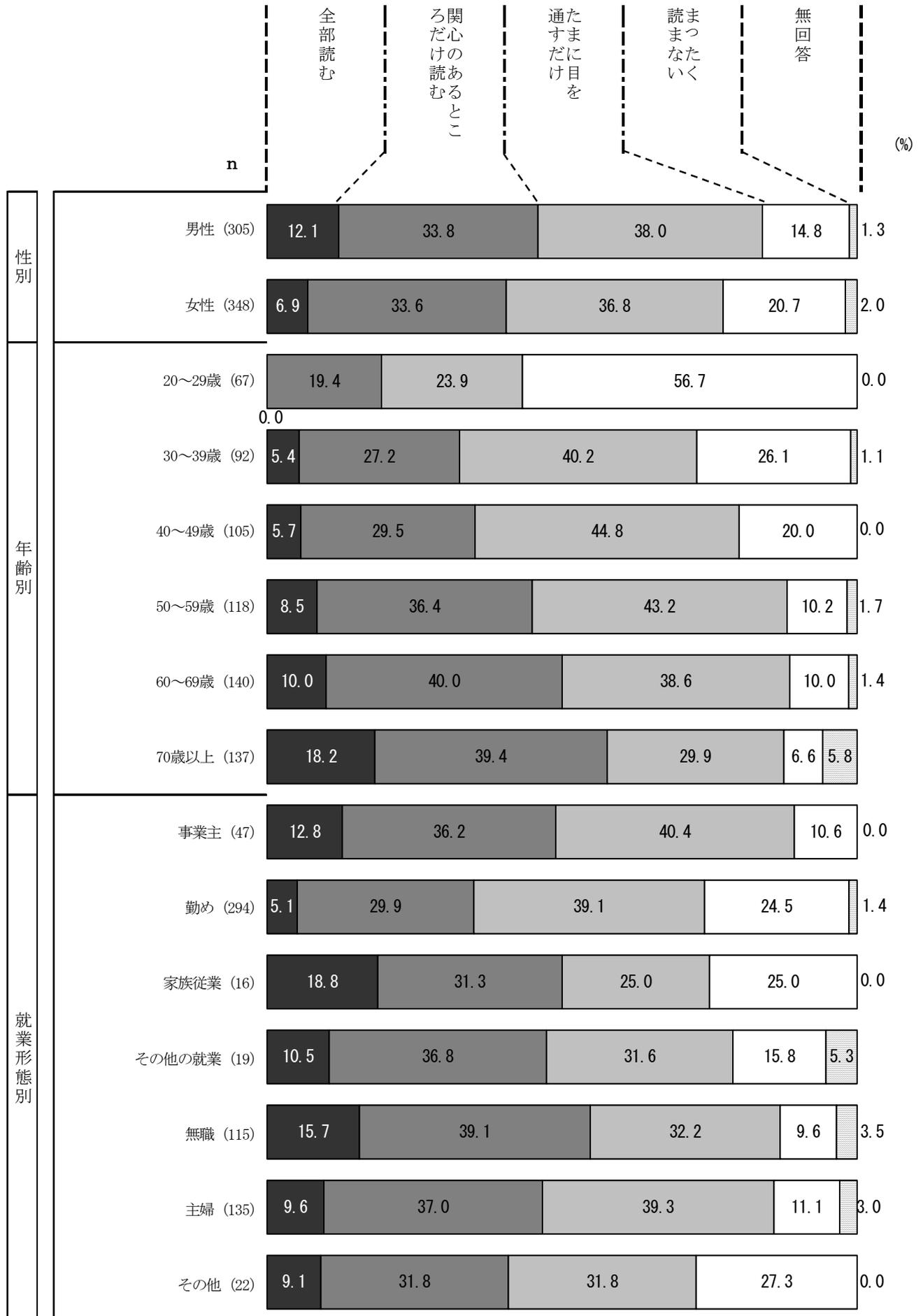
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「全部読む」が男性（12.1%）、女性（6.9%）となっており、男性が 5.2 ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に男性が 5.4 ポイント上回っている。

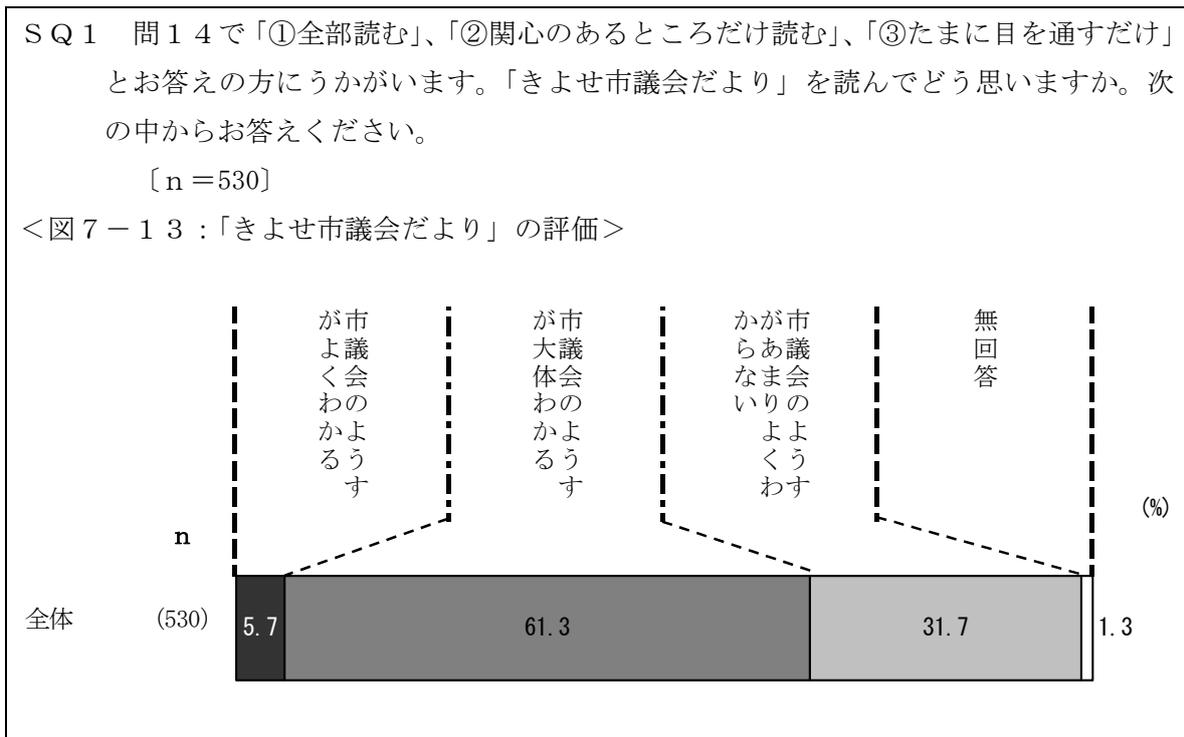
年齢別で見ると、「全部読む」は 70 歳以上が 18.2%と最も高く、年齢が下がるほど漸減する傾向になっている。また、『随時読んでいる』人も 70 歳以上が 57.6%と数値が高く、年齢が下がるほど漸減する傾向になっている。なお、20 歳代は「まったく読まない」が 56.7%と最も高くなっている。

就業形態別で見ると、『随時読んでいる』人は無職が 54.8%と最も高くなっている。また、勤めは『随時読んでいる』人が 35.0%であり、他の就業形態より低くなっている。

<図7-12：性別・年齢別・就業形態別>



(3-1) 「きよせ市議会だより」の評価



【全体】

「きよせ市議会だより」の評価としては、「市議会がわかる」が5.7%で、「市議会が大体わかる」が61.3%である。これら両者を合算すると、『市議会がわかる』人は67.0%となる。一方、「市議会があまりよくわからない」は31.7%となっている。

＜表 7-4：「きよせ市議会だより」の評価・経年比較＞

| 平成 14 年 〔n=500〕 | | 平成 17 年 〔n=485〕 | | 平成 20 年 〔n=530〕 |
|------------------------|---|------------------------|-----|--------------------------|
| 市議会のようによくわかる (3.2) | → | 市議会のようによくわかる (4.7) | → | 市議会のようによくわかる (5.7) |
| 市議会のように大体わかる (57.8) | → | 市議会のように大体わかる (55.9) | → | 市議会のように大体わかる (61.3) |
| 市議会のようによくわからない (35.8) | → | 市議会のようによくわからない (35.7) | --- | 市議会のようにあまりよくわからない (31.7) |
| 市議会のようにまったくわからない (1.6) | → | 市議会のようにまったくわからない (1.0) | | |

【経年比較】

前々回調査（平成 14 年）・前回調査（平成 17 年）と比較すると、『ようすがわかる』人は漸増する傾向になっている。

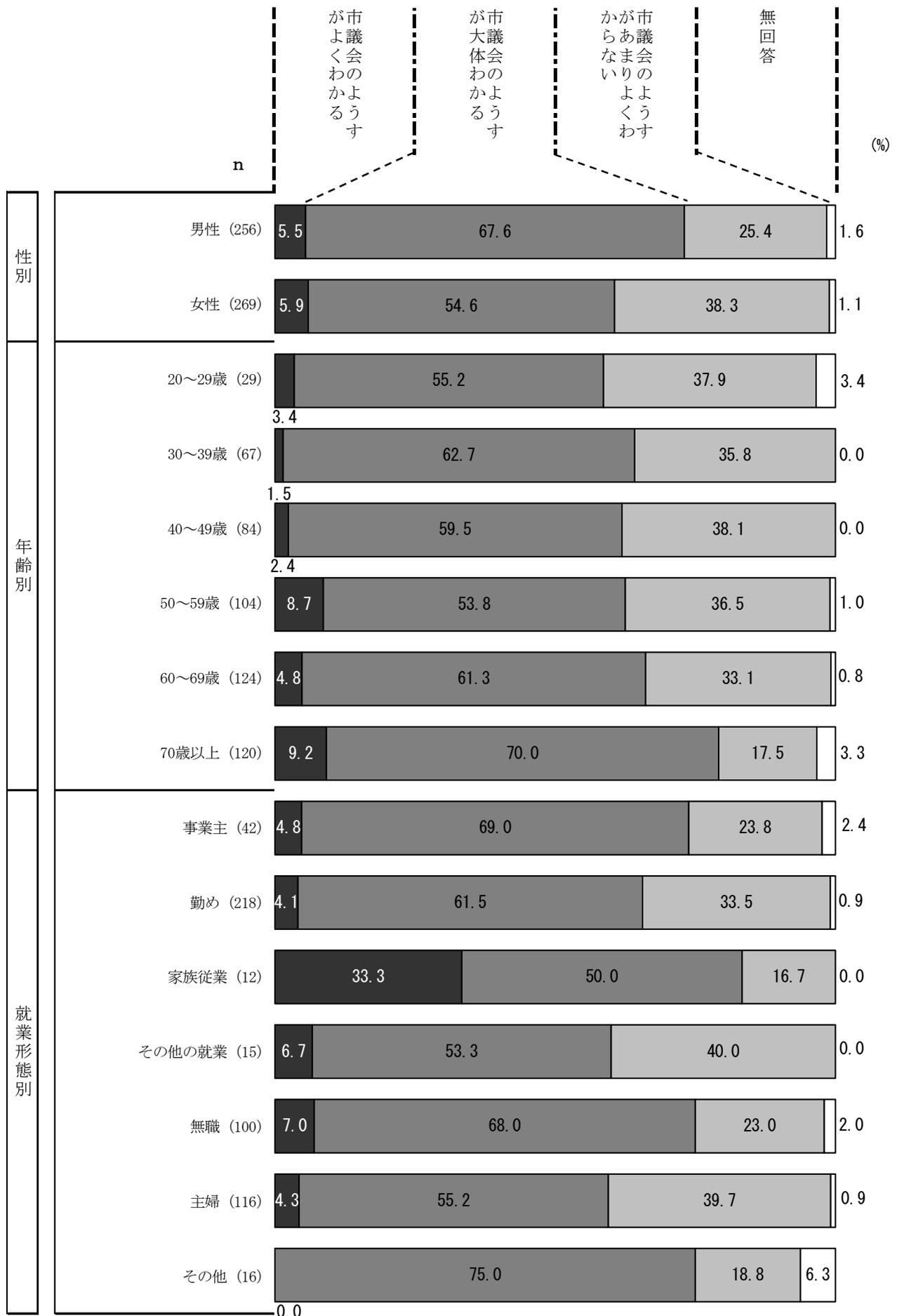
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、『ようすがわかる』人が男性（73.1%）、女性（60.5%）となっており、男性が 12.6 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、『ようすがわかる』人は、70 歳以上が 79.2%と最も高くなっている。

就業形態別で見ると、「市議会のようによくわかる」は家族従業が 33.3%となっており、最も高くなっている。

< 図 7 - 1 4 : 性別・年齢別・就業形態別 >

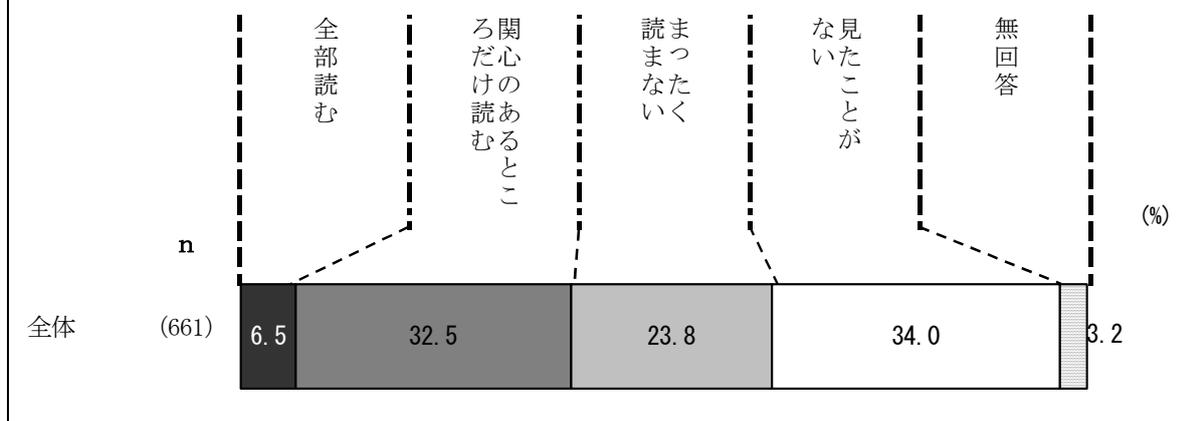


(4) 「教育委員会だよりきよせ」の閲読度

問 1 5 教育委員会では「教育委員会だよりきよせ」を年 2 回、新聞折り込み等で皆様のご家庭にお届けしていますが、あなたはどの程度お読みになっていますか。

[n = 661]

<図 7-15 : 「教育委員会だよりきよせ」の閲読度>



【全体】

「教育委員会だよりきよせ」の閲読度では、「全部読む」が 6.5%で、「関心のあるところだけ読む」が 32.5%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は 39.0%となる。一方、「見たことがない」が 34.0%、「まったく読まない」が 23.8%となっており、両者を合算すると、『読んでいない』人は 57.8%となっている。

<表 7-5 : 「教育委員会だよりきよせ」の閲読度・経年比較>

| 平成 17 年 [n = 684] | 平成 20 年 [n = 661] |
|-------------------------|-------------------------|
| 全部読む (7.6) | 全部読む (6.5) |
| 関心のあるところ だけ読む (18.1) | 関心のあるところ だけ読む (32.5) |
| たまた目に通すだけ (24.9) | |
| まったく読まない (23.8) | まったく読まない (23.8) |
| 見たことがない (22.1) | 見たことがない (34.0) |

【経年比較】

前回調査(平成 17 年)と比較すると、「関心のあるところだけ読む」が 14.4 ポイント増加している。

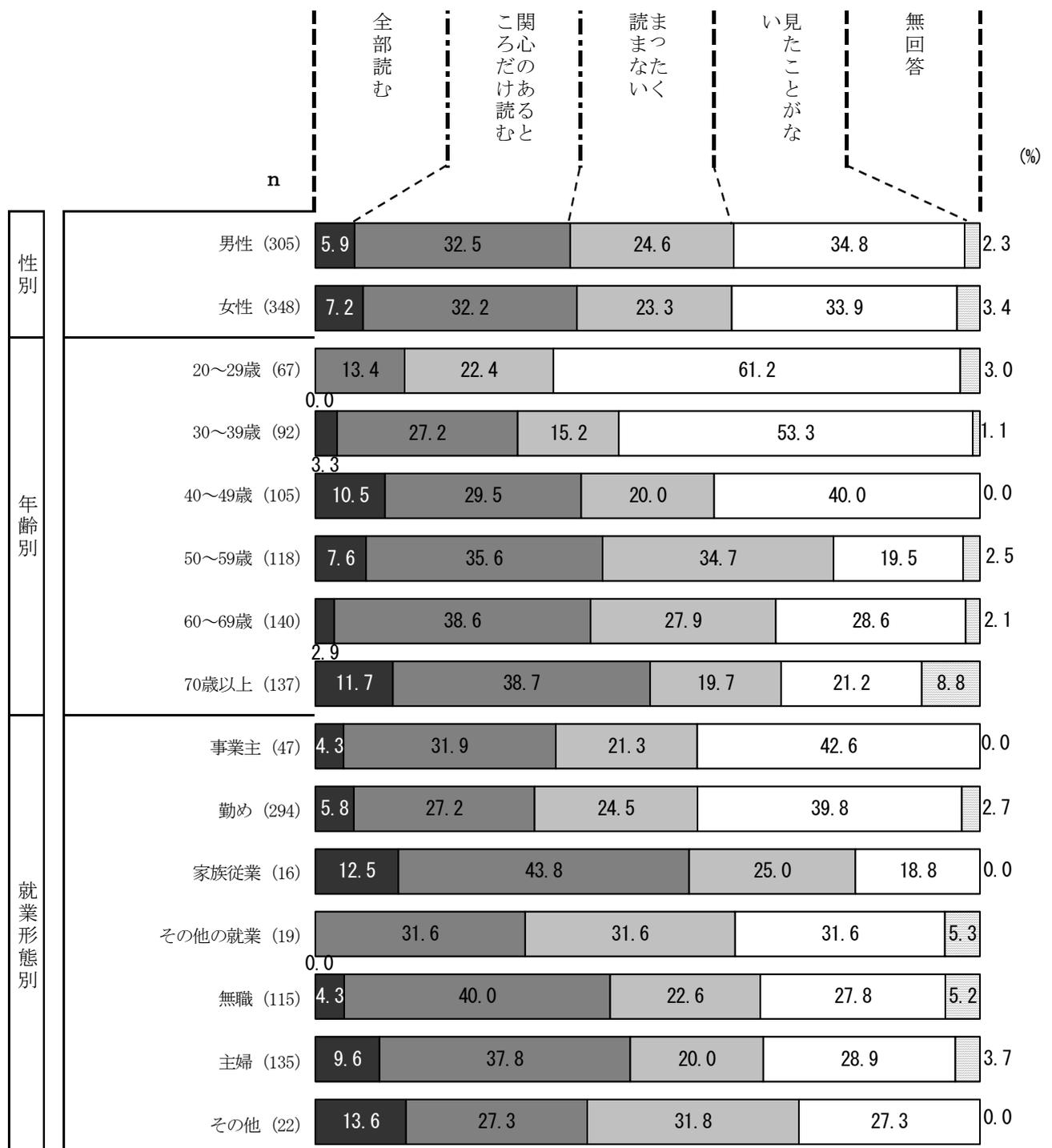
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「全部読む」は40歳代、70歳以上がそれぞれ10.5%、11.7%と他の年齢層と比較して高くなっている。また、「見たことがない」は20歳代、30歳代がそれぞれ61.2%、53.3%と高くなっている。

就業形態別でみると、「見たことがない」は事業主で42.6%と高くなっている。

<図7-16：性別・年齢別・就業形態別>

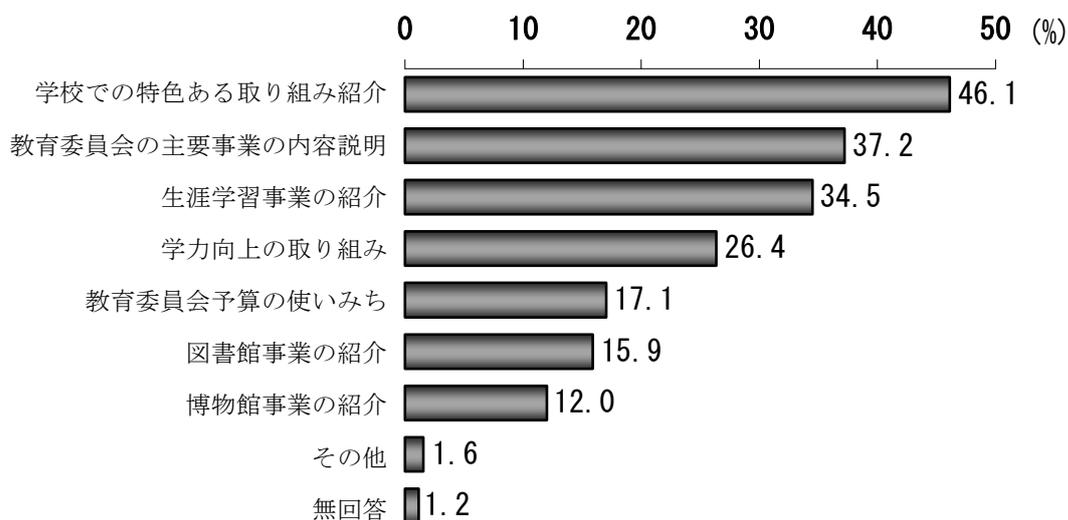


(4-1) 「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事

SQ1 問15で「①全部読む」、「②関心のあるところだけ読む」とお答えの方にかがいます。「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=258]

<図7-17:「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事>



【全体】

「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事では、「学校での特色ある取り組み紹介」が46.1%と最も高く、次いで、「教育委員会の主要事業の内容説明」が37.2%、「生涯学習事業の紹介」が34.5%と続いている。

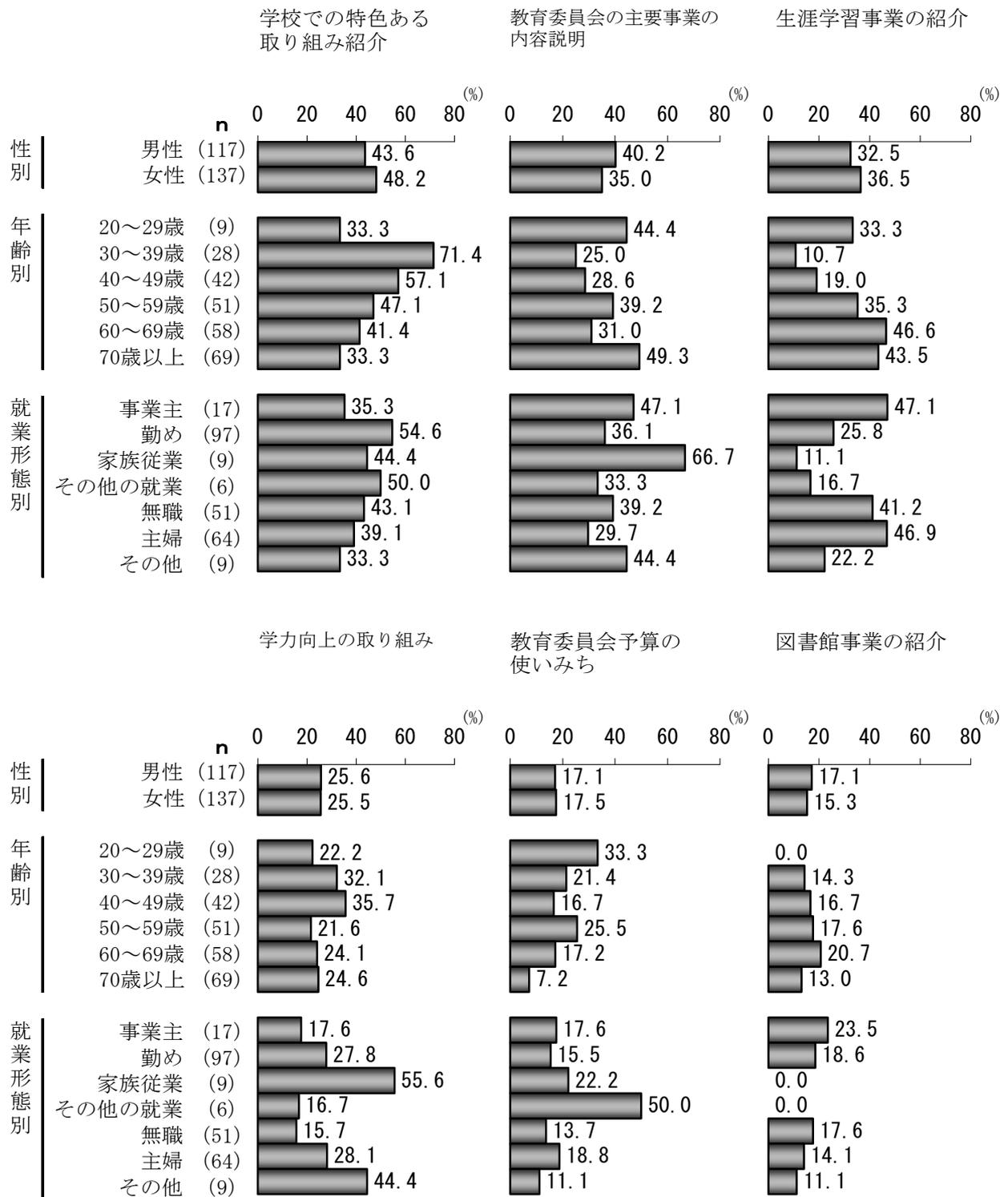
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「学校での特色ある取り組み紹介」は30歳代が71.4%、「教育委員会の主要事業の内容説明」は20歳代、70歳以上でそれぞれ44.4%、49.3%、「生涯学習事業の紹介」は60歳代、70歳以上でそれぞれ46.6%、43.5%と高くなっている。

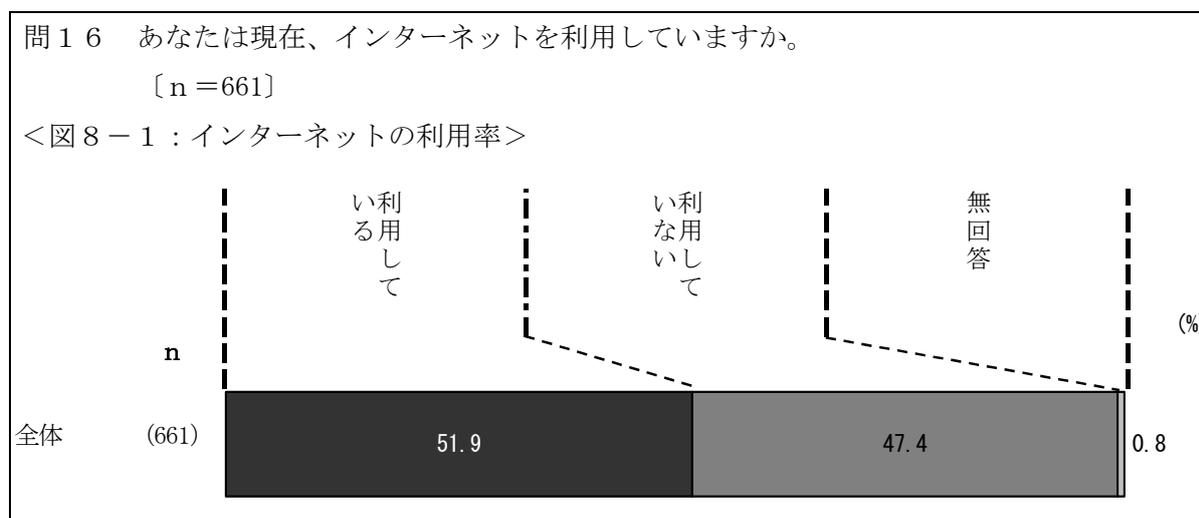
就業形態別でみると、「生涯学習事業の紹介」は事業主が47.1%、主婦が46.9%であり、他の就業形態と比較して高くなっている。

<図7-18：性別・年齢別・就業形態別：上位6項目>



8 インターネット環境

(1) インターネットの利用率



【全体】

インターネットの利用率は、「利用している」が51.9%で5割強を占めている。一方、「利用していない」は47.4%となっている。

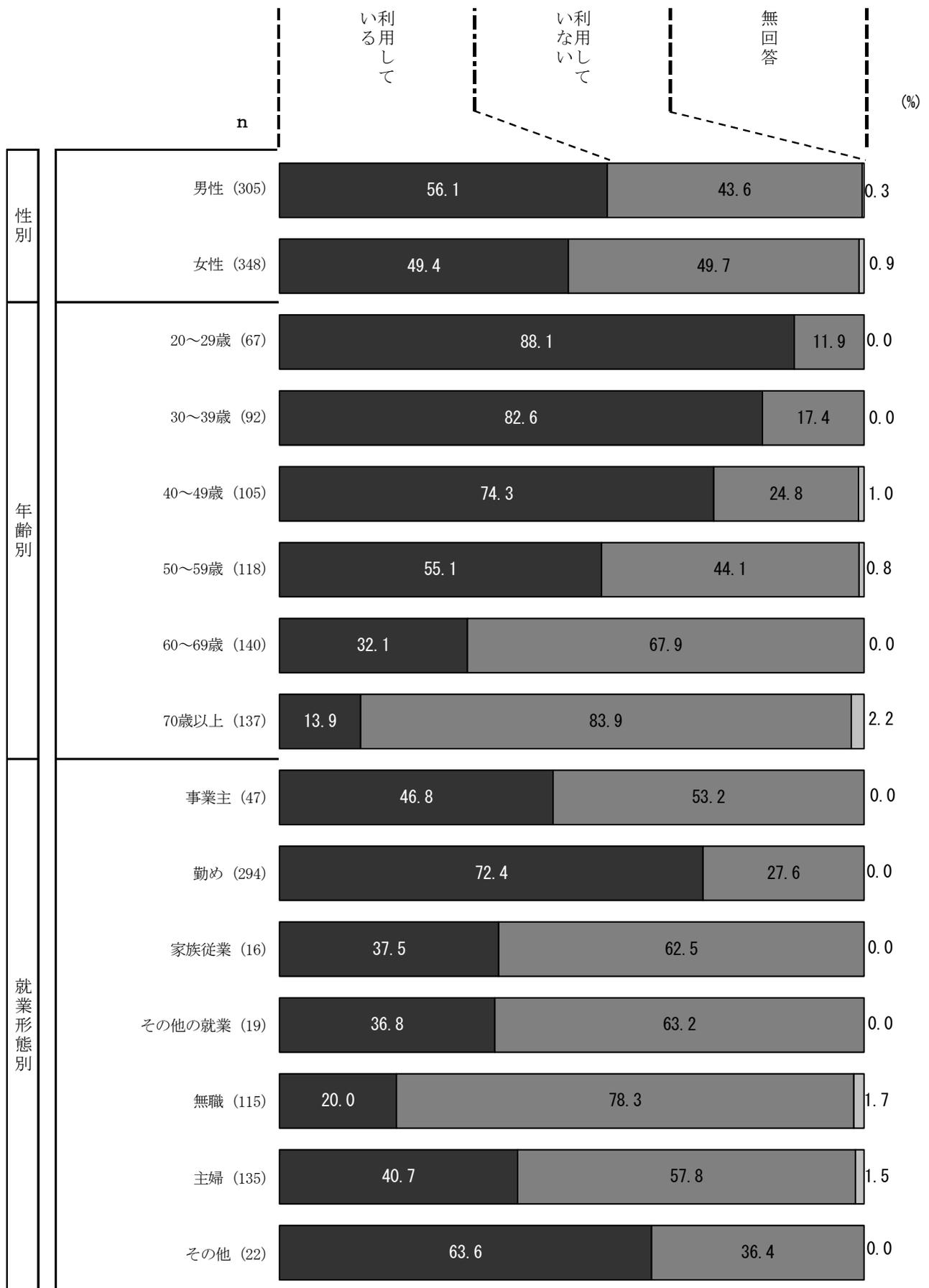
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「利用している」が男性（56.1%）、女性（49.4%）となっており、男性が6.7ポイント上回っている。

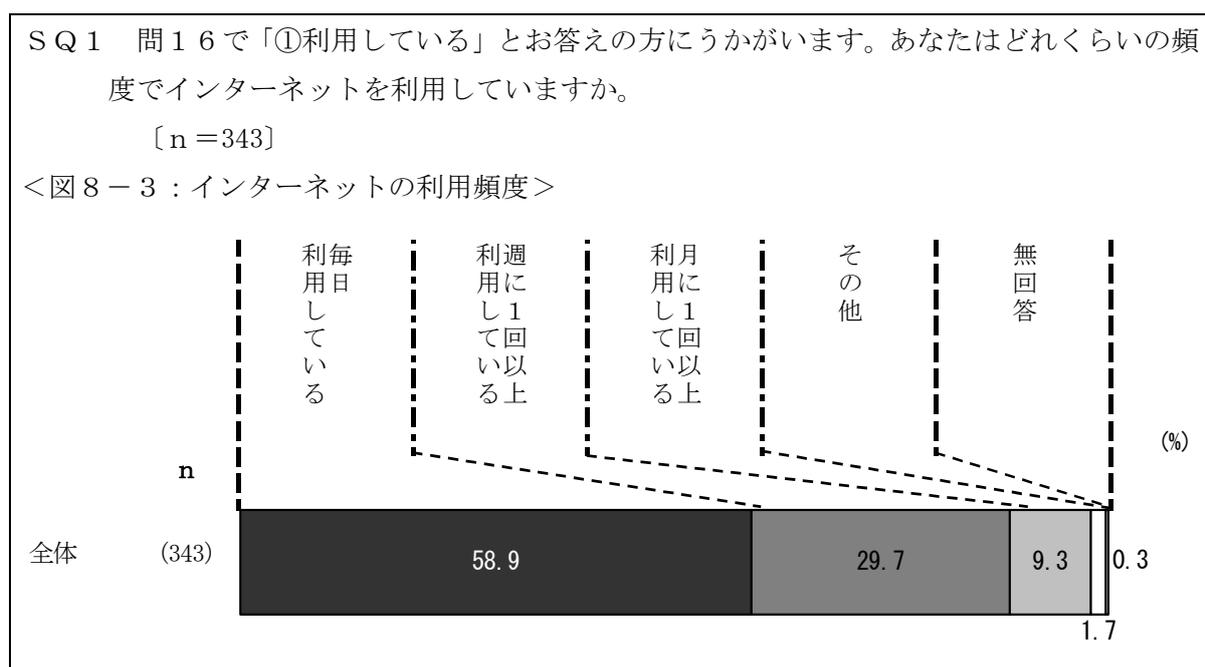
年齢別で見ると、「利用している」は20歳代が88.1%と最も高くなっており、年齢が上がるほど減少する傾向にある。

就業形態別で見ると、「利用している」は勤めが72.4%と最も高くなっている。

< 図 8 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別 >



(1-1) インターネットの利用頻度

**【全体】**

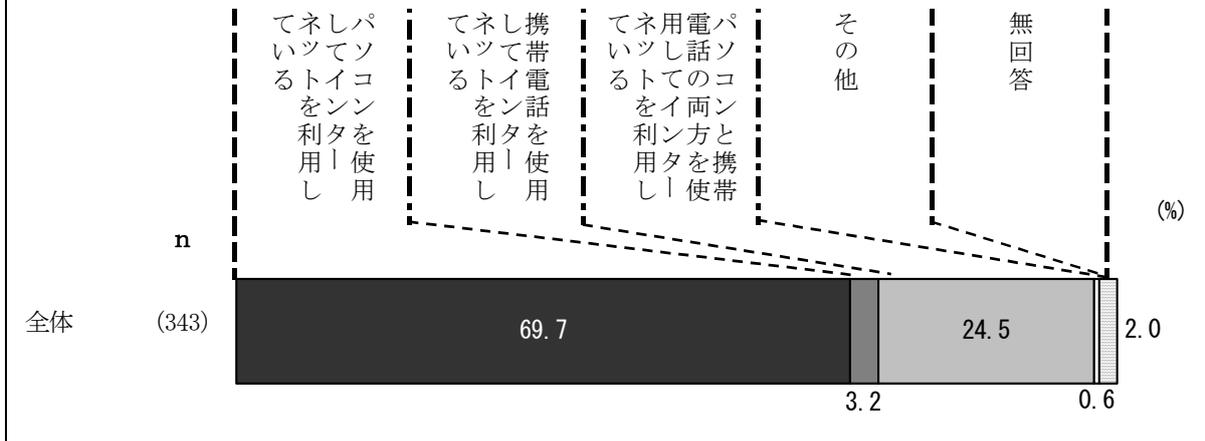
インターネットの利用頻度は、「毎日利用している」が 58.9%と最も高く、「週に1回以上利用している」が 29.7%、「月に1回以上利用している」が 9.3%となっている。

(1-2) インターネットの使用機器

SQ2 問16で「①利用している」とお答えの方にかがいます。あなたはどのような機器を使用してインターネットを利用していますか。

[n=343]

<図8-4：インターネットの使用機器>



【全体】

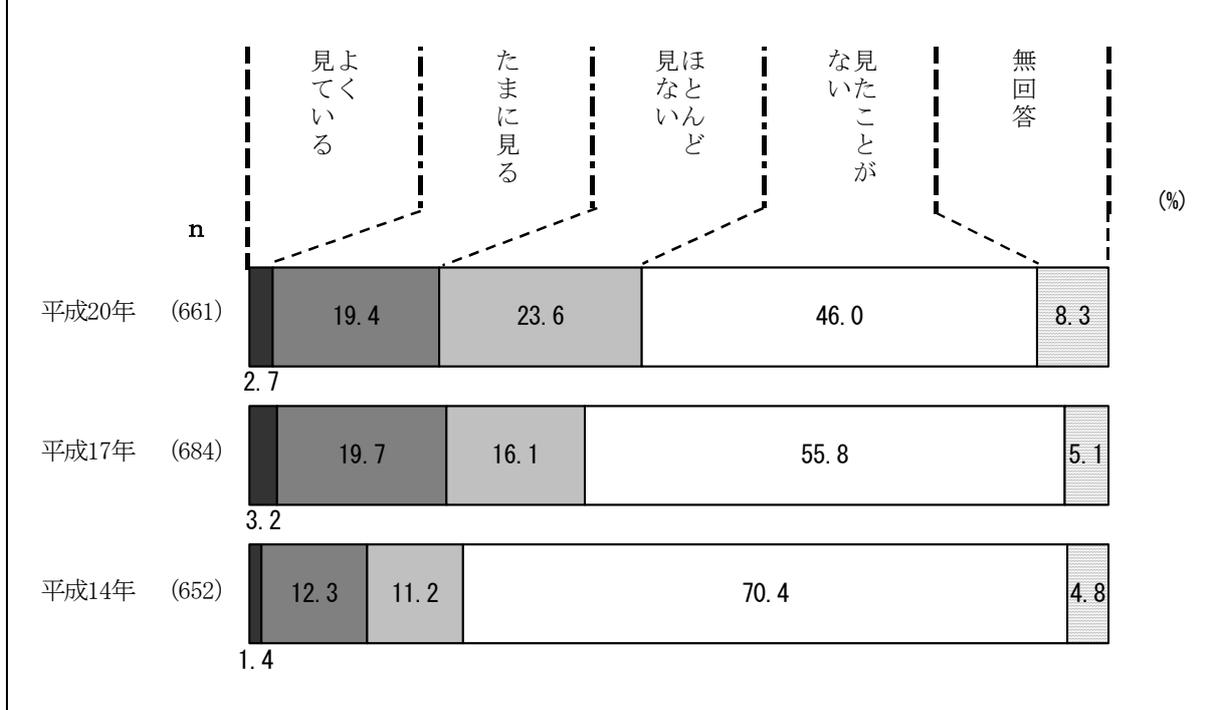
インターネットの使用機器は、「パソコンを使用してインターネットを利用している」が69.7%、「携帯電話を使用してインターネットを利用している」が3.2%、「パソコンと携帯電話の両方を使用してインターネットを利用している」が24.5%となっている。

(2) 清瀬市ホームページ閲覧の頻度

問17 市では、清瀬市ホームページを開設していますが、あなたは、このホームページをご覧になったことがありますか。

[n=661]

<図8-5：清瀬市ホームページ閲覧の頻度：経年比較>



【全体・経年比較】

清瀬市ホームページ閲覧の頻度は、「よく見ている」が2.7%で、「たまに見る」が19.4%となっており、両者を合算した『見ている』人は22.1%となっている。一方、「見たことがない」は46.0%となっている。

前々回調査（平成14年）・前回調査（平成17年）と比較すると、「見たことがない」が減少傾向にあり、前回調査より9.8ポイント、前々回調査より24.4ポイント減少している。

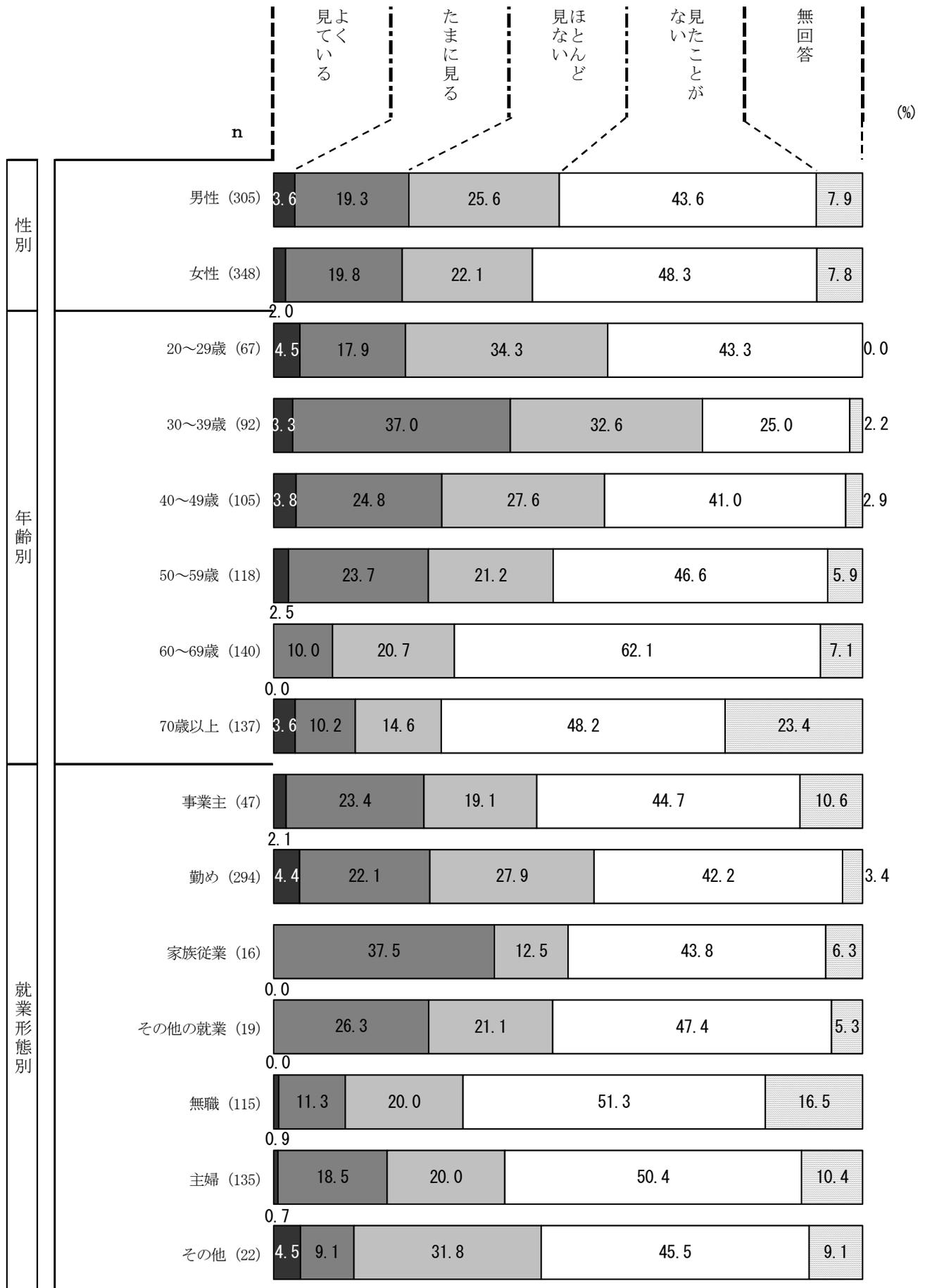
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、『見ている』人は30歳代で最も高く40.3%となっている。他方、「見たことがない」は60歳代で62.1%と高くなっている。

就業形態別で見ると、『見ている』人は家族従業で最も高く37.5%となっており、「見たことがない」は無職、主婦で高く、それぞれ51.3%、50.4%となっている。

<図 8-6 : 性別・年齢別・就業形態別>

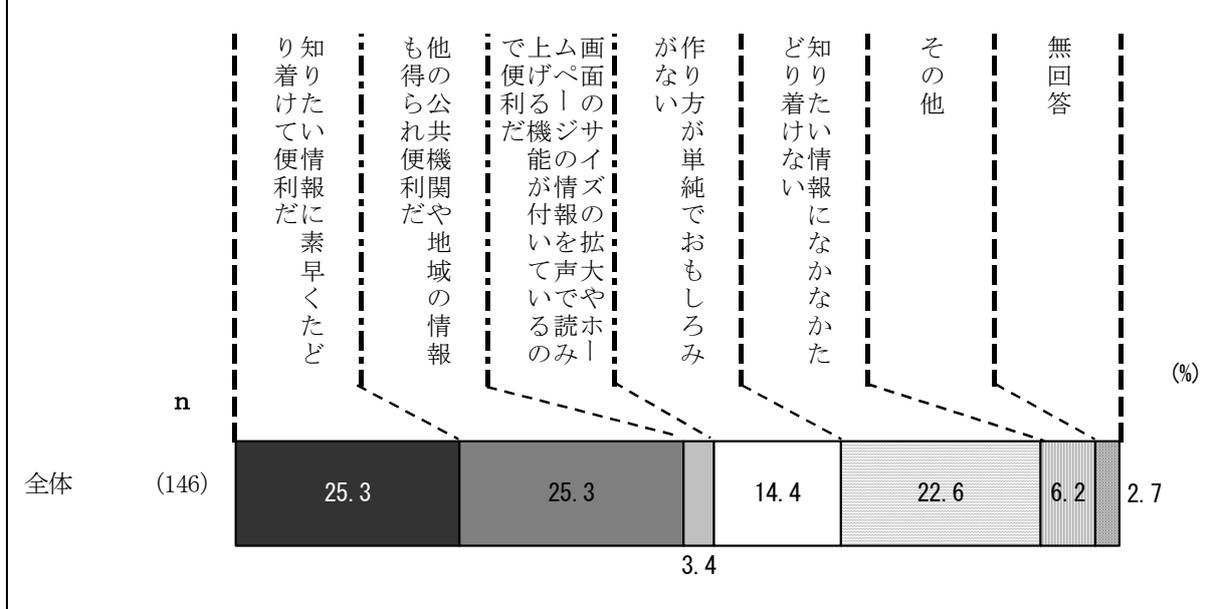


(2-1) 清瀬市ホームページの印象

SQ1 問17で「①よく見ている」、「②たまに見る」とお答えの方にはうかがいます。市のホームページの印象はいかがですか。

[n=146]

<図8-7：清瀬市ホームページの印象>



【全体】

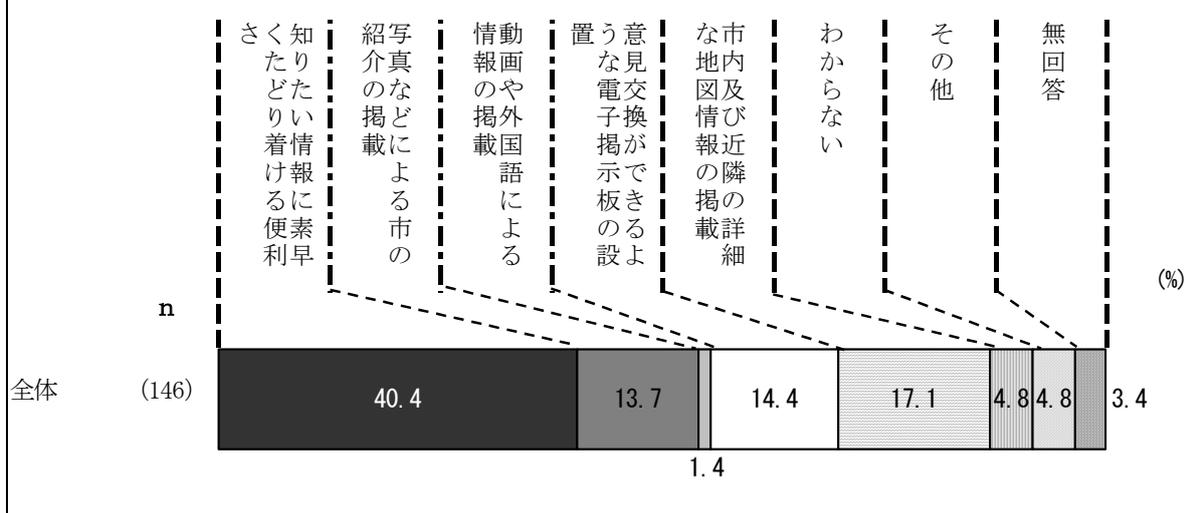
清瀬市のホームページの印象は、「知りたい情報に素早くたどり着けて便利だ」と「他の公共機関や地域の情報も得られ便利だ」が25.3%と最も高くなっている。「知りたい情報になかなかたどり着けない」は22.6%、「作り方が単純でおもしろみがない」は14.4%となっている。

(2-2) 清瀬市ホームページに対する要望

S Q 2 問17で「①よく見ている」、「②たまに見る」とお答えの方にかがいます。今後、清瀬市ホームページにどのようなことを望みますか。

[n=146]

<図8-8：清瀬市ホームページに対する要望>



【全体】

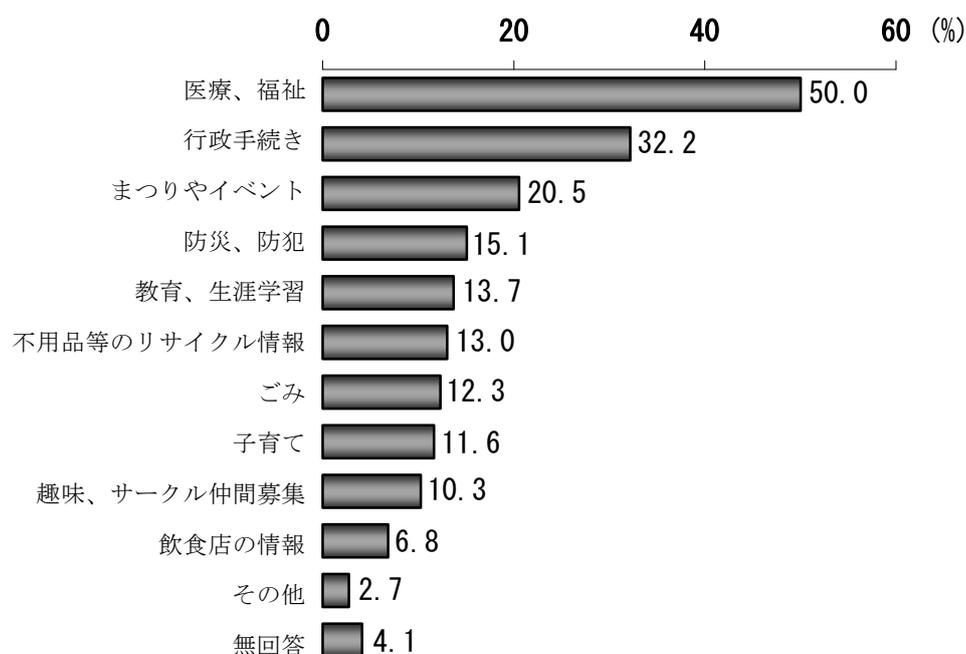
清瀬市ホームページに対する要望としては、「知りたい情報に素早くたどり着ける便利さ」が40.4%と最も高くなっている。次いで「市内及び近隣の詳細な地図情報の掲載」が17.1%、「意見交換ができるような電子掲示板の設置」が14.4%、「写真などによる市の紹介の掲載」が13.7%と続いている。

(2-3) 清瀬市ホームページで知りたい情報

SQ3 問17で「①よく見ている」、「②たまに見る」とお答えの方にかがいます。あなたはホームページでどのような情報を知りたいですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=146]

<図8-9：清瀬市ホームページで知りたい情報>



【全体】

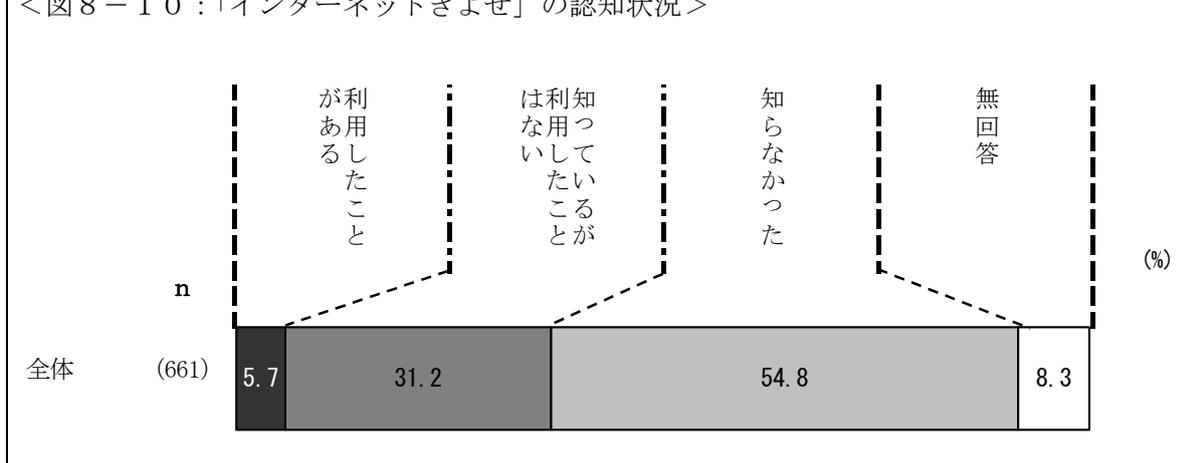
清瀬市ホームページで知りたい情報としては、「医療、福祉」が 50.0%と最も高くなっている。次いで「行政手続き」が 32.2%、「まつりやイベント」が 20.5%と続いている。

(3) 「インターネットきよせ」の認知状況

問 18 市では、市民の皆さんにご利用いただけるよう各公共施設に、市や他市などのホームページが閲覧できる「インターネットきよせ」端末を設置していますが、ご存知でしたか。

[n = 661]

<図 8-10 : 「インターネットきよせ」の認知状況>



【全体】

「インターネットきよせ」の認知状況については、「利用したことがある」が 5.7%と少数であり、「知っているが利用したことはない」の 31.2%と合算すると、『知っている』人は 36.9%になる。他方、「知らなかった」は 54.8%となっている。

<表 8-1 : 「インターネットきよせ」の認知状況・経年比較>

| 平成 17 年 [n = 684] | | 平成 20 年 [n = 661] |
|----------------------------|---|----------------------------|
| 利用したこともあり よく知っている (5.7) | → | 利用したことがある (5.7) |
| 利用したことはないが 知っている (32.9) | → | 知っているが利用した ことはない (31.2) |
| 知らなかった (56.3) | → | 知らなかった (54.8) |

【経年比較】

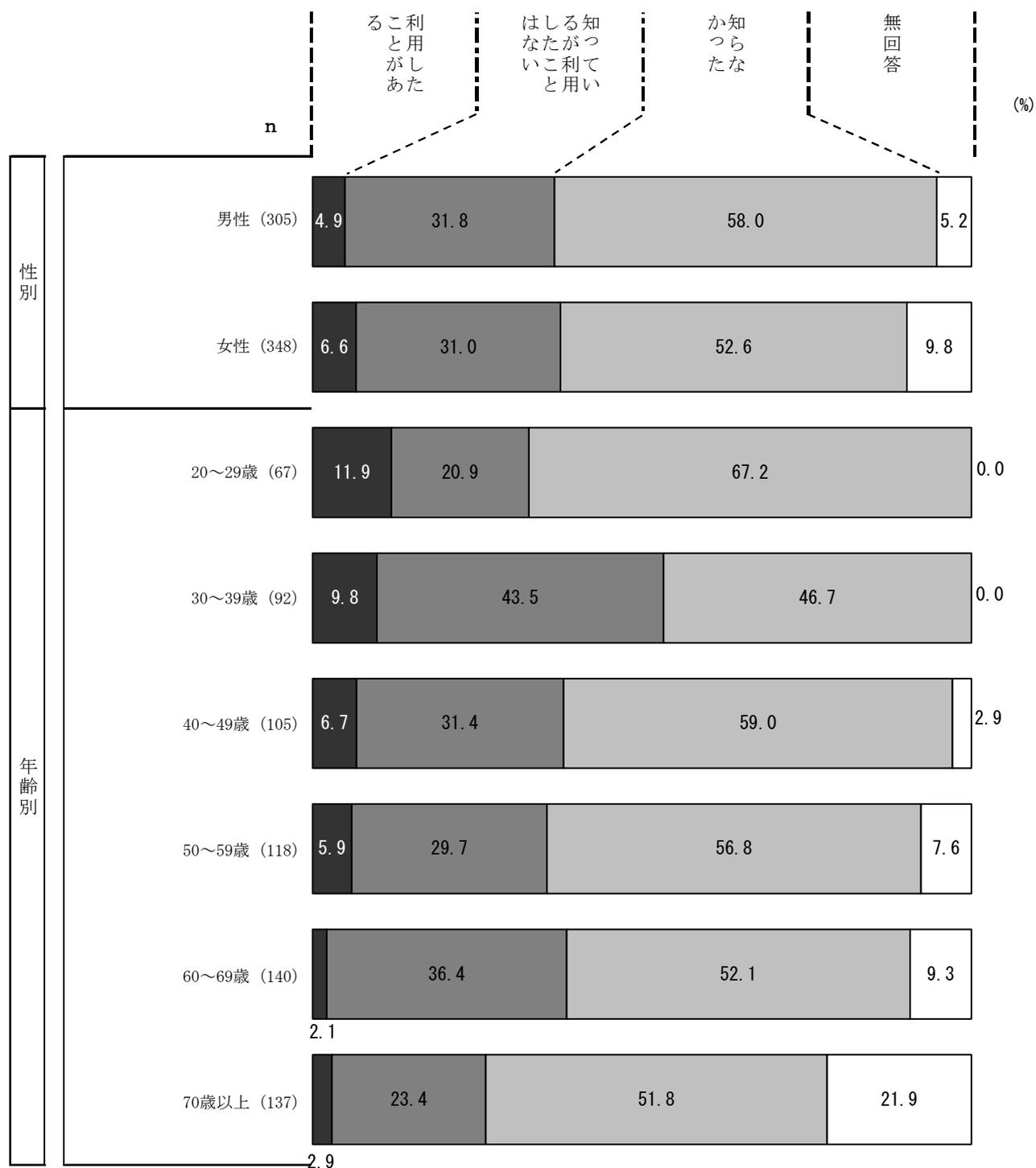
前回調査（平成 17 年）と比較すると、『知っている』人が 1.7 ポイント減少しているが、大きな変化はみられない。

【性別・年齢別】

性別では、「知らなかった」が男性（58.0%）、女性（52.6%）となっており、男性が5.4ポイント上回っている。

年齢別でみると、『知っている』人は30歳代が53.3%と最も高くなっている。他方、「知らなかった」は20歳代が67.2%と他の年齢層よりも高くなっている。

<図8-11：性別・年齢別>



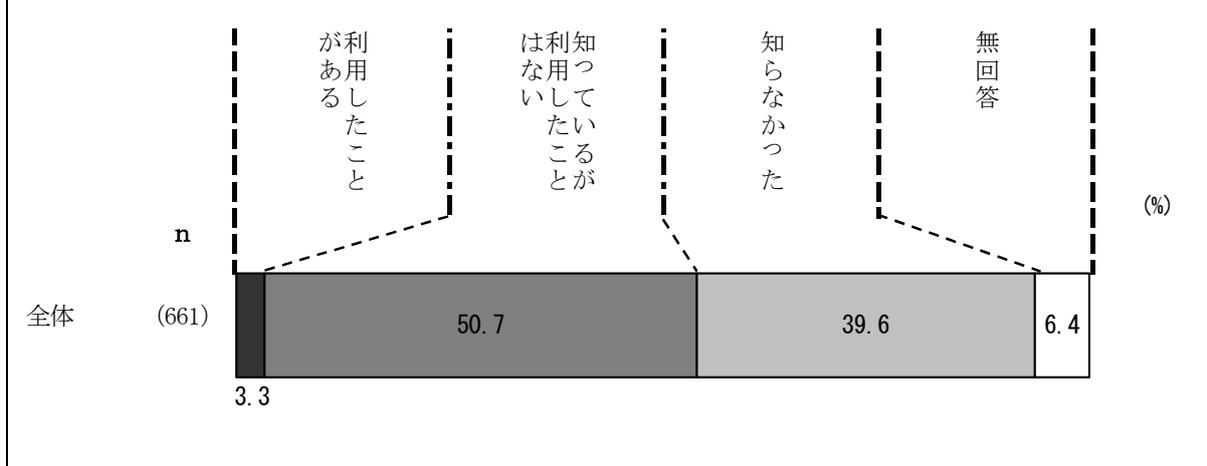
9 電子自治体

(1) 電子申請サービスの認知状況

問19 市では、住民票の写しや税務の諸証明などの交付申請をインターネットからできる電子申請サービスを実施していますが、ご存知でしたか。

[n=661]

<図9-1：電子申請サービスの認知状況>



【全体】

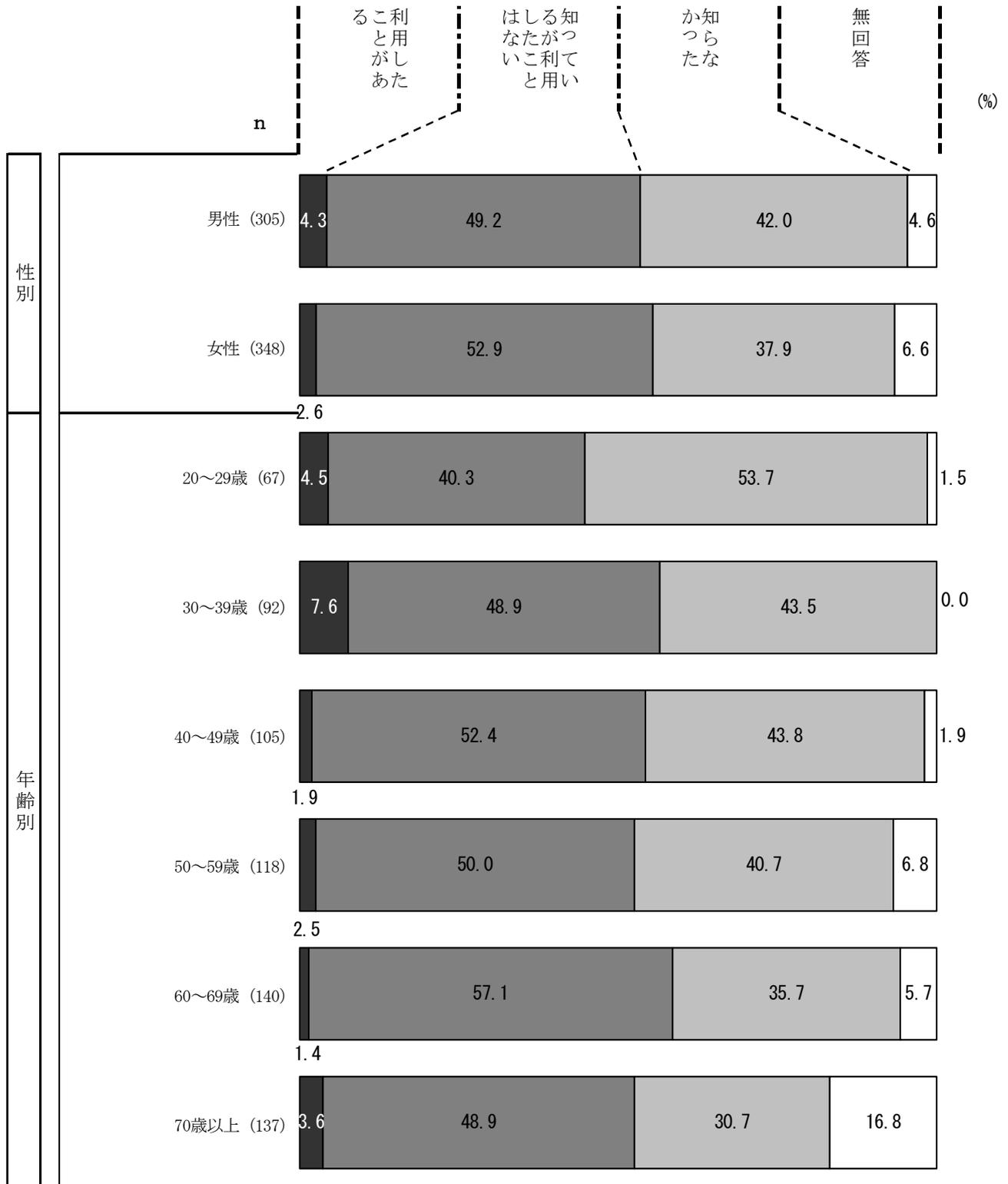
電子申請サービスの認知状況については、「利用したことがある」が3.3%と少数であり、「知っているが利用したことはない」の50.7%と合算すると、『知っている』人は54.0%であり、5割強を占めている。他方、「知らなかった」は39.6%となっている。

【性別・年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、20歳代で「知らなかった」が53.7%と他の年齢層と比較して高くなっている。

<図9-2:性別・年齢別>



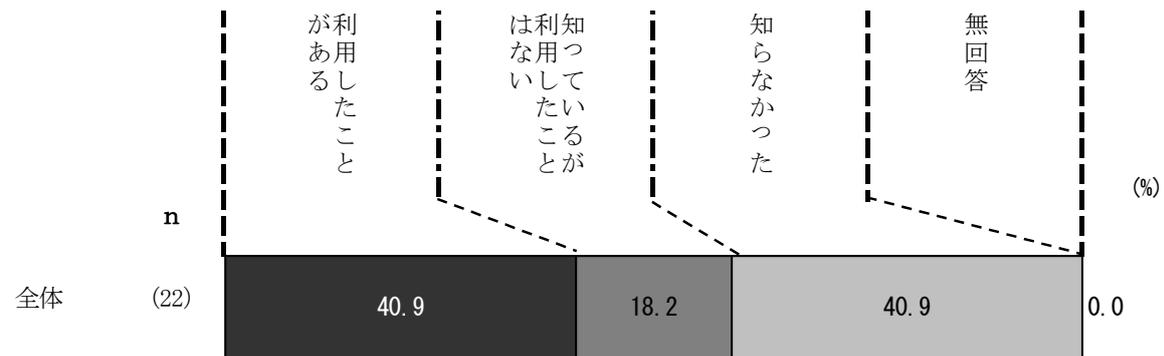
(1-1) 受け取り可能時間の認知状況

S Q 1 問19で「①利用したことがある」とお答えの方にかがいます。

電子申請ができる手続きのうち、住民票の写しや税務の諸証明の交付申請等の一部のものは、各公共施設で午後9時までの受け取りが可能なおことをご存知でしたか。

[n=22]

<図9-3：受け取り可能時間の認知状況>



【全体】

受け取り可能時間の認知状況については、「利用したことがある」が40.9%であり、「知っているが利用したことはない」の18.2%を合算すると、『知っている』人は59.1%になる。

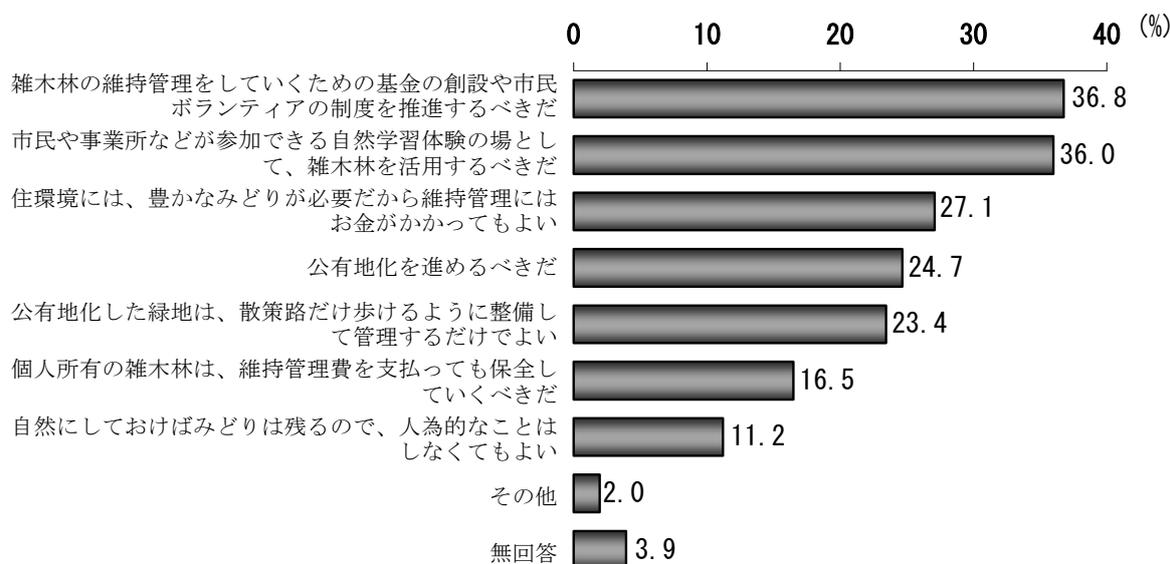
10 緑の保全・育成

(1) 緑の保全・育成の考え方

問20 あなたは、みどりの保全や維持管理などについて、どのようにお考えですか。次の中から2つまでお答えください。

[n=661]

<図10-1：緑の保全・育成の考え方>



【全体】

緑の保全や維持管理についての考え方については、「雑木林の維持管理をしていくための基金の創設や市民ボランティアの制度を推進するべきだ」が36.8%で最も高く、次いで「市民や事業所などが参加できる自然学習体験の場として、雑木林を活用するべきだ」が36.0%、「住環境には、豊かなみどりが必要だから維持管理にはお金がかかってもよい」が27.1%と続いている。

【性別・年齢別・町名別】

性別で見ると、「公有地化を進めるべきだ」が男性（28.5%）、女性（21.6%）となっており、男性が6.9ポイント上回っている。他方、「市民や事業所などが参加できる自然学習体験の場として、雑木林を活用するべきだ」は女性（39.7%）、男性（32.5%）となっており、女性が7.2ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「雑木林の維持管理をしていくための基金の創設や市民ボランティアの制度を推進するべきだ」は50歳代で47.5%、「市民や事業所などが参加できる自然学習体験の場として、雑木林を活用するべきだ」は30歳代で50.0%と他の年齢層より高くなっている。

町名別で見ると、「雑木林の維持管理をしていくための基金の創設や市民ボランティアの制度を推進するべきだ」は梅園が64.0%で最も高い。

<図10-2：性別・年齢別・町名別：上位6項目>

